

經 營 学 部

履 修 要 項

昭 和 63 年 度

駒 澤 大 學

# 学 年 暦

## 前 期

- 4月 8日 (金) 入学式
- 9日 (土) } 新入生オリエンテーション
- 14日 (木) }
- 9日 (土) } 在校生身分証明登録
- 20日 (水) }
- 11日 (月) } 在校生成績発表
- 12日 (火) }
- 11日 (月) } 体育実技Ⅱ受講届 (種目選択届)
- 12日 (火) } 受付 (学部2年次生)
- 13日 (水) } 在校生成績質疑応答
- 21日 (木) }
- 15日 (金) 前期授業開始
- 22日 (金) } 履修届受付 (学部・短大)
- 27日 (水) } (学部により受付日が異なる)
- 5月 9日 (月) } 春季健康診断 (卒業年次生対象)
- 13日 (金) }
- 25日 (水) } 卒業論文論題受付 (仏教・文学部の4年次生) (締切日は正午まで)
- 6月10日 (金) }
- 7月 6日 (水) } 外国語指定届受付 (仏教・文 (除英米文)・法学部・短大国文・英文の1年次生および経済学部の2年次生)
- 12日 (火) }
- 14日 (木) } 中間試験 (授業平常どおり)
- 20日 (水) }
- 20日 (水) 前期授業最終日
- 21日 (木) } 前期終了科目定期試験
- 22日 (金) }
- 23日 (土) 夏季休暇第1日 (9月14日まで)
- 23日 (土) } 体育実技Ⅱ集中授業コース
- 27日 (水) } (学部2年次生)
- 26日 (火) } 前期終了科目定期試験欠試届 (追試験申込) 受付締切

## 後 期

- 9月 7日 (水) } 補講期間
- 14日 (水) }
- 16日 (金) 後期授業開始
- 17日 (土) } 前期終了科目定期試験成績発表 (質疑応答) および再試験申込受付
- 19日 (月) }

- 26日 (月) } 前期終了科目追・再試験
- 10月 1日 (土) } (授業平常どおり)
- 3日 (月) }
- 6日 (木) } 秋季健康診断 (卒業年次生以外対象)
- 4日 (火) } 専攻コース指定届受付
- 5日 (水) } (歴史・社会学科の1年次生)
- 15日 (土) 第106回開校記念日 (全学休業)
- 11月 9日 (水) } 転部・転科願書受付
- 11日 (金) }
- 25日 (金) 転部・転科試験
- 12月 1日 (木) } 卒業論文受付 (仏教・文学部の4年次生) (締切日は正午まで)
- 10日 (土) }
- 5日 (月) }
- 9日 (金) } 編・再入学願書受付
- 19日 (月) 冬季休暇第1日 (1月7日まで)
- 19日 (月) } 体育実技Ⅱ集中授業コース
- 23日 (金) } (学部2年次生)
- 20日 (火) 編・再入学試験

## 昭和64年

- 1月 9日 (月) 後期授業再開
- 14日 (土) 後期授業最終日
- 17日 (火) }
- 27日 (金) } 定期試験 (専門・基礎・教職科目)
- 28日 (土) }
- 2月 6日 (月) } 定期試験 (一般・外国語・保健体育科目)
- 7日 (火) 定期試験欠試届受付締切 (学部4年次生・短大生)
- 7日 (火) 定期試験欠試届 (追試験申込) 受付締切 (学部1～3年次生)
- 7日 (火) 卒業論文口頭試問 (仏教・文学部の4年次生)
- 16日 (木) } 体育実技Ⅱシーズン・コース (スキー)
- 20日 (月) } (学部2年次生)
- 17日 (金) } 成績発表 (質疑応答) および追・再試験申込受付 (学部4年次生・短大生)
- 18日 (土) }
- 24日 (金) } 追・再試験 (学部4年次生・短大生) および追試験 (学部1～3年次生)
- 3月 2日 (木) }
- 20日 (月) 卒業生名簿発表
- 25日 (土) 卒業式

# 目 次

|     |                      |      |
|-----|----------------------|------|
| I   | 単位制と学年制              |      |
| 1.  | 単位制と学年制              | (1)  |
| 2.  | 授業科目の単位計算            | (1)  |
| 3.  | 授業科目の区分              | (1)  |
| II  | 卒業に必要な単位数と学士号        |      |
| 1.  | 卒業に必要な単位数            | (2)  |
| 2.  | 学 士 号                | (3)  |
| III | 授業科目の履修方法            |      |
| 1.  | 一般教育科目の履修方法          | (4)  |
| 2.  | 外国語科目の履修方法           | (6)  |
| 3.  | 保健体育科目の履修方法          | (8)  |
| 4.  | 基礎教育科目の履修方法          | (9)  |
| 5.  | 専門教育科目の履修方法          | (9)  |
| 6.  | 他学部科目の履修方法           | (11) |
| 7.  | 随意科目の履修方法            | (13) |
| 8.  | 再履修科目の履修方法           | (13) |
|     | ※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法 | (13) |
|     | ※ 授業科目のコード番号について     | (14) |
| IV  | 履修科目の登録（履修届）とその作成順序  |      |
| 1.  | 履修科目の登録              | (15) |
| 2.  | 履修届記入上の注意            | (16) |
| 3.  | 履修届（時間割）の作成順序        | (17) |
| V   | 試験および成績評価            |      |
| 1.  | 定期試験                 | (18) |
| 2.  | 中間試験                 | (18) |
| 3.  | 追・再試験                | (18) |
| 4.  | 受験心得                 | (19) |
| 5.  | 成績評価・単位認定            | (19) |
| 6.  | 試験時間                 | (19) |

|                      |      |
|----------------------|------|
| VI 進級について .....      | (20) |
| VII 教職課程・資格講座 .....  | (21) |
| VIII 事務取扱いについて       |      |
| 1. 成績発表・成績証明書 .....  | (22) |
| 2. 授業時間 .....        | (22) |
| 3. 事務室の事務受付時間 .....  | (22) |
| 4. 休講 .....          | (22) |
| 5. 掲示 .....          | (22) |
| 6. 問い合わせ .....       | (22) |
| IX 学籍について            |      |
| 1. 修業年限と在学年数 .....   | (23) |
| 2. 休学 .....          | (23) |
| 3. 復学 .....          | (23) |
| 4. 退学 .....          | (24) |
| 5. 除籍 .....          | (24) |
| 6. 懲戒 .....          | (24) |
| 7. 編入学(学士入学) .....   | (24) |
| 8. 再入学 .....         | (24) |
| 9. 転部・転科 .....       | (24) |
| 10. 留学 .....         | (25) |
| 11. 学生氏名・保証人 .....   | (25) |
| 12. 学生番号 .....       | (25) |
| X 既修得単位の認定について ..... | (26) |
| XI 届書・願書について .....   | (27) |
| XII 各種証明書取扱い窓口 ..... | (28) |
| 試験実施規程(抜粋) .....     | (29) |
| 進級規程 .....           | (31) |
| 講義内容 .....           | (33) |

# I 単位制と学年制

## 1. 単位制と学年制

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、各入学年度によって定められた一定の基準に従って授業科目を履修し、試験に合格することによってその授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。卒業所要単位を修得するまでの在学年数は4年以上（7年を超えてはならない）である。

また、単位の修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されている。

## 2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1単位とは1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は教室内における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なっている。

## 3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1. 一般教育科目（人文分野・社会分野・自然分野）
2. 外国語科目（第1外国語・第2外国語）
3. 保健体育科目（講義・実技）
4. 基礎教育科目（必修科目）
5. 専門教育科目（必修科目・選択科目）
6. 他学部科目（選択科目）
7. 随意科目（卒業に必要な単位に含まれない科目）

(a) 必修科目……必ず履修しなければならない科目

(b) 選択必修科目……数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目

(c) 選択科目……自由に選び履修できる科目

## II 卒業に必要な単位数と学士号

### 1. 卒業に必要な単位数

#### A. 63年度以降入学生適用

| 授 業 科 目 の 区 分 |           | 科 目 数 | 修得単位 | 計  | 合 計     |
|---------------|-----------|-------|------|----|---------|
| 一 般 教 育 科 目   | 人 文 分 野   | 4     | 16   | 32 | } 140以上 |
|               | 社 会 分 野   | 2     | 8    |    |         |
|               | 自 然 分 野   | 2     | 8    |    |         |
| 外 国 語 科 目     | 第 1 外 国 語 | 4     | 8    | 16 |         |
|               | 第 2 外 国 語 | 4     | 8    |    |         |
| 保 健 体 育 科 目   | 講 義       | 1     | 2    | 4  |         |
|               | 実 技       | 2     | 2    |    |         |
| 基 礎 教 育 科 目   |           | 2     | 8    | 8  |         |
| 専 門 教 育 科 目   | 必 修       | 3     | 12   | 80 |         |
|               | 選 択       | 17    | 68   |    |         |

#### B. 60~62年度入学生適用

| 授 業 科 目 の 区 分 |           | 科 目 数 | 修得単位 | 計  | 合 計     |
|---------------|-----------|-------|------|----|---------|
| 一 般 教 育 科 目   | 人 文 分 野   | 4     | 16   | 36 | } 142以上 |
|               | 社 会 分 野   | 3     | 12   |    |         |
|               | 自 然 分 野   | 2     | 8    |    |         |
| 外 国 語 科 目     | 第 1 外 国 語 | 4     | 8    | 16 |         |
|               | 第 2 外 国 語 | 4     | 8    |    |         |
| 保 健 体 育 科 目   | 講 義       | 1     | 2    | 4  |         |
|               | 実 技       | 2     | 2    |    |         |
| 基 礎 教 育 科 目   |           | 2     | 8    | 8  |         |
| 専 門 教 育 科 目   | 必 修       | 3     | 12   | 78 |         |
|               | 選 択       | 17    | 66   |    |         |

C. 58・59年度入学生適用

| 授 業 科 目 の 区 分 |           | 科 目 数 | 修 得 単 位 | 計  | 合 計     |
|---------------|-----------|-------|---------|----|---------|
| 一 般 教 育 科 目   | 人 文 分 野   | 4     | 16      | 36 | } 142以上 |
|               | 社 会 分 野   | 3     | 12      |    |         |
|               | 自 然 分 野   | 2     | 8       |    |         |
| 外 国 語 科 目     | 第 1 外 国 語 | 4     | 8       | 16 |         |
|               | 第 2 外 国 語 | 4     | 8       |    |         |
| 保 健 体 育 科 目   | 講 義       | 1     | 2       | 4  |         |
|               | 実 技       | 1     | 2       |    |         |
| 基 礎 教 育 科 目   |           | 2     | 8       | 8  |         |
| 専 門 教 育 科 目   | 必 修       | 3     | 12      | 78 |         |
|               | 選 択       | 17    | 66      |    |         |

D. 57年度以前入学生適用

| 授 業 科 目 の 区 分 |           | 科 目 数 | 修 得 単 位 | 計  | 合 計     |
|---------------|-----------|-------|---------|----|---------|
| 一 般 教 育 科 目   | 人 文 分 野   | 4     | 16      | 36 | } 142以上 |
|               | 社 会 分 野   | 3     | 12      |    |         |
|               | 自 然 分 野   | 2     | 8       |    |         |
| 外 国 語 科 目     | 第 1 外 国 語 | 4     | 8       | 16 |         |
|               | 第 2 外 国 語 | 4     | 8       |    |         |
| 保 健 体 育 科 目   | 講 義       | 1     | 2       | 4  |         |
|               | 実 技       | 1     | 2       |    |         |
| 基 礎 教 育 科 目   |           | 1     | 4       | 4  |         |
| 専 門 教 育 科 目   | 必 修       | 3     | 12      | 82 |         |
|               | 選 択       | 18    | 70      |    |         |

2. 学 士 号

大学に4年以上（7年を超えてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には卒業証書を授与し、「経営学士」の称号が与えられる。

### Ⅲ 授業科目の履修方法

※ 北海道教養部では、授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある。

#### 授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配当する。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は、本人の学生番号のクラスで履修すること。(再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない。)
- ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低および最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

#### 1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
- ロ. 「宗教学Ⅰ」を1年次、「宗教学Ⅱ」を2年次の必修科目とする。
- ハ. 2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

#### A. 63年度以降入学生適用

|      |     |       |   |       |      |
|------|-----|-------|---|-------|------|
| 人文分野 | 4科目 | 計16単位 | } | 合計8科目 | 32単位 |
| 社会分野 | 2科目 | 計8単位  |   |       |      |
| 自然分野 | 2科目 | 計8単位  |   |       |      |

| 分 野  | 授 業 科 目                  | 単 位 | 履 修 科 目 数 | 修 得 単 位 | 計 | 備 考                                  |
|------|--------------------------|-----|-----------|---------|---|--------------------------------------|
| 人文分野 | 宗 教 学 Ⅰ (1年次必修)          | 4   | }         | 16      | } |                                      |
|      | 宗 教 学 Ⅱ (2年次必修)          | 4   |           |         |   |                                      |
|      | 哲 学                      | 4   |           |         |   |                                      |
|      | 論 理 学                    | 4   |           |         |   |                                      |
|      | 倫 理 学                    | 4   |           |         |   |                                      |
|      | 文 学                      | 4   |           |         |   |                                      |
| 社会分野 | 法 学 憲 法<br>(日本国憲法2単位を含む) | 4   | }         | 8       | } | 32<br>教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする。 |
|      | 社 会 学                    | 4   |           |         |   |                                      |
|      | 地 理 学                    | 4   |           |         |   |                                      |
|      | 統 計 学                    | 4   |           |         |   |                                      |
|      | 文 化 人 類 学                | 4   |           |         |   |                                      |
| 自然分野 | 自 然 科 学 概 論              | 4   | }         | 8       | } |                                      |
|      | 数 学                      | 4   |           |         |   |                                      |
|      | 心 理 学                    | 4   |           |         |   |                                      |

※ 「宗教学Ⅰ」の授業は木曜日に玉川校舎(道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照)で行う。



B. 62年度以前入学生適用

人文分野 4科目 計16単位  
 社会分野 3科目 計12単位 } 合計9科目 36単位  
 自然分野 2科目 計8単位 }

| 分野   | 授業科目                  | 単位 | 履修科目数                        | 修得単位 | 計  | 備考                             |
|------|-----------------------|----|------------------------------|------|----|--------------------------------|
| 人文分野 | 宗教学Ⅰ（1年次必修）           | 4  | 「宗教学Ⅰ」・「宗教学Ⅱ」の2科目を含めて4科目選択必修 | 16   | 36 |                                |
|      | 宗教学Ⅱ（2年次必修）           | 4  |                              |      |    |                                |
|      | 哲学                    | 4  |                              |      |    |                                |
|      | 論理学                   | 4  |                              |      |    |                                |
|      | 倫理学                   | 4  |                              |      |    |                                |
|      | 歴史学                   | 4  |                              |      |    |                                |
| 社会分野 | 法学憲法<br>（日本国憲法2単位を含む） | 4  | 3科目選択必修                      | 12   | 36 | 教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする。 |
|      | 社会学（2年次）              | 4  |                              |      |    |                                |
|      | 地理学                   | 4  |                              |      |    |                                |
|      | 統計学（2年次）              | 4  |                              |      |    |                                |
| 自然分野 | 文化人類学                 | 4  | 2科目選択必修                      | 8    | 36 |                                |
|      | 自然科学概論                | 4  |                              |      |    |                                |
|      | 数学                    | 4  |                              |      |    |                                |
|      | 心理学（2年次）              | 4  |                              |      |    |                                |

※「宗教学Ⅰ」の授業は木曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

## 2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6カ国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した外国語の2カ国語を履修することになり、その2カ国語を1年次および2年次において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

なお、第1外国語は英語、第2外国語は他の外国語となる。

| 履 修 年 次 | 第 1 外 国 語 |       | 第 2 外 国 語 |       | 計     |       |
|---------|-----------|-------|-----------|-------|-------|-------|
|         | 科 目 数     | 単 位 数 | 科 目 数     | 単 位 数 | 科 目 数 | 単 位 数 |
| 1 年 次   | 2         | 4     | 2         | 4     | 4     | 8     |
| 2 年 次   | 2         | 4     | 2         | 4     | 4     | 8     |
| 計       | 4         | 8     | 4         | 8     | 8     | 16    |

### 1年次の履修

6カ国語のうち英語1G・1Rの2科目と入学手続の際に指定した外国語1G・1Rの2科目の計4科目8単位を必修とする。

| 授 業 科 目      | 単 位 | 科 目 内 容        | 履 修 科 目 数  |
|--------------|-----|----------------|--|
| 英 語 1G       | 2   |                | 1G・1Rの2科目を必修とする。ただし1Gは「英会話I(定員40名)」または「英語LLI(定員30名)」に振り替えできる。なお、振り替えを希望する者は、最初の授業に『単位履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を必ず受けること。 |
| 英 語 1R       | 2   |                |  |
| 英 会 話 I      | 2   |                |  |
| 英 語 LL I     | 2   | 視聴覚教材を使用した語学教育 |  |
| ド イ ツ 語 1G   | 2   | 文 法            | 5カ国語のうちから入学手続の際指定した1カ国語1G・1Rの2科目を必修とする。  |
| ド イ ツ 語 1R   | 2   | 講 読            |  |
| フ ラ ン ス 語 1G | 2   | 文 法            |  |
| フ ラ ン ス 語 1R | 2   | 講 読            |  |
| 中 国 語 1G     | 2   | 文 法            |  |
| 中 国 語 1R     | 2   | 講 読            |  |
| ス ペ イ ン 語 1G | 2   | 文 法            |  |
| ス ペ イ ン 語 1R | 2   | 講 読            |  |
| ロ シ ア 語 1G   | 2   | 文 法            |  |
| ロ シ ア 語 1R   | 2   | 講 読            |  |

#### ※ 英語科目内容

英語1G：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語1R：講読を通し、内容と文構造の基本を把握する。

#### ※ LL……ランゲージ・ラボラトリー

※「英語1R」の授業は木曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

## 2年次の履修

1年次で履修した2カ国語（英語と他の1カ国語）を、それぞれ2AⅠ・2AⅡの2科目ずつ計4科目8単位必修とする。

### 第1外国語（英語を2科目4単位必修）

| 授 業 科 目    | 単 位 | 備 考 |
|------------|-----|-----|
| 英 語 2 A I  | 2   |     |
| 英 語 2 A II | 2   |     |

#### ※ 英語科目内容

英語2AⅠ：講読を通し、はば広い教養を修得する。

英語2AⅡ：意志表現と意志伝達的能力を發展させ、応用力を修得する。

### 第2外国語（1年次で履修した英語以外の1カ国語を2科目4単位必修）

| 授 業 科 目          | 単 位 | 科 目 内 容 | 授 業 科 目          | 単 位 | 科 目 内 容 |
|------------------|-----|---------|------------------|-----|---------|
| ド イ ツ 語 2 A I    | 2   | 講 読     | ス ペ イ ン 語 2 A I  | 2   | 講 読     |
| ド イ ツ 語 2 A II   | 2   | 講 読     | ス ペ イ ン 語 2 A II | 2   | 講 読     |
| フ ラ ン ス 語 2 A I  | 2   | 講 読     | ロ シ ア 語 2 A I    | 2   | 講 読     |
| フ ラ ン ス 語 2 A II | 2   | 講 読     | ロ シ ア 語 2 A II   | 2   | 講 読     |
| 中 国 語 2 A I      | 2   | 講 読     |                  |     |         |
| 中 国 語 2 A II     | 2   | 講 読     |                  |     |         |

## 外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下3ケタ）により該当するクラスを履修すること。
- ロ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ハ. 不合格科目の再履修については、別に定める。
- ニ. 2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

### 3. 保健体育科目の履修方法

カリキュラム改訂に伴い、昭和60年度以降入学生より新カリキュラムを適用する。なお、昭和59年度以前入学生は、旧カリキュラムが適用される。

#### A. 60年度以降入学生適用

保健体育科目は講義と実技に分かれ、講義は1年次に「保健体育理論」を1科目2単位、実技は1年次に「体育実技Ⅰ」を1科目1単位と2年次に「体育実技Ⅱ」を1科目1単位、計3科目4単位を必修とする。

|   |   | 授 業 科 目 | 単 位 | 備 考        |
|---|---|---------|-----|------------|
| 講 | 義 | 保健体育理論  | 2   | 1年次前期または後期 |
| 実 | 技 | 体育実技Ⅰ   | 1   | 1年次通年      |
|   |   | 体育実技Ⅱ   | 1   | 2年次前期または後期 |

イ. 講義・体育実技Ⅰの授業は木曜日に玉川校舎で行う。

ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

※ 体育実技Ⅰについての種目の説明等は、1年次生および「再履修クラス」を履修する者とも最初の授業に配布される『体育実技受講要領』を参照すること。

ハ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。

A. 本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業

B. 前期（夏季休暇中）または後期（冬季休暇中）に実施される有料のシーズン・コースの授業

C. 前期（夏季休暇中）または後期（冬季休暇中）に実施される玉川校舎での集中授業

ニ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。

※ 体育実技Ⅱについての種目の説明、シーズン・コースおよび集中授業等の申込み方法については、『体育実技受講要領』を参照すること。（受講要領配布については、掲示板参照。）

ホ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

#### B. 59年度以前入学生適用

保健体育科目は講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

|   |   | 授 業 科 目 | 単 位 | 備 考     |
|---|---|---------|-----|---------|
| 講 | 義 | 保健体育理論  | 2   | 前期または後期 |
| 実 | 技 | 体育実技    | 2   | 通年      |

イ. 講義・実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

ロ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

ハ. 講義・実技とも1年次生は玉川校舎で授業を行う。

※ 実技についての種目の説明等は、1年次生および「再履修クラス」を修得する者とも最初の授業に配布される『体育実技受講要領』を参照すること。

#### 4. 基礎教育科目の履修方法

##### A. 58年度以降入学生適用

専門教育科目の基礎となる授業科目で1年次において2科目8単位を必修とする。

| 履修年次 | 授業科目  | 単位 | 備考 |
|------|-------|----|----|
| 1年次  | 経済学概説 | 4  |    |
|      | 経営学概説 | 4  |    |

##### B. 57年度以前入学生適用

専門教育科目の基礎となる授業科目で1年次において1科目4単位を必修とする。

| 履修年次 | 授業科目  | 単位 | 備考 |
|------|-------|----|----|
| 1年次  | 経済学概説 | 4  |    |

#### 5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については、専門科目全般にわたって十分検討して履修すること。なお、一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

##### 必修科目（3科目12単位）

| 1年次必修 |    |    | 2年次必修 |    |    |
|-------|----|----|-------|----|----|
| 授業科目  | 単位 | 備考 | 授業科目  | 単位 | 備考 |
| 簿記学   | 4  |    | 経営学   | 4  |    |
|       |    |    | 会計学   | 4  |    |

## 選 択 科 目

A. 63年度以降入学生適用（68単位以上）

B. 58～62年度入学生適用（66単位以上）

C. 57年度以前入学生適用（70単位以上）

| 2 年 次 選 択         |     |     | 3・4 年 次 選 択     |     |     | 3・4 年 次 選 択 |     |     |
|-------------------|-----|-----|-----------------|-----|-----|-------------|-----|-----|
| 授 業 科 目           | 単 位 | 備 考 | 授 業 科 目         | 単 位 | 備 考 | 授 業 科 目     | 単 位 | 備 考 |
| 経 営 史             | 4   |     | 経 営 労 務 論       | 4   |     | 税 務 会 計 論   | 4   |     |
| 経 営 管 理 論         | 4   |     | 経 営 組 織 論       | 4   |     | 会 計 監 査 論   | 4   |     |
| 企 業 形 態 論         | 4   |     | 経 営 技 術 論       | 4   |     | 証 券 市 場 論   | 4   |     |
| プ ロ グ ラ ム イ ン グ 論 | 4   |     | 経 営 情 報 論       | 4   |     | 商 業 史       | 4   |     |
| 原 価 計 算 論         | 4   |     | 経 営 科 学         | 4   |     | 経 済 政 策     | 4   |     |
| 経 済 原 論           | 4   | 休 講 | 公 益 企 業 論       | 4   |     | 財 政 学       | 4   |     |
| 近 代 経 済 学         | 4   |     | マ ー ケ テ ィ ン グ 論 | 4   |     | 金 融 論       | 4   |     |
| 日 本 経 済 史         | 4   |     | 商 業 経 営 論       | 4   |     | 国 際 経 済 論   | 4   |     |
| 統 計 原 論           | 4   |     | 保 険 経 営 論       | 4   |     | 国 際 金 融 論   | 4   |     |
| 民 法 I             | 4   |     | 銀 行 経 営 論       | 4   |     | 日 本 経 済 論   | 4   |     |
| 演 習 I             | 4   |     | 国 際 経 営 論       | 4   |     | 民 法 II      | 4   |     |
| 3 年 次 選 択         |     |     | 貿 易 経 営 論       | 4   | 休 講 | 外 書 講 読     | 4   |     |
| 商 法 I             | 4   |     | 日 本 経 営 史       | 4   |     | 4 年 次 選 択   |     |     |
| 演 習 II            | 4   |     | 経 営 統 計         | 4   |     | 商 法 II      | 4   |     |
| 3・4 年 次 選 択       |     |     | 上 級 簿 記         | 4   | 休 講 | 労 働 法       | 4   |     |
| 経 営 学 史           | 4   |     | 財 務 会 計 論       | 4   |     | 演 習 III     | 4   |     |
| ア メ リ カ 経 営 学     | 4   | 休 講 | 管 理 会 計 論       | 4   |     |             |     |     |
| 経 営 財 務 論         | 4   |     | 経 営 分 析 論       | 4   |     |             |     |     |

### 〔名称変更科目〕

新・旧科目とも同一科目です。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

| 新名称     | 旧名称           |
|---------|---------------|
| 演 習 II  | 演 習 I（3年次選択）  |
| 演 習 III | 演 習 II（4年次選択） |

### 〔廃講科目〕

- プロゼミ I（1年次選択）
- プロゼミ II（2年次選択）

## 6. 他学部科目の履修方法

所属している学科以外の学科、もしくは他学部または短期大学の授業科目の履修を希望する学生は、次の要領で履修することができる。

なお、履修に際しては授業科目担当教員の受講許可を必要とする。

### イ. 履修科目

他学部・他学科または短期大学に開設されている授業科目のうち、他学部履修科目として公開された授業科目の中から所属学科が履修を認めた授業科目とする。(他学部履修科目一覧表 参照)

### ロ. 履修年次

3・4年次生を対象とし、授業科目開設学科の定める年次とする。

### ハ. 履修科目数

履修できる科目数は、卒業までに3科目12単位以内とする。

なお、その履修科目は所属学科の履修制限科目数に含める。

### ニ. 履修方法

- (1) 「履修要項」の講義内容を参考に、『他学部履修科目授業時間表』の中から履修科目を選択し、『他学部履修願』に必要事項を記入の上、最初の授業に出席し授業科目担当教員の受講許可を受ける。

なお、『他学部履修科目授業時間表』および『他学部履修願』用紙は、教務部窓口で配布する。

- (2) 『単位履修届』に履修科目（他学部履修科目を含む）その他必要事項を記入し、『他学部履修許可書』を添えて、所定の期日に提出すること。

### ホ. 履修登録上の注意

- (1) 所属学科の開設科目は、他学部科目として履修登録できない。
- (2) 他学部科目は、『他学部履修科目授業時間表』に記載の専用コード（005…）で登録すること。
- (3) 同一名称（開設学科が異なる）の授業科目は、1科目のみ履修することができる。

### ヘ. 再履修

他学部科目が不合格となり再度履修を希望する場合は、改めて前項の手続きを経なければならない。

なお、再履修の取扱いについては『再履修科目の履修方法』（P.13）参照のこと。

### ト. 単位認定

修得した単位は、所属学科の専門教育科目の選択科目の単位として認定し、卒業所要単位に算入することができる。

### 他学部履修科目一覧表

| 開設学科    | 授業科目  | 単位 | 履修年次 | 備考 | 開設学科         | 授業科目   | 単位 | 履修年次 | 備考 |
|---------|-------|----|------|----|--------------|--------|----|------|----|
| 禅学<br>科 | 禅学特講Ⅰ | 4  | 3・4  |    | 仏教<br>学<br>科 | 印度仏教史  | 4  | 3・4  |    |
|         | 禅学特講Ⅱ | 4  | 3・4  |    |              | 中国仏教史  | 4  | 3・4  |    |
|         | 禅学特講Ⅲ | 4  | 3・4  |    |              | 日本仏教史  | 4  | 3・4  |    |
|         | 禅学特講Ⅳ | 4  | 3・4  |    |              | 日用経典   | 4  | 3・4  |    |
|         | 禅学思想史 | 4  | 3・4  |    |              | 仏教美術   | 4  | 3・4  |    |
|         | 哲学史   | 4  | 3・4  |    |              | 現代哲学概説 | 4  | 3・4  |    |

| 開設<br>学科              | 授 業 科 目           | 単 位 | 履 修 年 次 | 備 考           | 開設<br>学科                   | 授 業 科 目                | 単 位 | 履 修 年 次 | 備 考 |
|-----------------------|-------------------|-----|---------|---------------|----------------------------|------------------------|-----|---------|-----|
| 国<br>文<br>学<br>科      | 上 代 文 学           | 4   | 3・4     |               | 経<br>済<br>学<br>科           | ソビエト経済論                | 4   | 3・4     |     |
|                       | 中 世 文 学           | 4   | 3・4     |               |                            | 社 会 政 策                | 4   | 3・4     |     |
|                       | 近 世 文 学           | 4   | 3・4     |               |                            | 国 民 所 得 論              | 4   | 3・4     |     |
|                       | 近 代 文 学           | 4   | 3・4     |               |                            | 中 国 経 済 論              | 4   | 3・4     |     |
|                       | 中 国 文 学           | 4   | 3・4     |               |                            | ア ジ ア 経 済 論            | 4   | 3・4     |     |
| 英<br>米<br>文<br>学<br>科 | 英文学特講Ⅰ(英文学16・17c) | 4   | 3・4     |               | 商<br>学<br>科                | 中 小 企 業 論              | 4   | 3・4     |     |
|                       | 英文学特講Ⅱ(英文学18c)    | 4   | 3・4     |               |                            | 商 業 政 策                | 4   | 3・4     |     |
|                       | 英文学特講Ⅲ(詩19・20c)   | 4   | 3・4     |               |                            | 貿 易 論                  | 4   | 3・4     |     |
|                       | 英文学特講Ⅳ(小説Ⅰ 19c)   | 4   | 3・4     |               | 法<br>律<br>学<br>科           | 行 政 法 Ⅱ                | 4   | 3・4     |     |
|                       | 英文学特講Ⅴ(小説Ⅱ 20c)   | 4   | 3・4     |               |                            | 民 法 Ⅳ (1)              | 4   | 3・4     |     |
|                       | 英文学特講Ⅵ(批評19・20c)  | 4   | 3・4     |               |                            | 民 法 Ⅳ (2)              | 4   | 4       |     |
|                       | 英 米 演 劇 特 講       | 4   | 3・4     |               | 政<br>治<br>学<br>科           | 比 較 憲 法                | 4   | 3・4     |     |
|                       | 米文学特講Ⅰ(詩)         | 4   | 3・4     |               |                            | 地 方 自 治 法              | 4   | 3・4     |     |
|                       | 米文学特講Ⅲ(小説Ⅱ)       | 4   | 3・4     |               |                            | 経 済 法                  | 4   | 3・4     |     |
|                       | 時 事 英 語           | 4   | 3・4     |               |                            | 国 際 関 係 論              | 4   | 3・4     |     |
| 地 質 学                 | 4                 | 3・4 |         | 西 洋 政 治 史     |                            | 4                      | 3・4 |         |     |
| 気 候 学                 | 4                 | 3・4 |         | 宣 伝 広 告 論     |                            | 4                      | 3・4 |         |     |
| 人 口 地 理 学             | 4                 | 3・4 |         | 比 較 社 会 構 造 論 |                            | 4                      | 3・4 |         |     |
| 地<br>理<br>学<br>科      | 応 用 地 理 学 Ⅰ       | 4   | 3・4     |               | 短<br>大<br>国<br>文<br>科      | 国 文 講 読 Ⅰ (上代)         | 2   | 3・4     |     |
|                       | 都 市 地 理 学         | 4   | 3・4     |               |                            | 国 文 講 読 Ⅱ (中古)         | 2   | 3・4     |     |
|                       | 文 化 地 理 学         | 4   | 3・4     |               |                            | 国 文 講 読 Ⅲ (中世)         | 2   | 3・4     |     |
|                       | 日 本 仏 教 史 Ⅱ       | 4   | 3・4     |               |                            | 国 文 講 読 Ⅳ (近世)         | 2   | 3・4     |     |
| 歴<br>史<br>学<br>科      | 日本史特講Ⅶ(近代)        | 4   | 3・4     |               |                            | 国 文 講 読 Ⅴ (近・現代)       | 2   | 3・4     |     |
|                       | 東洋史特講Ⅹ(近・現代)      | 4   | 3・4     |               |                            | 国 文 特 講 Ⅴ (近・現代)       | 4   | 3・4     |     |
|                       | 西 洋 文 化 史 Ⅰ       | 4   | 3・4     |               | 短<br>英<br>文<br>大<br>科      | 英 文 タイ プ ラ イ テ ィ ン グ Ⅱ | 2   | 3・4     |     |
|                       | 考 古 学 特 講 Ⅲ       | 4   | 3・4     | 隔年開講          |                            | 時 事 英 語                | 4   | 3・4     |     |
|                       | 歴 史 哲 学           | 4   | 3・4     |               | 短<br>放<br>射<br>線<br>大<br>科 | 計 算 機 言 語 概 論          | 2   | 3・4     |     |
|                       | 哲 学 史             | 4   | 3・4     |               |                            | 臨 床 放 射 線 特 論 Ⅰ        | 2   | 3・4     |     |
|                       | 日 本 民 俗 学         | 4   | 3・4     |               |                            | 応 用 計 測 学              | 2   | 3・4     |     |
| 社<br>会<br>学<br>科      | マスコミュニケーション       | 4   | 3・4     |               |                            |                        |     |         |     |
|                       | 産 業 社 会 学         | 4   | 3・4     |               |                            |                        |     |         |     |
|                       | 都 市 社 会 学         | 4   | 3・4     |               |                            |                        |     |         |     |
|                       | 社 会 福 祉 発 達 史     | 4   | 3・4     |               |                            |                        |     |         |     |



## 7. 随意科目の履修方法

随意科目は2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることができない。

| 授業科目    | 単位 | 備考 | 授業科目          | 単位 | 備考 | 授業科目          | 単位 | 備考 |
|---------|----|----|---------------|----|----|---------------|----|----|
| 比較思想特講  | 4  |    | 英語 LL II      | 2  |    | スペイン語 FLL(初級) | 2  |    |
| 英会話 II  | 2  |    | ドイツ語 FLL(初級)  | 2  |    | スペイン語 FLL(中級) | 2  |    |
| ドイツ語 F  | 2  |    | ドイツ語 FLL(中級)  | 2  |    | ロシア語 FLL(初級)  | 2  |    |
| フランス語 F | 2  |    | フランス語 FLL(初級) | 2  |    | ロシア語 FLL(中級)  | 2  |    |
| 中国語 F   | 2  |    | フランス語 FLL(中級) | 2  |    | 英語(海外演習)      | 2  | ※  |
| スペイン語 F | 2  |    | 中国語 FLL(初級)   | 2  |    |               |    |    |
| ロシア語 F  | 2  |    | 中国語 FLL(中級)   | 2  |    |               |    |    |

※「英語(海外演習)」は、ハワイ大学およびカリフォルニア大学で行われる短期留学サマーセミナーで、1年次生より履修できる。なお、詳細については、講義内容(P.44)を参照のこと。

## 8. 再履修科目の履修方法

- イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目(受験しなかった科目を含む)を翌年度に再度履修することをいう。この場合、授業科目名が同じであれば担当教員に変更があっても同一科目の再履修となる。
- ロ. 翌年度に再履修しないで翌々年度以降に履修する場合は、新履修とみなして履修しなければならない。(休学の場合の同様)
- ハ. 再履修の授業科目は、新履修の授業科目と同時に届け出なければならない。
- ニ. 外国語・体育実技 I (59年度以前入学生は体育実技)・保健体育理論および宗教学 I を再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」(本校で授業を行う)で履修すること。ただし、原級者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。
- ホ. 1年次生は「再履修クラス」を履修することはできない。

### ※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法(昭和63年度以降入学生適用)

『外国人留学生』・『海外帰国子女』学生対象の科目で、原則として1・2年次において履修すること。

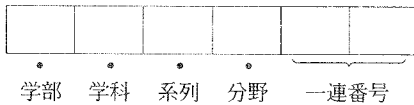
- 日本語科目は、各所属学科の定めるところにより第一外国語または第二外国語として履修すること。修得単位は、外国語科目の卒業所要単位に算入する。
- 日本事情科目の修得単位は、8科目16単位を超えない範囲で一般教育科目の卒業所要単位に算入する。
- 62年度以前入学生で日本語・日本事情科目の履修を希望する学生、または63年度以降入学生で各所属学科の定める一般教育科目および外国語科目の代替できる単位の範囲を超えて履修した場合は、これを随意科目として単位認定する。

(注) 詳細は、『日本語・日本事情科目の履修要項』を参照すること。

※ 授業科目のコード番号について

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 科目コードの区分



ロ. 学部・学科番号は「学生番号 (P. 25 参照)」での説明のとおりである。

ハ. 系列・分野区分

| 授業科目の区分 | 系列番号 | 分野番号          |
|---------|------|---------------|
| 一般教育科目  | 0    |               |
| 人文分野    |      | 1 (必修)・2 (選択) |
| 社会分野    |      | 3             |
| 自然分野    |      | 4             |
| 基礎教育科目  | 1    | 5             |
| 外国語科目   | 2    |               |
| 保健体育科目  | 4    |               |
| 実技      |      | 1             |
| 講義      |      | 2             |
| 専門教育科目  | 5    |               |
| 必修科目    |      | 1・2・3         |
| 選択科目    |      | 5・6・7・8       |
| 随意科目    | 7    |               |
| 再履修科目   | 8    |               |
| 課程・講座科目 | 9    |               |
| 必修科目    |      | 1             |
| 選択科目    |      | 2             |
| 教科科目    |      | 3・4・5・6・7・8   |

## IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

### 1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科、学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び、所定の『単位履修届』用紙に必要事項を記入し届け出ることにより、通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数（制限科目数）は次表のとおりとする。

| 年次  | 新規履修科目数     | 課程・講座登録者科目数 |
|-----|-------------|-------------|
| 1年次 | 15科目        | -----       |
| 2年次 | 5科目以上12科目以内 | 17科目以内      |
| 3年次 | 5科目以上11科目以内 | 17科目以内      |
| 4年次 | 3科目以上14科目以内 | 17科目以内      |

イ. 体育実技Ⅱ・随意科目は、上記表の制限外とする。

ロ. 半期科目も1科目とする。

ハ. 再履修科目の履修については、次のとおりとする。

(1) 2年次生はすべて制限科目数（12科目以内）の範囲内で履修すること。

(2) 3・4年次生は外国語科目・保健体育科目の再履修についてのみ制限科目数（3年次：11科目以内、4年次：14科目以内）の枠外とし、17科目以内で履修できるものとする。

ニ. 制限科目数の範囲内で順次履修すれば、課程・講座科目の履修や未・再履修の補充も制限科目数の範囲内で十分可能である。

### II) 登録上の注意

イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し、学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は、学業の意志のないものとして処理する。なお、指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口にご相談すること。）

ロ. 履修届の日時、場所等についての詳細は原則として新年度成績発表前に教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし、他学部履修科目（P.11 参照）は、履修登録できる。

また、課程・講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが、その場合は教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録しない授業科目はたとえ聴講、受験しても単位は与えない。

ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ. 『単位履修届』用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

## 2. 履修届記入上の注意

授業時間表(例)

|             | 月 曜 日       |              |       |              |
|-------------|-------------|--------------|-------|--------------|
|             | 授 業 科 目     | 科 目<br>コ ー ド | 担 当   | 担 当<br>コ ー ド |
| 一<br>時<br>限 | ド イ ツ 語 1G  | 512201       | 百 済   | 879          |
|             | ~~~~~       |              |       |              |
| 二<br>時<br>限 | 保健体育理論(前期)  | 514201       | 長 濱   | A10          |
|             | 保健体育理論(後期)  |              |       | 622          |
| ~~~~~       |             |              |       |              |
| 三<br>時<br>限 | 宗 教 学 I     | 510101       | 平井(俊) | 735          |
|             | ~~~~~       |              |       |              |
| 四<br>時<br>限 | 論 理 学       | 510203       | 國 嶋   | 306          |
|             | ~~~~~       |              |       |              |
| 五<br>時<br>限 | 自 然 科 学 概 論 | 510401       | 宇和川   | 104          |
|             | ~~~~~       |              |       |              |

正しい記入例

| 曜日           | 時<br>限 | 再<br>履 | 科 目 名       | 科目コード     | 担 任   | 担 当<br>コ ー ド |
|--------------|--------|--------|-------------|-----------|-------|--------------|
| 月<br><br>(1) | 1      |        | ド イ ツ 語 1G  | 5:12:20:1 | 百 済   | 879          |
|              | 2      |        | 保健体育理論(前期)  | 5:14:20:1 | 長 濱   | A10          |
|              | 3      |        | 宗 教 学 I     | 5:10:10:1 | 平井(俊) | 735          |
|              | 4      | ○      | 論 理 学       | 5:10:20:3 | 國 嶋   | 306          |
|              | 5      |        | 自 然 科 学 概 論 | 5:10:40:1 | 宇和川   | 104          |

- イ. 楷書体で正確に記入すること。
- ロ. 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。
- ハ. 授業時間表のとおり記入すること。
- ニ. 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、前期終了科目は上段・後期終了科目は下段に記入すること。
- ホ. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。
- ヘ. 履修届は電算機で処理しているため、下記の場合、登録が無効となるので注意すること。
  - (1) 科目名・科目コード、担当名・担当コードが一致しない場合
  - (2) 時限を誤って記入した場合
  - (3) 間違い易い数字で記入した場合(例 0と6, 1と7)
  - (4) その他、不明瞭に記入した場合
- ト. 体育実技の記入方法は、授業時間表に載っている科目コード・担当名・担当コードを正しく記入すること。
- チ. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。
- リ. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失しないように保管すること。

### 3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、課程・講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

| 順 序        | 授 業 区 分     | 授 業 科 目（適 用）  | 科 目 数 |
|------------|-------------|---|-------|
| 1          | 一 般 教 育 科 目 | 宗教学Ⅰ（必修）  | 1     |
| 2          | 外 国 語 科 目   | 第1外国語，第2外国語（選択必修）   | 4     |
| 3          | 保 健 体 育 科 目 | 保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）                                      | 2     |
| 4          | 基 礎 教 育 科 目 | 経済学概説，経営学概説（必修）   | 2     |
| 5          | 専 門 教 育 科 目 | 簿記学（必修）   | 1     |
| 6          | 一 般 教 育 科 目 | 人文分野 }<br>社会分野 } 開講科目の中から5科目を選択必修<br>自然分野 } (不足単位は2年次で履修) | 5     |
| 1年次履修制限科目数 |             |   | 15    |

## V 試験および成績評価

### 1. 定期試験

イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月から2月にかけて実施される。

ロ. 正規の手続きを経て履修登録した授業科目のみ受験できる。

ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、論題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上、表紙に科目名・担当教員名・論題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し、読み易くとした上で提出すること。

なお、指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。

ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。

(注意) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は平常時間割と曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等については掲示に十分注意すること。

### 2. 中間試験

授業科目担当教員が中間考査として任意に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

### 3. 追・再試験

#### I) 追試験

イ. 追試験は、やむを得ない理由があり定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその理由を記入し、自分の全ての試験終了後直ちに届け出ること。(締切日は掲示板参照)

ロ. 追試験料は徴収しない。

#### II) 再試験

1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。

卒業年次生に限り下記により実施する。

イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。

ロ. 受験料は1科目500円とする。

#### III) 体育・外国語科目・その他

イ. 体育実技、演習は追・再試験ともこれを行わない。

ロ. 外国語科目についても追・再試験を行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後直ちに担当教員に申し出て指導を受けること。

#### 4. 受 験 心 得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日・時・試験場（教場）で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中、机上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部・学科・学年・学生番号・氏名の記入はペンまたはボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意すること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
- ヌ. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
  - (1) 代人として受験したり、または代人受験を依頼すること。
  - (2) 使用が許可されていないノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を使用すること。
  - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机・壁等への書き込みを利用すること。
  - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
  - (5) 私語及び動作・メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
  - (6) 試験中にノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を貸借すること。
  - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
  - (8) その他上記に類似する行為をすること。
- ワ. 学生証を忘れた場合は仮受験票により受験することができる。仮受験票の発行については、教務部窓口にて手続きをすること。

#### 5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優（100点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）および不可（59点～0点）とし、優、良、可を合格、不可は不合格として発表する。  
なお、素点に関する問い合わせは一切受付ない。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験（4年次生のみ）の成績評価は良（70点）以下とする。

#### 6. 試 験 時 間

| 定期試験実施時間（前期・後期とも） |                 | 追・再試験実施時間（前期）   | 追・再試験実施時間（後期）   |
|-------------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 1時限 9：30～10：30    | 4時限 14：30～15：30 | 1時限 16：10～17：00 | 1時限 9：30～10：20  |
| 2時限 11：00～12：00   | 5時限 15：50～16：50 | 2時限 17：10～18：00 | 2時限 10：50～11：40 |
| 3時限 13：00～14：00   | 6時限 17：10～18：10 |                 | 3時限 13：00～13：50 |
|                   |                 |                 | 4時限 14：10～15：00 |
|                   |                 |                 | 5時限 15：20～16：10 |

試験実施規程（抜粋）が掲載されている（P. 29）ので参照のこと。

## VI 進級について

上級学年に進級するためには、進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級および注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

- 注意進級とは、進級の基準単位数には達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。  
これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。
- 修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

修得単位基準表（単位は卒業所要単位のうちとする。）

|      | 1年次から2年次 | 2年次から3年次 | 3年次から4年次  |
|------|----------|----------|---|
| 進級   | 30単位以上   | 60単位以上   | 90単位以上修得し、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目を全て修得していること。             |
| 注意進級 | 29～20単位  | 59～48単位  | 86単位以上修得しているが、保健体育科目・外国語科目の不足単位数が12単位以下の場合。           |
| 原級留置 | 19単位以下   | 47単位以下   | 85単位以下。または86単位以上修得しているが、保健体育科目・外国語科目が、13単位以上不足している場合。 |

進級規程が掲載されている（P. 31）ので参照のこと。



## VII 教職課程・資格講座

経営学部で開講されている資格取得のための課程・講座は、次表のとおりである。

| 課程・講座名               | 開講年次  | 備 考   |
|----------------------|-------|---|
| 教 職 課 程              | 2年次より | 教員資格取得のためのもので教職課程の所定単位を修得した者は、中学校1級・高等学校2級の各普通免許が取得できる。 |
| 学校図書館司書教諭講座          | 〃     | 学校教育を充実することを目的とする学校図書館の専門職としての資格。                       |
| 社会福祉主事<br>社会福祉士基礎 講座 | 〃     | 社会福祉を増進させるための機関等における専門職としての資格。(社会福祉士の基礎科目も修得可能)         |
| 社会教育主事講座             | 〃     | 社会教育活動を行う者に対し、求めに応じて専門的・技術的な助言と指導を与える教育専門職としての資格。       |

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋(11月中旬)に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。(授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること。)

なお、ガイダンスの日時等については、実施1カ月前より掲示板で、その旨指示する。

## VIII 事務取扱いについて

### 1. 成績発表・成績証明書

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績質疑応答期間内に教務部窓口にて相談すること。ただし、評価の質疑については直接担当教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は、卒業年次生以外は原則として発行しない。

### 2. 授業時間

授業時間は、次表のとおりである。

| 時 限 | 第1時限       | 第2時限        | 第3時限        | 第4時限        | 第5時限        |
|-----|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 時 間 | 9:00~10:30 | 10:40~12:10 | 12:50~14:20 | 14:30~16:00 | 16:10~17:40 |

### 3. 事務室の事務受付時間

- イ. 事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

### 4. 休 講

- イ. 休講は担当教員より連絡があり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。従って、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在、JR東京近郊区間（山手・中央・京浜東北）もしくは東急がストライキを行っている場合の授業は全面休講とする。

### 5. 掲 示

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

### 6. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

## IX 学籍について

### 1. 修業年限と在学年数

- イ. 修業年限とは、大学の教育課程修了に必要な期間のことをいう。(本大学の修業年限は4年)
- ロ. 在学年数とは、大学において学生の身分を有していられる期間のことで、本大学の在学年数は休学期間を除き7年と定めている。

### 2. 休学

傷病その他の事由で引き続き2か月以上修学することができないときは、理由を付し、保証人連署のうえ願い出て休学の許可を得なければならない。

#### I) 休学の手続き

- イ. 休学願に添えて次の書類を提出すること。
  - (1) 傷病の場合は、医師の診断書
  - (2) 外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類
  - (3) その他の理由の場合は、保証人連署の休学を必要とする理由書
- ロ. 休学の手続き期限は当該年度の11月30日までとする。
- ハ. 休学理由が休学許可日より2か月未満の期間内に消滅したときは、保証人連署の休学取り下げ願により休学を取り消すことがある。

#### II) 休学の期間

- イ. 休学の期間は1学年を区分とし、休学の許可を受けた日から当該年度の3月31日までとする。
- ロ. 引き続き休学を要する特別な事情があるときは、許可を得てさらに1年に限り休学することができる。
- ハ. 休学期間は通算4年を超えることはできない。
- ニ. 休学が許可された年度は在学年数に算入しない。

#### III) 休学する場合の学費

休学を願い出る者は当該期の学費を納入していること。

| 休学願提出日       | 学費                |
|--------------|-------------------|
| 4月1日～9月30日   | 前期分納入済のこと。(後期分免除) |
| 10月1日～11月30日 | 前期分・後期分共納入のこと。    |

#### IV) 休学原級

休学を許可された者は、翌年度は現学年に原級留置とする。

### 3. 復学

- イ. 休学した者が復学する場合は、前期学費を納入の上、保証人連署の復学願を4月10日までに提出し許可を得ること。
- ロ. 傷病で休学した場合は、通学可能なことを証明する医師の証明書を添えること。

#### 4. 退 学

傷病その他やむを得ない事由で退学しようとする者は、所定の退学願を提出し許可を得ること。

- イ. 退学願は、退学理由を付し保証人連署で願い出ること。
- ロ. 退学願提出時に学生証を返却すること。
- ハ. 退学年月日は次のとおりとする。
  - (1) 当該期学費納入者……退学願提出日
  - (2) 当該期学費未納者……学費納入済学期の最終日

#### 5. 除 籍

次の事項に該当する者はこれを除籍する。

- イ. 在学年数を越えた者
- ロ. 休学期間を越えた者
- ハ. 学費の納付を怠り、督促を受けてもなお納入しない者

#### 6. 懲 戒

- イ. 本大学の学則等に違反し、その他学生の本分に反する行為があった場合、情状により譴責、停学、退学の処分をする。
- ロ. 退学処分は次の事項のいずれかに該当する者に対して行う。
  - (1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者
  - (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
  - (3) 正当の理由がなくて出席常でない者
  - (4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

#### 7. 編 入 学 (学士入学)

本大学卒業生(卒業見込者)で卒業学部他学科または他学部学科の3年次または2年次に編入学を希望する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上入学を許可する。

- イ. 3年次編入を出願していても、志望学科の単位認定の結果、2年次に入学を許可することがある。
- ロ. 3年次または2年次に編入学を許可された者は、既にそれぞれ2年または1年の在学年数を経たものとする。

#### 8. 再 入 学

本大学を退学した者または除籍された者で、再入学を希望する者があるときは選考の上許可することがある。

- イ. 入学後1年未満で退学した者または除籍された者は対象としない。
- ロ. 退学または除籍後3年以内の者とする。(出願時を基準とする)
- ハ. 再入学者の在学年数は、従前在学した年数と通算し7年以内とする。

#### 9. 転部・転科

本大学の学生で、同一学部の他学科または他の学部学科に転科もしくは転部を希望する者があるときは、選考の上許可することがある。(学科により異なる)

転部・転科した者の在学年数は、転部・転科した年次にかかわらず、入学の時期から通算する。

## 10. 留 学

本大学の学生で、外国の大学または短期大学の授業科目の履修を希望する者があるときは、教授会の議を経てこれを許可することがある。

- イ. 履修した授業科目の修得単位については、本大学において修得したものとみなし、卒業所要単位に算入することができる。
- ロ. 留学期間は在学年数に算入する。

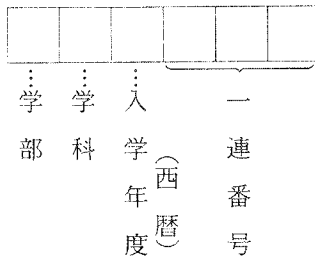
## 11. 学生氏名・保証人

- イ. 届け出の学生氏名は、戸籍抄本または外国人登録済証明書に記載されたとおりとする。
- ロ. 外国人登録済証明書に記載されている通称名の使用を希望する者は、願い出て許可を得ること。
- ハ. 通称名使用の許可を得た者は、本大学在学中一貫して通称名を使用することとし、本大学発行の証明書、成績表、各種名簿等はすべて通称名で表示する。
- ニ. 保証人は日本国内に在住する親権者もしくはそれに準ずる者で、独立の生計を営む成年者とし、在学中の一切の事項について保証する者とする。
- ホ. 学生・保証人の氏名住所等に変更があったときは、すみやかに所定の変更届を提出すること。

## 12. 学 生 番 号

- イ. 学生番号は在学中はもとより、卒業後も不変の本人固有番号となるので正確に覚えておくこと。
- ロ. 学生番号は6桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせてある。

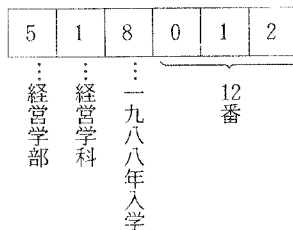
### 学生番号区分



### 学部・学科の番号

| 学 部 ・ 学 科 名 | 学部番号 | 学科番号 |
|-------------|------|------|
| 仏 教 学 部     | 1    |      |
| 禅 学 科       |      | 1    |
| 仏 教 学 科     |      | 2    |
| 文 学 部       | 2    |      |
| 国 文 学 科     |      | 1    |
| 英 米 文 学 科   |      | 2    |
| 地 理 学 科     |      | 3    |
| 歴 史 学 科     |      | 4    |
| 社 会 学 科     |      | 5    |
| 経 済 学 部     | 3    |      |
| 経 済 学 科     |      | 1    |
| 商 学 科       |      | 2    |
| 法 学 部       | 4    |      |
| 法 律 学 科     |      | 1    |
| 政 治 学 科     |      | 2    |
| 経 営 学 部     | 5    |      |
| 経 営 学 科     |      | 1    |

(例) 1988年度入学・経営学部経営学科12番の場合



## X 既修得単位の認定について

### イ. 新たに第1年次に入学した者の既修得単位の認定

- (1) 他の大学または短期大学（外国の大学または短期大学を含む）を卒業または中途退学し、新たに本学の第1年次に入学した者については、学則第30条の2により、従前在学した大学等において既に修得した授業科目の単位のうち、一般教育科目、外国語科目および保健体育科目については、合計30単位を超えない範囲で本大学において修得した単位として認定することができる。
- (2) 既修得単位の認定を受けようとする者は、入学した年度の4月2日までに既修得単位認定申請書（所定様式）に成績（単位修得）証明書を添えて、教務部長に願い出なければならない。
- (3) 既修得単位の認定は、教務部長を経て当該教授会がこれを行う。

### ロ. 編入学者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位のうち、出願時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会で認定した授業科目の単位は、卒業所要単位の算入される。

### ハ. 再入学者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位については、再入学時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会でこれを認定する。

### ニ. 転部・転科者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位のうち、出願時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会で認定した授業科目の単位は、卒業所要単位の算入される。

この単位認定については、昭和62年度新入生、編入学者、再入学者および転部・転科者から適用する。

## XI 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

| 種 類 |                 | 要 領 (必要書類)  | 本人印 | 保証人印 | 取扱窓口 |
|-----|-----------------|---|-----|------|------|
| 届   | 単 位 履 修 届       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・各年度に単位修得しようとする授業科目を指定期日に必ず届け出ること。</li> </ul>  | 要   | 不要   | 掲示   |
|     | 欠 試 届           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・本人履修全科目の試験終了後直ちに届け出ること。(締切日は掲示参照)</li> </ul>  | 不要  | 不要   | ⑨    |
|     | 改 氏 名 届         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・戸籍抄本添付。</li> <li>・変更後1週間以内。</li> </ul>  | 要   | 不要   | ⑤    |
|     | 本 籍 地 変 更 届     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・戸籍抄本添付。</li> <li>・変更後1週間以内。</li> </ul>  | 要   | 不要   |      |
|     | 保 証 人 変 更 届     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・在学誓書(保証書)添付。</li> <li>・変更後1週間以内。</li> </ul>   | 要   | 要    |      |
|     | 保 証 人 住 所 変 更 届 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・変更後1週間以内。</li> </ul>  | 要   | 不要   |      |
|     | 死 亡 届           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・死亡診断書添付。</li> </ul>   | /   | 要    |      |
| 願 書 | 休 学 願           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・傷病による場合は、医師の診断書添付。</li> <li>・外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類。</li> <li>・その他の場合は、保証人連署の理由書。</li> </ul> | 要   | 要    | ⑤    |
|     | 復 学 願           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・傷病による休学をした場合は、医師の通学可能である証明書添付。</li> <li>・4月10日までに提出すること。</li> </ul>                                   | 要   | 要    |      |
|     | 退 学 願           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・学生証添付。</li> </ul>   | 要   | 要    |      |

## XII 各種証明書取扱い窓口

| 証 明 書 名                                      | 取 扱 窓 口   | 料 金                                 |
|--|-----------|-------------------------------------|
| 成績・卒業見込証明書（卒業年次生のみ）                          | 教務部④番     | 1通 100円<br><br>(英文証明書)<br>(1通 300円) |
| 成 績 証 明 書                                    |           |                                     |
| 卒 業 証 明 書                                    |           |                                     |
| 学 士 証 明 書                                    |           |                                     |
| 教員免許状取得見込証明書                                 |           |                                     |
| 単 位 修 得 証 明 書<br>(教職, 司書教諭, 学芸員, 社会教育, 社会福祉) |           |                                     |
| 一般教養科目修了（見込）証明書                              |           |                                     |
| そ の 他 の 諸 証 明 書                              |           |                                     |
| 人 物 考 査 書                                    | 就 職 部     |                                     |
| 健 康 診 断 証 明 書                                | 学 生 部 ③ 番 |                                     |
| 在 学 証 明 書                                    | 学 生 部 ② 番 |                                     |
| 学 割  |           | 無 料                                 |
| 通 学 証 明 書                                    |           | 無 料                                 |

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料も同様）の上、取扱い窓口に申し込むこと。発行は原則として3日後。

教務部取扱い証明書は、6月下旬から9月中旬までと3月は大変混雑するので、掲示に注意し、十分余裕をもって申し込むこと。



## 試験実施規程（抜粋）

（昭和59年7月13日制定）

### （目的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

### （試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

### （試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
- (2) 追加試験（以下「追試験」という。） 病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
- (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
- (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担当教員が中間考査として行う試験をいう。

2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。

3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。

- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
- (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
- (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

### （試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担当教員の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

### （試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

### （受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。
- (2) 授業料その他の学費を納入していること。

2. 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
3. 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試験届及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
4. 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき。
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき。
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき。
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき。

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点~80点)、良(79点~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

## 進 級 規 程

(昭和51年4月1日制定)

昭和62年2月23日改正

### (目 的)

第1条 この規程は、駒沢大学学則第14条に基づき、学生が上級学年に進級するために必要な修得単位数の基準を定めることを目的とする。

### (進級基準単位数)

第2条 学生が上級学年に進級するときは、卒業所要単位数のうち、次の各号の一に該当する単位数を修得していなければならない。

- (1) 1年から2年に進級するときは、30単位以上修得していること。
- (2) 2年から3年に進級するときは、60単位以上修得していること。
- (3) 3年から4年に進級するときは、仏教学部、文学部、経済学部、経営学部、経済学部第2部、法学部第2部、経営学部第2部においては90単位以上、法学部においては99単位以上を修得していること。ただし、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の所要単位をすべて修得していなければならない。

### (注意進級基準単位数)

第3条 前条の規定にかかわらず、卒業所要単位数のうち、次の各号の一に該当する単位数を修得しているときは、本人に注意を喚起し、上級学年への進級を認めることができる。

- (1) 1年から2年への進級を認めるときは、20単位以上修得していること。
- (2) 2年から3年への進級を認めるときは、経営学部及び経営学部第2部においては48単位以上、他の学部においては50単位以上修得していること。
- (3) 3年から4年への進級を認めるときは、次に掲げる条件の一に該当していること。
  - ア. 仏教学部、文学部、法学部第2部においては、90単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が12単位以下であること。
  - イ. 経済学部及び経済学部第2部においては、90単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が16単位以下であること。
  - ウ. 法学部においては、99単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が12単位以下であること。
  - エ. 経営学部においては86単位以上、経営学部第2部においては84単位以上を修得し、かつ、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が12単位以下であること。

### (原 級)

第4条 修得単位数の合計が、注意進級基準単位数に達しない者は、原級に留め置くものとする。

### 附 則

#### 省 略



## 講 義 内 容 目 次

|                     |      |
|---------------------|------|
| 一 般 教 育 科 目 .....   | (37) |
| 保 健 体 育 科 目 .....   | (41) |
| 随 意 科 目 .....       | (42) |
| 基 礎 教 育 科 目 .....   | (45) |
| 専 門 教 育 科 目 .....   | (46) |
| 他 学 部 履 修 科 目 ..... | (55) |

[ 卷 末 ]

教職および資格講座



## 一般教育科目

### 人文分野

|   |    |
|---|----|
| 宗教学 I (池田 練太郎) .....                            | 37 |
| 宗教学 I (阿部 慈園) .....                             | 37 |
| 宗教学 I (伊藤 隆寿) .....                             | 37 |
| 宗教学 I (山内 舜雄) .....                             | 37 |
| 宗教学 I (再クラス) (岡部 和雄) .....                      | 37 |
| 宗教学 I (再クラス) (前期) (奈良 康明)<br>(後期) (阿部 慈園) ..... | 37 |
| 宗教学 II (皆川 広義) .....                            | 37 |
| 宗教学 II (椎名 宏雄) .....                            | 37 |
| 宗教学 II (佐々木 章格) .....                           | 38 |
| 宗教学 II (中尾 良信) .....                            | 38 |
| 哲学 (戸田 洋樹) .....                                | 38 |
| 論理学 (久保 陽一) .....                               | 38 |
| 倫理学 (國嶋 一則) .....                               | 38 |
| 文学 (蘭部 幹生) .....                                | 38 |
| 歴史学 (茂澤 方尚) .....                               | 38 |

### 社会分野

|                     |    |
|---------------------|----|
| 法学憲法 (茂野 隆晴) .....  | 39 |
| 社会学 (岩上 真珠) .....   | 39 |
| 地理学 (中島 義一) .....   | 39 |
| 統計学 (日下 泰夫) .....   | 39 |
| 文化人類学 (小川 順敬) ..... | 39 |
| 文化人類学 (村武 慶) .....  | 39 |

### 自然分野

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 自然科学概論 (清水 善和) .....  | 40 |
| 自然科学概論 (宇和川 正人) ..... | 40 |
| 自然科学概論 (篠原 正雄) .....  | 40 |
| 数学 (福田 賢一) .....      | 40 |
| 心理学 (大塚 秀治) .....     | 40 |
| 心理学 (鈴木 順一) .....     | 40 |

## 保健体育科目

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| 保健体育理論 (高橋 俊介) .....        | 41 |
| 保健体育理論 (館岡 儀秋) .....        | 41 |
| 保健体育理論 (再クラス) (三幣 晴三) ..... | 41 |
| 保健体育理論 (再クラス) (森本 葵) .....  | 41 |

## 随意科目

|  |    |
|--|----|
| 比較思想特講 (窪 徳忠) .....  | 42 |
| 英会話 II (J.K. ウェルズ・J.G. ギャリソン・<br>T.J. コーガン・P.A. ベンディネリイ) ..... | 42 |
| 英語 L L II (T. J. コーガン・大庭 直樹) .....                             | 42 |
| ドイツ語 F (吾妻 雄次郎) .....  | 42 |

|   |    |
|---|----|
| ドイツ語 FLL (初級) (松本 洋子) .....                 | 42 |
| ドイツ語 FLL (中級) (野島 利彰) .....                 | 42 |
| フランス語 F (前田 祝一) .....                       | 42 |
| フランス語 FLL (初級) (小玉 齊夫) .....                | 42 |
| フランス語 FLL (初級) (M. マルタン) .....              | 43 |
| フランス語 FLL (中級) (M. マルタン) .....              | 43 |
| 中国語 F (釜屋 修) .....                          | 43 |
| 中国語 FLL (初級) (果 荃英) .....                   | 43 |
| 中国語 FLL (中級) (羅 濠明) .....                   | 43 |
| スペイン語 F (前期) (細川 幸夫)<br>(後期) (佐藤 玖美子) ..... | 43 |
| スペイン語 FLL (初級) (J. ナバロ) .....               | 43 |
| スペイン語 FLL (中級) (J. ナバロ) .....               | 43 |
| ロシア語 F (杉山 秀子) .....                        | 43 |
| ロシア語 FLL (初級) (野村 タチアナ) .....               | 44 |
| ロシア語 FLL (中級) (野村 タチアナ) .....               | 44 |
| 英語 (海外演習) .....                             | 44 |

## 基礎教育科目

|                      |    |
|----------------------|----|
| 経済学概説 (中村 雄次郎) ..... | 45 |
| 経営学概説 (鈴木 幸毅) .....  | 45 |

## 専門教育科目

|                        |    |
|------------------------|----|
| 簿記学 (近藤 禎夫) .....      | 46 |
| 簿記学 (中平 榮一) .....      | 46 |
| 簿記学 (久松 治夫) .....      | 46 |
| 簿記学 (木下 照嶽) .....      | 46 |
| 簿記学 (東海 幹夫) .....      | 46 |
| 簿記学 (高木 克己) .....      | 46 |
| 経営学 (小野寺 孝一) .....     | 47 |
| 会計学 (渡辺 恵一郎) .....     | 47 |
| 経営史 (前田 和利) .....      | 47 |
| 経営管理論 (鈴木 幸毅) .....    | 47 |
| 企業形態論 (渡辺 行男) .....    | 47 |
| プログラミング論 (高井 徹雄) ..... | 47 |
| プログラミング論 (西村 和夫) ..... | 48 |
| 原価計算論 (近藤 禎夫) .....    | 48 |
| 近代経済学 (滝田 公一) .....    | 48 |
| 日本経済史 (北島 万次) .....    | 48 |
| 統計原論 (後藤 儀一郎) .....    | 48 |
| 民法 I (山本 豊) .....      | 48 |
| 商法 I (荒木 正孝) .....     | 48 |
| 経営学史 (北村 健之助) .....    | 48 |
| 経営財務論 (高田 光明) .....    | 49 |
| 経営労務論 (中村 真人) .....    | 49 |
| 経営組織論 (池内 守厚) .....    | 49 |
| 経営技術論 (小野寺 孝一) .....   | 49 |

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 経営情報論 (加藤 武信) .....       | 49 |
| 経営科学 (日下 泰夫) .....        | 50 |
| 公益企業論 (石井 彰次郎) .....      | 50 |
| マーケティング論 (武田 康) .....     | 50 |
| 商業経営論 (森宮 勝子) .....       | 50 |
| 保険経営論 (石名坂 邦昭) .....      | 50 |
| 銀行経営論 (大岡 誠市) .....       | 50 |
| 国際経営論 (武田 康) .....        | 50 |
| 日本経営史 (斎藤 憲) .....        | 51 |
| 経営統計 (後藤 儀一郎) .....       | 51 |
| 財務会計論 (久松 治夫) .....       | 51 |
| 管理会計論 (長松 秀志) .....       | 51 |
| 経営分析論 (片桐 伸夫) .....       | 51 |
| 税務会計論 (高木 克己) .....       | 51 |
| 会計監査論 (中平 榮一) .....       | 51 |
| 証券市場論 (柳澤 公正) .....       | 51 |
| 商業史 (山田 勝) .....          | 52 |
| 経済政策 (西山 司) .....         | 52 |
| 財政学 (速水 昇) .....          | 52 |
| 金融論 (石野 典) .....          | 52 |
| 国際経済論 (永田 智則) .....       | 52 |
| 国際金融論 (池田 健) .....        | 52 |
| 日本経済論 (羽鳥 茂) .....        | 52 |
| 民法Ⅱ (上井 長久) .....         | 52 |
| 外書講読 (英) (木下 照嶽) .....    | 53 |
| 外書講読 (英) (羽鳥 茂) .....     | 53 |
| 外書講読 (英) (前田 和利) .....    | 53 |
| 外書講読 (独) (百濟 勇) .....     | 53 |
| 外書講読 (仏) (滝田 公一) .....    | 53 |
| 外書講読 (中) (松本 丁俊) .....    | 53 |
| 外書講読 (ス) (細川 幸夫) .....    | 53 |
| 商法Ⅱ (島原 宏明) .....         | 54 |
| 労働法 (藤本 茂) .....          | 54 |
| 演習Ⅱ (3年次選択) (高井 徹雄) ..... | 54 |
| 演習Ⅱ (3年次選択) (中村 真人) ..... | 54 |
| 演習Ⅱ (3年次選択) (西村 和夫) ..... | 54 |



# 一般教育科目

## 人文分野

### 宗教学 I

池田 練太郎

宗教のもつ基本的な問題について考えた後、仏教の思想及び社会的側面について、歴史的展開を踏まえながら検討していこうと思う。

〔教科書〕 『宗教学 I』（更生社）

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

### 宗教学 I

阿部 慈園

宗教に対する全般的理解を深め、特に仏教（とりわけ禅）に対する基礎的学識を培う。『宗教学 I』（更生社）をテキストと用いるが、随時ノートにて捕う。

〔教科書〕 『宗教学 I』（更生社）

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

### 宗教学 I

伊藤 隆寿

宗教とは何かという問題について、その基本的テーマを取り上げて考えてみたい。また日本人にとって身近な宗教である仏教に対する理解を深めるようにする。

〔教科書〕 『宗教学 I』（更生社）¥1,950

### 宗教学 I

山内 舜雄

教科書を使用する。下記宗教学 I。

一般宗教学の入門から、世界の諸宗教を概説して仏教に至り、特に大乘仏教について詳説する。

〔教科書〕 山内舜雄編『宗教学 I』（駒沢書房）

### 宗教学 I（再クラス）

岡部 和雄

前半では宗教とは何かという問題について、現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

『仏教の歩んだ道 I』（東京書籍）

### 宗教学 I（再クラス）

（前期）奈良 康明  
（後期）阿部 慈園

人間生活における宗教、仏教の意味、機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

『仏教のおしえ』（東京書籍）

### 宗教学 II

皆川 広義

はじめに、日本人の心に大きな影響をあたえてきた仏教について、教主釈尊の教えを中心に概説する。

次に、仏教のなかで、生活化された仏教といわれる禅について、その歴史を中国・日本へとたどりながら、思想や創造した禅文化について考究したい。

〔教科書〕 山内舜雄編『宗教学 II』（更生社）

### 宗教学 II

椎名 宏雄

宗教学 I で学習した基礎の上に上り、仏教思想の中でも特に東洋的な多くの特長をもつ禅について、広い視野からの総合的な理解を目指す。

講義はノート筆記を主とし、(1)仏教と禅、(2)禅の歴史(3)禅の実践、(4)禅の思想、(5)禅と文化、(6)禅と経営、の順に進める。学習とは、それを理解し身につけることであって、試験のために暗記することではあってはならない。

したがって、講義の中で、随時に関連したテーマをとりあげ、現実の問題として学生諸君とともに考えてゆきたい。坐禅の実習も行う。

〔参考書〕 鎌田茂雄『現代人の仏教』（月刊ペン社）

## 宗 教 学 II

佐々木 章 格

すでに宗教学Iにおいて、宗教の概説、インド・中国・日本の仏教を学んだことと思う。この宗教学IIにおいては、さらにすすんで日本文化にも多大の影響を及ぼしている「禅」について探求する。

禅は理論も知らなければならないが、同時に生活の上に実践できなければ意味がない。今日、一般の人々が仏教とりわけ禅に寄せる関心の高さには驚かされるものがある。

ここでは、「禅」の概要および中国・日本における禅宗の歴史と変遷を、その時代時代の禅者を通して考えながら学び、思想的理解を深める。

〔教科書〕 山内舜雄編『宗教学II』（更生社）

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

## 宗 教 学 II

中 尾 良 信

宗教学Iで、仏教の一般的理解をすすめたあとを受け、禅、とくに中国・日本の禅の歴史を詳しく考える。中国の禅についても、日本との関係、影響を与えた点に言及し、日本の禅については、日本仏教全体の中で捉えることを主眼とする。また禅の持つ文化的側面をも考え、あわせて曹洞宗に対する基本的理解をすすめたい。

〔教科書〕 山内舜雄編『宗教学』（更生社）

## 哲 学

戸 田 洋 樹

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているのかわからない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならない。そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識の獲得にも努める。

〔教科書〕 その都度指示する。

## 論 理 学

久 保 陽 一

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考すべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむろんのこと日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得に努める。

〔教科書〕 その都度指示する。

## 倫 理 学

國 嶋 一 則

倫理学は、われわれがいかに生き、何を行為すべきかを探究する学問である。つまり、人間の行為に関する哲学である。人間として正しい行為とか、真実の行為とか理性的行為といわれるものは、人生の原理（人生観）や世界の原理（世界観）に従った行為である。日常の人生観や世界観は、動揺して確実なものではないから、古代から現代にいたる主な哲学者たちの思想を研究して、各自の確実な人生観や世界観の確立に努める。

〔教科書・参考書〕 その都度指示する。

## 文 学

蘭 部 幹 生

現代は機械化の時代であり、スピード化の時代であると言われて久しい。そうした中で、現代人の多くが異性にやさしさを求めるのは、無意識のうちに心の寄り所を捜しているのかも知れない。ところでこの「やさし」の語は古典の世界では多様な意味において用いられる。今年はこの言葉を縦軸にして、上代から中世あたりまでの古典作品を読み、古典の世界と古代人の心の在り方を考えてみたいと思う。

〔教科書〕 講義の都度、印刷物にして配布する。

## 歴 史 学

茂 澤 方 尚

中国古代史、特に先秦時代の西北方の少数民族の動向を中心にしながら、基本的な文献について講述する。

〔参考書〕 その都度適宜に指示する。

# 社会分野

## 法学憲法

茂野隆晴

平素の日常民活のなかでは余り意識されることがないかもしれないが、われわれは多種多様な法制に囲繞されており、ときにそれによって重大な影響を被ることも少なくない。こうした状況のもとで、正しい法知識、法的素養を身につけることは必須の要件といつてよい。

法律は、ともしれば無味乾燥なものとして理解されている向きがある。そこで、成るべく身近な問題に照して平易に講述していく。

講義は、前半で、わが国の法制の歴史的変遷、現代国家の仕組みなどを概観したうえで、現代法の特性に及ぶ。後半では、教養としての憲法を念頭におき、憲法全般の解釈をおこなう。

〔教科書〕 山口嘉三・大久保治男編『法学要説』  
(芦書房)

大久保治男・茂野隆晴・櫻井一成共著  
『現代法学』(高文堂出版社)

〔参考書〕 適宜指示します。

## 社会学

岩上真珠

個人は、社会に生み込まれ、社会の一員としてさまざまな社会現象に遭遇する。講義では、家族、近隣、学校、職場といった個人が出会う身近な現象を、誕生から子ども時代、青年期、成人期、老年期を経て死に至る個人の生活史に即して、考察してみたい。講義を通して、個人にとって社会とは何かを理解する“社会学の眼”を養ってもらおうことを目指す。

〔教科書〕 P. バーガー・B. バーガー共著、『バーガー社会学』(学習研究社) ¥2,600

〔参考書〕 授業中、適宜指示する。

## 地理学

中島義一

地理学の諸分野のうち、日本の歴史地理に重点をおいて講義する。下記の教科書のほか、地図帳(高校生の時に使ったものでよい)を忘れずに持ってくる。

〔教科書〕 矢守一彦『空から見た歴史景観』(大明堂) ¥2,200

## 統計学

日下泰夫

統計学は経営、経済等の諸問題を解決する1つの有力な手法であり、広範な領域で利用されている。本講義では、統計学の基本的な考え方を説明する。特に、理解を深めるための演習をできるだけ実施する。さらに、この分野でコンピュータがどのように利用されるかを理解するための「パソコンによる実習」(度数分布法、正規乱数の発生、確率分布の計算、モンテカルロ・シミュレーション等)も行う。

1. 統計学の歴史 2. 統計的方法の本質 3. 記述統計 4. 標本空間と確率 5. 確率変数と確率分布 6. 母集団と標本 7. 推定 8. 検定 9. 相関 10. 回帰

〔教科書〕 P. G. ホーエル(浅井 晃・村上正康 共訳)『初等統計学』(培風館) ¥1,450

〔参考書〕 開講時に紹介する。

## 文化人類学

小川順敬

文化人類学は様々な文化の比較・研究を通じて、「人間の理解」を目指しています。講義では、文化人類学の目的や特色、基本的な考え方を、「社会構造」「文化とパーソナリティ」「宗教と世界観」などの問題を検討していく中で、明らかにしていきたい。

## 文化人類学

村武慶

私達は、ややもすると、自分達の生活様式、家族・親族の形態、自分達の宗教を最高のものと思いがちであるが、必ずしもそうではないことを、いろいろな民族、社会を比較して学んでいきたい。

〔教科書〕 『文化人類学を学ぶ』(有斐閣選書) ¥1,100

〔参考書〕 『文化人類学』(有斐閣双書)

# 自然分野

## 自然科学概論

清水善和

核と原子力、人口と食糧、バイオテクノロジー、環境汚染、自然保護など、現在地球的規模で話題となっている諸問題を取りあげ、自然と人間とのかかわりあいについて考える。

## 自然科学概論

宇和川正人

自然環境と資源の諸問題について解説する。あわせて、資源の開発と人類とのかかわりあいについて考察する。  
〔参考書〕 その都度紹介する。

## 自然科学概論

篠原正雄

自然科学は物理学、化学、生物学、地質学、天文学等の分野から成っている。一年間の講義では全体を隅なく見渡すことはできないが、基本的なテーマやホットなテーマを幾つか選んで、現代科学の自然像を浮彫にしたい。「物質とエネルギー」「宇宙の進化と生命の起源」等のテーマについて、研究史を交えて解説する。  
〔参考書〕 八杉龍一『図解 科学の歴史』（東京教学社）¥1,700

## 数 学

福田賢一

現代数学の概念、方法を社会科学との関連、応用に力点をおき解説する。内容は次のとおりである。

(1)論理 (2)線形代数 (3)解析 (4)確率・統計  
予備知識は特に必要としない。

〔教科書〕 『新しい数学』（東京教学社）¥1,400

## 心 理 学

大塚秀治

心理学は人間の“こころ”と“行動”をその研究対象とした科学である。ここでは心理学の基礎的な問題を学び、心理的な研究方法、考え方を身につける。また、時間が許せば簡単な実験を行い、実際の場面で理解を深める。なおこの講義は基礎心理学を中心に行うので、精神分析、カウンセリング等に関心のある諸君は選択すべきではない。

〔教科書〕 『心理学概説』（八千代出版）

〔参考書〕 『新心理学』（八千代出版）

## 心 理 学

鈴木順一

心と行動の科学であろうとしている心理学は、人間行動を予測し制御しようとする行動科学や、自己を理解し自己を制御しようとする臨床的アプローチ等として発展しつつある。本講座では、主として臨床心理学やパーソナリティ心理学を中心に、カウンセリングや心理療法を体験実習しながら、自己をみつめ自己を知りセルフ・コントロールできるよう自己成長をめざしてグループ学習を進める。集団学習上、次のルールを守らねばならない。  
①欠席をしないこと。②時間を守ること。③私語をしないこと。最初の授業で述べる学習方針を良く理解し、自己の責任において主体的に選択すること。自己をみつめ探究している求道者のみが受講されんことを希望する。

〔教科書〕 『カウンセラーへの道』（創元社）

¥1,200

〔参考書〕 『心理学概説』（八千代出版）その他は、その都度授業内で指示します。

# 保 健 体 育 科 目

## 保健体育理論

高 橋 俊 介

- 「身体のための教育」
- 「運動による教育」
- 「今日の体育運動のおいたち」
- 「健康の面から起った運動」
- 「なぜ運動は必要か」
- 「運動をすると身体にどんな影響をあたえるか」
- 「運動の別名」
- 「ボールゲーム」
- 「技術学習」

## 保健体育理論

館 岡 儀 秋

健康と体力について全般的知識を深め、特に日常生活の中での、身体活動、スポーツ、レクリエーションの必要性、現代社会においてのスポーツ、レクリエーションの問題点について講義する。

〔教科書・参考書〕 授業時に説明する。

## 保健体育理論（再クラス）

三 幣 晴 三

体育・スポーツに関する全般的知識、特に生涯体育、スポーツの文化的視点からの考察、人間の運動に関する実際の考察を中心とし、さらに現在および将来にむけての健康的内容を取りあつかう。

## 保健体育理論（再クラス）

森 本 葵

- 体力づくり
  - <若年層における体力づくりの必要性>
  - <体力のメカニズム>
  - <体力づくりの方法>
  - <体力づくりにかかわる疲労の問題>
  - <疲労の判定法>
- オリンピックゲーム
  - <歴 史>
  - <問題点>
  - <その将来>

〔教科書〕 『保健体育理論』（科学書院）

〔参考書〕 『スポーツ・トレーナー教本』（日体協）

# 随 意 科 目

## 比較思想特講

窪 徳 忠

まず道教について簡単に説明したのち、中国の文化、とくにその信仰・習俗のうちから道教に関連の深いと思われるものを選んで、日本で現行されている信仰・習俗との比較を扱ってみたい。地域的には沖縄や奄美地方が中心となるが、その他の地方にも言及する。なお、必要に応じてスライドを使用して、一層の理解を深める予定である。

〔参考書〕 窪『中国文化と南島』（第一書房）  
¥2,500

## 英 会 話 II

J.K. ウェルズ・J.G. ギャリソン  
T.J. コーガン・P.A. ベンディネリ

全学で4クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。

担当名及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認し、詳しくは教場で教師の説明に従って下さい。

〔教科書〕 テキストは担当教師が教場にて指示。

## 英 語 I L II

T. J. コーガン・大庭 直樹

英語I, L Iのアドバンスト・コースとして全学で2クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。1年次に英語L L Iを履修しなかった学生も参加し履修できるようにしてあります。

担当名及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認して下さい。

〔教科書〕 テキストは担当教師が教場にて指示。

## ド イ ツ 語 F

吾 妻 雄次郎

主として一、二年次でドイツ語を履修した学生諸君を対象に、第二次大戦前後の短編小説を通して、ドイツの特異性の一端に触れ、同時にドイツ文法の更に包括的な習得につとめる。

〔教科書〕 プリントによる教材使用。

## ドイツ語 FLL (初級)

松 本 洋 子

ビデオテープ等の視聴覚教材を用いて、まず、生きたドイツ語に触れ、聴き取り能力をつけることをめざす。そして基本的な語彙や文型を身につけ、ドイツ語の基礎的な表現力を養成し、簡単な日常会話ができるようにしたい。テキストは教室で適宜配布する。

## ドイツ語 FLL (中級)

野 島 利 彰

週一回という限られた時間内で、I, Lを通して語学を学ぶ方法としては基本的には多数の文章の記憶以外にはない。耳から音を聴き、記憶し、そしてそれを口から出す。こうした機械的な——時には無味乾燥な——練習の場としてこの授業を活用して行きたい。

なお受講者には前年度にFLL (初級)をとった者を望む。

〔教科書・参考書〕 教場にて指示する。

## フ ラ ン ス 語 F

前 田 祝 一

フランス語中級から上級の勉強をしようとする人たちのためのクラスです。対象は3、4年生ですが2年生以下でも、続ける決意があればかまいません。テキストなどは教室で皆さんの希望をきいて決定します。

## フランス語 FLL (初級)

小 玉 齊 夫

ビデオ教材、カセットテープなどを用いて、視覚・聴覚を利用する授業を行っていきます。時間数が少いのが残念ですが、一年間で、何とか、「初級」程度のフランス語が、話せ、聞きとれるようになります。文法は、話したり聞きとったりするためには、役に立たないわけではありませんが、それほど重要とは言いきれません。ふ

だんと同じような、つまり日本語を話したり聞いたりするのと同じつもりで、授業に(休まずに)出てきて、声を出していれば、しぜんに、フランス語の会話(=おしゃべり)の基礎がつくられていく、はずです。初心者でも参加できるような授業内容にするつもりです。

〔参考書〕 開講時に指示します。

### フランス語 FLL (初級)

M. マルタン

初心者のための実用的なフランス語会話です。やさしい聞きとり練習や文章パターンの習得を通じて、基礎的会話に必要な表現能力を養成することを目的とします。

テキストは教室で配布します。

〔教科書〕 『Avec Plaisir』 Emission 1 より。

### フランス語 FLL (中級)

M. マルタン

初級会話にやや慣れた学生のための実用会話。初級会話を簡単に復習したあと、下記の教科書を使って、少し高度な聴きとり、及び表現の練習をします。

〔教科書〕 『Entrée Libre 1』

### 中国語 F

釜屋 修

すでに習得した中国語能力をいかしてより高く、より正確な中国語への理解力を高めるための共学の場合である。短篇小説、評論文を用いて文章解析力、朗読能力の向上に焦点をあてるとともに、簡単な日常会話力も身につけられるようにしたい。欠席しない人を求む。

〔教科書〕 開講後に受講生諸君の希望も聞き選定する。

〔参考書〕 その都度指示する。

### 中国語 FLL (初級)

果 荃 英

中国語初級を終えたものを主たる対象とし、正確な発音をマスターし、やさしい中国語の会話を習得することを目的とする。視聴覚教材を使用して楽しく授業を進めたいと思う。

〔教科書〕 教場にてプリントを配布する。

### 中国語 FLL (中級)

羅 漾 明

中国語FLL初級を終えたもの又は中国語を一年以上履修したものを対象とする。会話を中心として授業を進めます。

〔教科書〕 必要に応じて教場でプリントを配ります。

### スペイン語 F

(前期) 細川 幸夫  
(後期) 佐藤 玖美子

今世紀スペインの有名な歴史家であり社会学者であるアメリコ・カストロの著書“イベロアメリカ”の講読を行う。学生諸君が1、2年で習得したスペイン語の知識の深化、発展をはかると共に、中南米諸国がたどってきた苦難、屈折の歴史を知り、中南米の現状に対する理解を深め、また検討を加えることを試みたい。

〔教科書〕 プリント

### スペイン語 FLL (初級)

J. ナバロ

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。正規授業のスペイン語を履習している学生の受講を望みます。

### スペイン語 FLL (中級)

J. ナバロ

前年度LL初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

### ロシア語 F

杉山 秀子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力を身につけるための平易な読みもの——文学新聞の抜すい、諷刺漫画(クロコディル)、スポーツニクなどをさまざまな角度からとりあげていきたい。

〔教科書〕 プリントを教場で配布。

### ロシア語 FLL (初級)

野 村 タチアナ

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を学習する。正しいロシア語の発音やイントネーションを練習し簡単なロシア語の表現力を身につけることを目的とする。

〔教科書〕 教場にて指示。

### ロシア語 FLL (中級)

野 村 タチアナ

初級課程で得た知識を土台に更にロシア語独特な生の言いまわしや、日常会話の平均的速度になれてもらい、自由な発話への第一歩となる様に心がけていきたい。

〔教科書〕 教場にて指示。

### 英 語 (海外演習)

この授業科目は、ハワイ大学・カリフォルニア大学における短期留学サマーセミナーでの4週間・60時間に及ぶ現地演習を中心として行われる、英語随意科目である。

受講対象学生は、1年次生から卒業年次生までとし、6月上旬から7月上旬にかけての事前指導・事前講習、7月中旬から8月中旬にかけての現地演習、9月下旬のテストを通じて単位(2単位)が認定される。

受講希望者は、5月上旬に実施される説明会に参加し、5月中旬に所定の手続に従って申込みたい。受講の可否は、5月下旬に決定される。



# 基礎教育科目

## 経済学概説

中村 雄次郎

電車の中で『日本経済新聞』や『エコノミスト』といった経済新聞や週刊雑誌を読んでいる姿をよくみかけますが、その内どれだけの人がその内容を理解できているのでしょうか。もしその人達が学生時代に経営学や経済学をしっかりと身につけておれば、十分に内容を理解しているものと思われませんが、そうでなければ単に字面を追っているにすぎないでしょう。現在、3年生と4年生の『演習』で、『エコノミスト』を教材に使っておりますが、学生諸君の経済理論に対する力不足を痛感しています。したがって、昭和63年度の『経済学概説』は、昭和64年度の『経済原論』（選）と共に、経済学の理論を中心に講義します。講義内容は、プリントで配布します。

## 経営学概説

鈴木 幸毅

講義は次の項目に従って行なう。

1. 経営学の対象
2. 経営学の展開
3. 組織管理
4. 経営計画と経営戦略
5. 財務管理
6. 労務管理
7. 企業の発展と多国籍化
8. 企業の社会的責任
9. 「日本的経営」
10. 各国経営学

〔教科書〕 鈴木幸毅著『企業と管理の理論』（税経）  
¥1,700（多少変更の可能性有り）

# 専門教育科目

## 簿記学

近藤 禎夫

社会科学としての簿記・会計学は、計算技術的側面の理解のみにおわってはならない。

それが現実の社会・経済において、どのような役割を果たしているのかという点もあわせて解明する必要がある。このような視点から、一年間みっちり簿記論を講じてみたい。

〔教科書〕 敷田礼二編『資本主義と簿記』〔全訂版〕  
（ミネルヴァ書房）1984年

〔参考書〕 山口 孝『企業分析—経済民主主義への基礎』（新日本出版社）1977年  
野村秀和『現代の企業分析』（青木書店）1977年

## 簿記学

中平 榮一

複式簿記の原理について詳説する。また、講義のプロセスにおいて、商企業の複式簿記の記帳演習問題を出来るだけ数多くとりあげてゆきたい。

## 簿記学

久松 治夫

下記のテキストを使用し、複式簿記の基礎について講述する。内容は次の通り。

1 複式簿記の原理 2 取引の記帳 3 決算 4 商品の特殊売買取引 5 帳簿組織 6 本支店の簿記 7 株式会社の簿記 8 繰延資産と引当金

〔教科書〕 中村 忠『現代簿記』（白桃書房）  
¥2,400

〔参考書〕 開講時に指示する。

## 簿記学

木下 照嶽

この講義では、会計学および経営学系統の学習にとって欠くことのできない、簿記の基本的な原理を理解することに重点をおく。記帳練習、小テストおよび数的処理（計算力）が要求される。分り易く講義することを第1の目的としているが、学生諸君は全出席を念頭に真面目に勉強してほしい。計算機を毎時間持参すること。

〔教科書〕 武田安弘編著『最新簿記精説』（上巻・基礎編）（創成社）

## 簿記学

東海 幹夫

企業会計システムからアウトプットされるデータの理解と適切な運用なくして、企業を合理的に経営していくことは不可能である。複式簿記のシステムは、企業の外部および内部からの要請に基づいて考案された社会的制度的な計算技術である。

本講座は、この複式簿記の基本原則を習得してもらうためにある。講義は、一回一回の積み重ねによって総合的な理解を得てもらうように進められるから、学年末にまとめて勉強することは出来ない。必ず出席してその場でマスターして欲しい。

〔教科書〕 東海幹夫編著『情報化社会における簿記会計』（第三出版）

## 簿記学

高木 克己

企業会計において、簿記は経営活動の結果を帳簿に記録し、その事業の成果を明らかにするための会計技術的な側面を有している。そこで、簿記の基本的概念や簿記一巡の手続から、より高度な応用段階までを体系的に講義を行う。また、講義全般を通じて、より多くの問題を自らの手で解く機会を設けるため、記帳演習や小テストには力点を置く。なお、テキストは開講時に指示する。

## 経営学

小野寺 孝 一

初めに、日本で講じられている経営学の内容を知るために、1945年以後の、いわゆる教科書を幾つかとりあげて分析する。この分析批判に立って、次のような構成で論じることとする。経営の主体と、その行為としての経営を、その機構として理解し、それが資本制経済においておこなわれているものであるという認識で論じる。初めに経営の主体論（経営者論）。次に行為としての経営、技術論（マネジメント論）。更に資本制経済との関係において、興味深い展開をおこなっている中国経済において経営を観察し、その本質を理解する。最後に、こうした原理において考えられる経営学部のカリキュラムを論じて、経営学の原理とその応用の関係を把握する。

〔教科書〕 小野寺孝一『経営学：方法論考：』（白桃書房）¥2,000

〔参考書〕 小野寺孝一『経営技術論』（白桃書房）¥2,000

## 会計学

渡 辺 恵 一 郎

1年次の「簿記学」を基礎に、企業経営を計数的（貨幣的）に表現することの意味内容、方法などを考えさせる。具体的には、会計の基本的諸概念やわが国の会計制度に関する知識を修得して、企業活動の会計記録から財務諸表の作成に至る過程を理解できるように講義する。

〔教科書〕 染谷恭次郎『会計学』（改訂版）（中央経済社）¥2,200

〔参考書〕 『体系会計諸則集』（白桃書房）¥2,000

## 経営史

前 田 和 利

経済史は「企業経営とは何か」について史的に答えていくことに研究の意義がある。講義では、経営史学の課題と方法を検討し、そのうえにたつて事例研究をふまえて、企業経営の一般的発達史を論ずる。その際、経済過程や文化構造と関連させながら、企業経営者のタイプ、経営形態、企業形態、組織と管理などの問題に焦点をあてる。

〔教科書・参考書〕 開講時に指示します。

## 経営管理論

鈴 木 幸 毅

テイラーの「科学的管理」とその現代的展開を説明して伝統的管理論の構造と特質を明らかにし、「人間関係論」から「行動科学的管理論」への発展を跡づけさらに「近代管理論」をとりあげてその機能と本質を追求する。

〔教科書〕 鈴木幸毅著『現代組織理論』（税務経理協会）¥2,900

〔参考書〕 鈴木幸毅著『バーナード理論批判』（中央経済社）¥2,000

## 企業形態論

渡 辺 行 男

講義すべき主要の問題は以下のとおり。

- ① 企業形態の史的分析（とくに、2と3）
    1. 重商主義段階
    2. 自由主義段階
    3. 帝国主義段階
  - ② 現代資本主義における企業形態
    1. 現代株式会社（持株会社・コンツェルンなど）
    2. 現代公企業（公社・国家持株会社・国家コンツェルン、公企業の民営化など）
    3. その他の問題（生協・中小企業協同組合）
- 〔教科書・参考書〕 開講時に指示する。

## プログラミング論

高 井 徹 雄

高度情報化時代といわれる今日、計算機、特にパソコンの利用は経営現場において欠かせないものとなってきました。本講義では、初心者を対象に、楽しみながらパソコン利用の基礎から応用までを身に付けて頂くことを主眼として、

- (1)前期は下記教科書を用いて、BASIC言語による基本的プログラミング手法を学ぶ。
  - (2)後期はBASICを用いた統計解析やシミュレーションなど、実用的なプログラミング手法を学ぶ。
- なお、時間の許す範囲で、PASCALやC言語などによるプログラミングについても触れる予定です。

〔教科書〕 百合本 茂・広尾 純著『経済・経営のためのパソコンBASIC入門』（槇書店）¥2,300

〔参考書〕 プリント使用。

## プログラミング論

西村和夫

初心者を対象とし、経営情報処理のためのプログラミングの基礎を学ぶ。適宜実習を伴い体験的に学習する。具体的な内容は次の通りである。

- ・プログラム言語とは
- ・プログラムの作成から実行まで
- ・誤りを取り除く方法
- ・データ構造
- ・制御構造
- ・問題解決の方法
- ・OA機器を道具として利用するために

## 原価計算論

近藤禎夫

1988年度においては、下掲のテキストにより以下に示す内容を講義する。

1. 資本制的原価計算の役割とその考え方
2. 原価計算の概要
3. 原価の費目別計算
4. 原価の部門別計算
5. 個別原価計算の方法
6. 総合原価計算の方法
7. 標準原価計算
8. 経営計画と原価計算
9. 社会主義の原価計算方法
10. 原価計算の歴史

〔教科書〕 開講時に指示する。

〔参考書〕 敷田礼二・近藤禎夫著『原価公開』  
(新日本出版社)

## 近代経済学

滝田公一

本年度は「産業組織論」の入門的講義を行います。講義内容は以下のとおりです。

1. 産業組織論とは？
2. 競争と独占の厚生経済理論
3. 産業構造の決定要因
4. 寡占産業の経済理論
5. 寡占産業における協調要因
6. 寡占産業における非協調要因
7. 寡占と独占の動学理論
8. 垂直的統合の理論
9. 価格差別の理論
10. 製品差別化と市場構造

〔教科書〕 開講時に指示します。

## 日本経済史

北島万次

幕末・維新期の社会・経済史を扱う。

## 統計原論

後藤儀一郎

統計学は経営学や経済学は言うにおよばず、医学、社会学、自然科学などの各方面で広く用いられている。およそ実証研究しようとするとき、統計学の知識なしにできる場合というものは少ない。

統計学とは何か、統計学的考え方をどのようなものかについて、学習する。

〔教科書〕 吉野・後藤『現代統計解析』（芦書房）  
¥2,700

## 民法 I

山本豊

民法財産法の前半部分、すなわち民法総則と物権法についての概論的講義を行う。具体例や判例をできるだけ多く取り上げて説明するつもりであるが、受講に際しては、予めテキスト等で予習をしてくることを期待したい。

〔教科書〕 好美清光・米倉 明編『民法読本1』  
(有斐閣) ¥1,600

〔参考書〕 開講時に指示する。

## 商法 I

荒木正孝

本講義は商法総則および会社法を対象として行うが、とくに現代資本主義社会において我々の経済生活に大きな影響を与えている株式会社制度について、その生成、機能、構造等その私法的側面を規制する株式会社法に重点を置き、判例その他の具体例を挙げて解説したい。

〔教科書〕 荒木正孝『商法講義（総則・会社法）』  
(成文堂)

## 経営学史

北村健之助

ドイツ経営経済学（前史、成立、1・2・3次方法論争、現代の経営経済学）およびアメリカ経営学（成行管

理, 科学的管理法, 管理過程論, 行動科学的展開) 等々の発展過程を現代経営学を軸に探り, 経営学の基本問題に迫ることができればと思います。テキスト, 参考書は一応下記に示しましたが, 必要があればその都度他の参考書をお薦めする積りで。

〔教科書〕 藤芳誠一『図説 経営学』(学文社)

## 経営財務論

高田 光明

財務とは資本の調達と運用をいう。企業における財務の問題は, 労務とともに, 企業経営上重要な事からである。企業の財務を研究対象とする経営財務論は, 所要資本の調達問題から, 調達資本の運用問題へと研究の重点が移ってきている。この授業では, 経営財務論の以上のような現状を考慮しつつ, 基礎的な事からを中心に, 理解を深めるために適宜事例も取り入れて講義するつもりである。基本的参考書等は授業の始めに指示する。

## 経営労務論

中村 真人

経営労務論は, 広くは資本主義的経営のもとでの労働について研究する科学である。具体的には, 企業における人事・労務管理の諸制度や諸施策を対象としてきた。本講では, まず, 経営労務の本質, 歴史, 体系, 諸学説について総論的な概説を行なう。つづいて, 職務分析と人事考課, 雇用管理, 教育訓練管理, 賃金管理, 労働時間管理, 作業条件管理, 福利厚生管理, 労使関係管理, 職場の労務管理など, 各論へとすすむ。

講義のなかでは, 具体的な事例にも, 適宜, 言及していきたい。

〔教科書・参考書〕 開講時に指示する。

## 経営組織論

池内 守厚

現代は組織社会や企業社会だと言われる。われわれの大部分は, 何らかの組織に所属し, 活動し, 自己目的を追求し, あるいは生活の糧を得ている。

そこで, 講義では, 「個人と組織」という視点から, 経営組織に対し, 科学的・合理主義的, 社会的, 行動科学的, システム的なアプローチを試みたい。

さらに, 経済的・技術的・社会的・国際的な現代企業環境の変化に伴う組織イノベーションの問題を扱いたいと考えている。

人間, 個人と組織, 組織イノベーションなどの問題に関心のある学生諸君の参加を希望したい。

〔参考書〕 池内守厚著『人的資源と生産技術』(高文堂出版社)

## 経営技術論

小野寺 孝一

技術は資本制経済で大きく発展する。技術は本来, 使用価値目的を実現する方法であるが, それは資本制経済特有のものではない。それが何故このように発展したか。科学の発達をもたらしたというのだが, しかしそれをも含めて, 技術の発展は資本制経済という体制によるものではないか。そうすると, 技術はそこから把握することがなされなければならない。それが, 技術とは労働手段の体系であるという命題と考える。この理解が, 技術や経営技術の適用や開発において, 重要であることを説明する。実際はそれを理解せずして暗中摸索裏にその適用や開発をおこなっているのだが, その理解をうることは, その場合, 優位に立ちうるものと思う。

〔教科書〕 小野寺孝一『経営技術論』(白桃書房) ¥2,000

〔参考書〕 小野寺孝一『経営学:方法論考:』(白桃書房) ¥2,000

## 経営情報論

加藤 武信

経営管理におけるMIS(経営情報システム)の特質, 構造および機能について, 理論と技術の両側面から考察する。すなわち, ①MISの基礎, ②MISの理論と技法, ③MISの役割のそれぞれに関する内容, 特徴および問題点を明らかにする。

現在, ME(マイクロエレクトロニクス)による技術革新が急テンポで進行し, その基盤に支えられた高度な情報化社会が到来しつつある。OA(オフィスオートメーション)の進展や第5世代コンピュータの開発計画により, 企業における情報システムの構築内容がどのように変化するのか, 現時点で我々は何のような対策を講じるべきか等について検討を試みる。

〔教科書〕 長松秀志著『経営情報システム』(白桃書房) ¥2,900

〔参考書〕 経済企画庁国民生活局編『情報社会と国民生活』(大蔵省印刷局) ¥950  
現代技術史研究会編『コンピュータ問題入門講座』(技術と人間) ¥1,200

## 経営科学

日下 泰夫

科学的、定量的な問題解決を指向する経営科学の役割は、コンピュータの進歩・普及に支えられて益々重要となりつつある。本講義では、経営科学の基本的な考え方と方法を平易に紹介し、さらに、これらがコンピュータによって具体的にどの様に展開されるかを理解するための「パソコンによる実習」を行う。

1. 経営科学の概念 2. 経営科学におけるモデルの役割 3. オペレーションズ・リサーチ 4. 経済性分析 5. 経営と情報 6. 経営科学の展望

〔参考書〕 開講時に紹介する。

## 公益企業論

石井 彰次郎

1. 公益企業概念の成立
2. 公益企業の先駆形態
3. 競争と独占
4. 政府の規制
5. 公共企業体

以上のテーマの下、理論的・歴史的観点より説明を行う。

〔教科書〕 『公益企業の研究』（白桃書房）

## マーケティング論

武田 康

現代マーケティング論は経営システム論をベースとしてアメリカにおいて体系化された戦略経営論である。講義ではそれが発達を遂げた背景のアメリカの経済社会環境との関連において理論的体系を明らかにしてゆくこととする。

〔教科書〕 武田 康『整合戦略の経営』（創成社）  
¥3,200

## 商業経営論

森宮 勝子

商業経営論とは、生産者と最終消費者との中間において、商品もしくはサービスを購入・販売することを業とする中間業者（卸売業者・小売業者）の活動をその研究対象とする。低経済成長下の今日、商業経営も減量経営を余儀なくされており、新たな対応が求められている。又、所得水準の高度化にともなう消費欲求の多様化により消費者の的確な把握は、ますます難しくなりつつある。

このような環境下において、商業経営は、いかに行われるべきかを小売業を中心に立地分析、店舗管理、商品政策、仕入政策、商品管理、販売管理等の諸領域により検討する。

〔教科書〕 宇野政雄『新小売マーケティング』（実教出版）¥2,100

〔参考書〕 梅沢昌太郎『小売経営戦略』（同友館）  
¥2,300

## 保険経営論

石名坂 邦昭

今日、日本経済は世界的な景気の停滞と貿易摩擦の激化から輸出の減少傾向となり、一方国内の個人消費、住宅投資、設備投資が伸び悩むなど景気回復に暗い材料が多い。こうした中において高齢化問題など企業が克服しなければならないリスクが山積されている。そこで本講義においてはいかに各企業が企業危険に対処したらよいかといった観点から、リスク・マネジメントおよび保険を科学的にかつ実際の問題を取りあげながら行う。

〔教科書〕 石名坂邦昭『リスク・マネジメントの基礎』（白桃書房）¥2,500

## 銀行経営論

大岡 誠市

銀行の経営は金融の自由化・国際化の急速な進展により大きな影響を受けており、新たな対応が求められている。

本講義においては、銀行経営にかかわる基本的な事から中心に取り上げるとともに、欧米の銀行の最近の動きに触れ、金融の自由化・国際化および金融商品の多様化などの現状を具体的に紹介することとする。

〔教科書〕 開講時に指示する。

## 国際経営論

武田 康

国内経営と国際経営の相違に焦点をおき、直接投資に関する諸問題の理論的側面を探究するとともに、日米両国の多国籍化の類型を歴史的視点から比較し、総合商社をはじめ、日本型国際経営の特質の解明を内容とする講義とする。

〔教科書〕 武田 康『国際経営の基礎的諸問題』（白桃書房）¥2,900

## 日本経営史

齋藤 憲

新興財閥を中心に講義を進める。財閥と言うと一般には三井、三菱、住友等を中心に考えがちであるが、昭和戦前期、重化学工業化の進展の中で、これら既存の財閥に対抗して成長した企業集団があった。日産、日窒、森日曹、理研がそれで、新興財閥と呼ばれる。これら諸集団は、著しい発展の後戦争経済の中で瓦解していくが、その革新に満ちた経営は戦後経営の先取りであった。新興財閥の先進性と限界を観ることによって、明治以降の日本経営史の流れを考えてみたい。特に本年度は、新旧両財閥の経営者を中心に講義を進めたい。

〔教科書〕 特に指定しない。

〔参考書〕 多数あるので、その都度指示する。

## 経営統計

後藤 儀一郎

統計学、特に推測統計学の知識は経営学あるいは経済学の分野においても広く用いられている。統計学はもはや資料の収集とそれを表や図で表すだけのものではない。不確実性と危険を含むあらゆる状況を理論的かつ組織的な方法で考察する。推測統計学の理論を学びながらそれらが実際においてどのように応用（例えば統計の品質管理、実験計画、線形計画等）されるかを、学習する。

〔参考書〕 吉野・後藤『現代統計解析』（芦書房）  
¥2,700

## 財務会計論

久松 治夫

わが国の財務会計を規制する三つの基本規定—「企業会計原則」「財務諸表規則」「商法計算書類規則」を相互に関連づけて、その基本原理と構造について講義を進める予定である。

〔教科書〕 山形休司著『財務会計総論』（中央経済社）¥2,200

〔参考書〕 開講時に指示する。

## 管理会計論

長松 秀志

情報化・FA化のもとにおける現代管理会計について講義する。本年度はとくに、自動化されたFA工場の製造システムの問題を中心に講義を進めていく。

〔教科書・参考書〕 学年始めに指示する。

## 経営分析論

片桐 伸夫

経営分析の方法を大略、以下の要領で講義する予定ですが、特に伝統的、基本的方法である収益性、流動性の分析にポイントを置きます。

1. 収益性分析
2. 流動性分析
3. 生産性分析
4. 成長性分析

〔教科書〕 開講の時指示します。

## 税務会計論

高木 克己

我々が社会生活を送って行く上で、一生逃れることが出来ないものに税の問題がある。その中で特に重要な位置を占めている法人税法を中心に講義を行う。法人税法の中心課題である課税所得計算の構造を明らかにし、企業会計と税務会計の考え方や処理の違いを、広範な事例を解説しながら講義を進めて行くが、随時、我々個人の日常的な問題である所得税法についてもふれていくことにする。なお、テキスト、参考書は開講時に指示する。

## 会計監査論

中平 榮一

主として、独立監査人による財務諸表監査の問題をとりあげて、詳しく講述する。なお、当然、監査役監査及び内部監査の基本的問題についても論及する。

## 証券市場論

柳澤 公正

わが国の証券制度・証券市場を説明するとともに、証券市場と現実の経済の動きとの関連を考察してゆくつもりです。

〔教科書〕 中村孝俊編『証券市場読本』（東洋経済新報社）¥1,600

〔参考書〕 中島公明編『図説 日本の証券市場』（財経詳報社）¥1,400

## 商業史

山田 勝

現代商業の生成過程を、貿易を中心に講義する。特に商人（社）を中心にすえ、現代商業との関連に留意しつつ行う。対象とする時代は欧米については16世紀以降、日本については19世紀中葉以降とする予定である。

〔教科書〕 開講時に指示する。

## 経済政策

西山 司

本年度の経済政策の講義は、経済政策の理論および経済政策の史的展開過程の解明を中心に、各国で実施されている現代の経済政策についても論述する予定である。

特に「価値判断」論争をめぐる諸問題点や、従来の経済政策論の主要な学説を検討するとともに、経済学体系における経済政策論の理論的位置を論究し、その果すべき課題を究明して、経済政策論の体系的な解明をおこなうように努める。

〔教科書〕 清水・松原 編『経済政策論を学ぶ』  
〔新版〕（有斐閣）

## 財政学

速水 昇

現代の政府は経済に大きな役割を果たしている。つまり政府の財政運営のありかたが経済に大きな影響をあたえている。だが最近の財政の状況は国債の累積増加にとまって難しい局面になっている。そこで私の講義では、政府が経済にどのような影響を与えているのか、近年どのような問題が生じているのかについて検討していく。

〔教科書〕 開講時に指示する。

## 金融論

石野 典

今日の経済において金融の果たす役割は大きい。初歩的な金融の知識から出発して、複雑な現実の金融現象が理解されるように広範囲な内容を講義する。

- (1) 金融の意味と金融システム。
- (2) 貨幣とその需給。
- (3) 金利の決定とその諸問題。
- (4) 貨幣市場と資本市場—日本とアメリカを中心に—
- (5) 金融機関
- (6) 金融イノベーションの現況と展望。

講義はノート形式。

## 国際経済論

永田 智則

個々の経済主体が国境を越えておこなう経済活動は、国際経済における固有の相互依存と相互対立を生みだし、さまざまな国際経済現象をひきおこす。本講義ではこれら国際経済現象の解明の手がかりの修得を目的として、国際経済の基礎理論を簡潔かつ平明に提示する。

〔参考書〕 開講時に指示する。

## 国際金融論

池田 健

拙著国際金融論により国際金融の理論を講じ、なお必要により時事問題を解説する。

〔教科書〕 池田 健『国際金融論』

## 日本経済論

羽鳥 茂

戦後日本経済の歩みとマクロ経済政策の運営を、現代マクロ経済学の視点から講義したい。参考書を随時参照しながらマクロ経済学の基礎概念を復習すれば、講義内容の理解は一層容易になると思う。

〔教科書〕 黒坂佳央・浜田宏一『マクロ経済学と日本経済』（日本評論社）¥2,800

〔参考書〕 中谷 巖『入門マクロ経済学』（日本評論社）¥3,300

## 民法 II

上井 長久

民法は、われわれ市民の日常の衣食住などの財産、および親子・夫婦などの身分をめぐる社会生活関係を規律の対象とする法律であるといえる。本講では、主として、財産関係のうちで人に対する請求権すなわち債権を中心に扱い、まず、債権法全体の体系および概略を説明し、つぎに、条文に即して債権法総論、債権法各論——売買・賃貸借などの契約、事務管理、不当利得、不法行為など——の順に、それらに含まれる制度・原理の意義、機能、背景などを重点的に解明してゆく。

〔教科書・参考書〕 開講のときに掲げる。



### 外書講読(英)

木下照嶽

現代は企業活動の国際化時代の真直中にある。したがって、企業活動の会計・経営に関する、調査・取引・記録報告・データ分析・意思決定といった資料は、英語を中心とした外国語化する時代にある。将来の企業人は、こうした諸種のデータを、理解し、作成し、利用し、分析する能力が必須となる。こうした観点から、会計・経営データが形成される背後の理論、すなわち、転換期の企業活動に関する財務会計を中心に、インフレーション、発展途上国、多国籍企業、企業の社会的責任に関する会計データ等の文献を、広い視野に立って渉猟して、語学力の向上とこうした問題への関心を深めたいと考えている。

毎時間プリントを用意する予定である。

### 外書講読(英)

羽鳥茂

計量経済学の基礎的知識の修得に努めます。英語力よりも論理的な考え方が重要ですので、開講前に計量経済学の入門書(日本語で書かれたもの)を一読しておくことを期待しております。

〔教科書〕 M. Pokorny, An Introduction to Econometrics, Basil Blackwell, ¥4,660

### 外書講読(英)

前田和利

日本および欧米の企業経営のあり方を比較経営史の観点にたって考察する。経営史に関する国際会議の論文集ほかを資料として使用する予定である。

### 外書講読(独)

百濟勇

最近の円高傾向に象徴される日本をとりまく国際経済の環境は、日本企業の海外進出を一段と加速させている。その反面外国企業の日本への投資も強まっている。だが、巨大で、かつ将来有望な日本市場への進出は、外国企業にとって大変困難といわれている。西ドイツ企業の日本進出の具体的なケースを通じて、「日本の経営」の「普遍性」及び「特殊性」の内実を明らかにする目的で、下記

の「教科書」を読む。「日本の経営」に関するドイツ語による的確な表現の練習も行う。テキストは、プリント(コピー)で配布する。

〔教科書〕 Erich Batzer u.a., "Deutsche Unternehmen im Japangeschäft—Markterschließungsstrategien und Distributionswege", Ifo-Institut für Wirtschaftsforschung e.V. München 1986

〔参考書〕 I. Momozumi, "Zur Entwicklung des Managements des Japanischen Monopolkapitalismus", Hochschule für Ökonomie zu Berlin, 1985  
J. Olegg, "Multinational Enterprise and World Competition", Macmillan press 1987

### 外書講読(仏)

滝田公一

本年は下記の書物を輪読する予定です。この本の内容は以下のとおりです。

Le présent ouvrage vise à fournir aux étudiants de baccalauréat (licence) et de maîtrise un manuel de microéconomie où la critique est incorporée. L'intégration d'une telle critique permet de donner aux étudiants voulant acquérir une formation non tronquée en économie de nouvelles orientations, et les amène à réfléchir sur les vrais problèmes économiques posés naguère par les classiques.

〔教科書〕 Amani, M., Microéconomie, Gaëtan morin, Quebec Canada, 1981

### 外書講読(中)

松本丁俊

近隣の中国は広大な国土と人口をかかえ、長い歴史、伝統と高度な文化を有する社会主義国家である。現代中国の正しい認識を知る為の論文を読み合せながら、授業を進める。

〔教科書〕 プリント使用。

### 外書講読(ス)

細川幸夫

学生諸君が1, 2年次で習得したスペイン語の知識を応用発展させるため、テキストは、WILMAC RECORDERS 著 "Circling The

Glove with Speech Spanish”を用い、中南米の文化・経済・歴史風土など、スペイン語圏世界の学生たちのスピーチを通してその地域性の相違や各国の現状に対する理解を深め、合せてスペイン語の読み、書き、話す能力を短期間に開発するよう努めたい。

〔教科書〕 テキストはコピーして配ります。

## 商 法 II

島 原 宏 明

現代取引社会における金融の用具としてきわめて重要な地位にある手形および小切手について、その法理論的な構造をあきらかにするとともに、手形・小切手をめぐる実際上のトラブルとそれに対する法的解釈を、判例等を参照しながら考察していく。なお、受講の際には、必ず六法全書（小さなものでよいがなるべく新しいもの）を携行すること。

〔教科書・参考書〕 開講時に指示する。

## 労 働 法

藤 本 茂

労働法は、諸君が近い将来、就職し一定の労働関係を形成するなかで大きな係わりをもつ法領域である。今日、労働法は、社会構造の激変期にあって大きく変化しようとしている。たとえば、近時の男女雇用機会均等法、労働時間を中心とした労基法の改正はその一端である。また、集団的労使関係領域も経済構造の変化等に伴う労働界の再編成のなかにあって、組合活動の保障、労働協約による労働条件の引き下げ等をめぐって、組織と個人の関係をどう調和させるかが大きなテーマとなっている。

授業では、諸君の見聞しうる身近な事項を念頭におき、労働法上の基礎的な考え方を、なるだけ具体的な事例を用いて講義するつもりである。

〔教科書〕 竹下英男編著『労働法の主要問題』（エーデル研究所）¥2,300

## 演 習 II

高 井 徹 雄

一般社会で、また企業の経営現場でも、情報の価値が以前にも増して重視されるようになって来ました。このような情報化社会において必要不可欠な、情報処理の基本的素養を身につけて頂くことを本演習の狙いとし、内容としては、初歩的なものから少し高級なものまで、豊富なメニューを用意する予定です。主に実習形式で、(1)計算機言語の基礎的な勉強をします。まずBASICをやりますが、マスターした人にはCかPASCAL

を勉強してもらいます。

(2)(1)と併行して、代表的なビジネスソフト（ワープロ、表計算、データベースソフト）の利用法を身に付けます。またMS-DOSの使い方についても触れる予定です。

〔教科書〕 刀根 薫著『プレイマイコンシリーズ① BASIC』（培風館）¥2,500

〔参考書〕 プリント併用。

## 演 習 II

中 村 眞 人

この演習では、経営労務論の基本的な考え方を学習するとともに、科学的な「ものの見方」を通じて企業・職場の実態を分析していく方法を身につけることを目指す。具体的には、(1)経営労務論の基礎的な問題について書かれた論文の講読と、(2)個々の企業・職場を対象とした経営学者による事例研究の成果の検討とを、適宜組みあわせる。毎回、いずれかの文献を取りあげ、参加者の間で討論を行なう。頻度としては(2)のほうが多くなろう。対象とする事例は、製造業が中心となるが、参加者各自の関心に配慮し、できるだけ幅広い業種、企業規模のものから選んでいく。以上によって、大きな変化を経験しつつある現代日本の経営労務について考えていきたい。

〔教科書・参考書〕 開講時に指示する。

## 演 習 II

西 村 和 夫

コンピュータを用いて問題解決を行うための技術と、その限界とを学ぶことを目的とする。パーソナル・コンピュータの操作方法から指導するので、今まで全くコンピュータに触れたことのない人でも十分に理解できる筈である。いくつかの課題を課し、それらの課題を解決していく過程で、自然にプログラミングの能力が向上していくように指導する。

# 他 学 部 履 修 科 目

(全学部・短大共通)

※ 他学部科目の講義内容が掲載されているが，受講できる科目は各学部・短大によって異なっている。(履修についての詳細は，「他学部科目の履修方法」を参照すること。)

# 目 次

|   |   |                               |    |
|---|---|-------------------------------|----|
| 禅学特講 I (原田 弘道) .....                    | 1 | ソビエト経済論 (山縣 弘志) .....         | 6  |
| 禅学特講 II (黒丸 寛之) .....                   | 1 | 社会政策 (光岡 博美) .....            | 6  |
| 禅学特講 III (石井 修道) .....                  | 1 | 国民所得論 (吉野 紀) .....            | 7  |
| 禅学特講 IV (鈴木 格禅) .....                   | 1 | 中国経済論 (小杉 修二) .....           | 7  |
| 禅学思想史 (峰岸 孝哉) .....                     | 1 | アジア経済論 (小林 英天) .....          | 7  |
| 哲学史 (中村 友太郎) .....                      | 1 | 日本経済史 (古庄 正) .....            | 7  |
| 印度仏教史 (松本 史朗) .....                     | 1 | 中小企業論 (三井 逸友) .....           | 7  |
| 中国仏教史 (佐藤 達玄) .....                     | 2 | 財務会計論 (遠藤 孝) .....            | 7  |
| 日本仏教史 (山内 舜雄) .....                     | 2 | 管理会計論 (中原 章吉) .....           | 8  |
| 日用経典 (櫻井 秀雄) .....                      | 2 | 会計監査論 (飯岡 透) .....            | 8  |
| 仏教美術 (林 良一) .....                       | 2 | 商業政策 (岩下 弘) .....             | 8  |
| 現代哲学概説 (山下 太郎) .....                    | 2 | 貿易論 (古沢 紘造) .....             | 8  |
| 上代文学 (小野 寛) .....                       | 2 | マーケティング (曾我 信孝) .....         | 8  |
| 中世文学 (水原 一) .....                       | 2 | 原価計算論 (加藤 利安) .....           | 8  |
| 近世文学 (渡辺 守邦) .....                      | 2 | 労務管理論 (石井 脩二) .....           | 9  |
| 近代文学 (片岡 懋) .....                       | 3 | 行政法 II (斎藤 寿) .....           | 9  |
| 中国文学 (中村 璋八) .....                      | 3 | 民法 IV (1) (青山 尚史) .....       | 9  |
| 英文学特講 I (英文学16・17c.)<br>(石原 孝哉) .....   | 3 | 民法 IV (2) (青山 尚史) .....       | 9  |
| 英文学特講 II (英文学18c.) (小林 亨) .....         | 3 | 比較憲法 (竹花 光範) .....            | 9  |
| 英文学特講 III (詩 19・20c.) (河崎 征俊) .....     | 3 | 地方自治法 (梅木 崇) .....            | 9  |
| 英文学特講 IV (小説 I 19c.) (中岡 洋) .....       | 3 | 経 済 法 (江上 勳) .....            | 10 |
| 英文学特講 V (小説 II 20c.) (飯島 淳秀) .....      | 3 | 国際関係論 (首藤 素子) .....           | 10 |
| 英文学特講 VI (批評 19・20c.) (丸小 哲雄) .....     | 3 | 西洋政治史 (浦田 早苗) .....           | 10 |
| 英米演劇特講 (落合 和昭) .....                    | 4 | 宣伝広告論 (上條 末夫) .....           | 10 |
| 米文学特講 I (詩) (東 雄一郎) .....               | 4 | 比較社会構造論 (江上 勳) .....          | 10 |
| 米文学特講 III (小説 II) (山縣 敏夫) .....         | 4 | 経 営 学 史 (北村 健之助) .....        | 10 |
| 時事英語 (大沢 一雄) .....                      | 4 | 国際経営論 (武田 康) .....            | 10 |
| 地 質 学 (小池 一之) .....                     | 4 | 経 営 統 計 (後藤 儀一郎) .....        | 11 |
| 気 候 学 (前期) (中村 和郎)<br>(後期) (小川 肇) ..... | 4 | 保険経営論 (石名坂 邦昭) .....          | 11 |
| 人口地理学 (上谷 敏治) .....                     | 4 | 財務会計論 (久松 治夫) .....           | 11 |
| 応用地理学 I (高木 正博) .....                   | 4 | 経営分析論 (片桐 伸夫) .....           | 11 |
| 都市地理学 (今朝洞 重美) .....                    | 5 | 税務会計論 (高木 克己) .....           | 11 |
| 文化地理学 (荻口 善美) .....                     | 5 | 国際経済論 (永田 智則) .....           | 11 |
| 日本仏教史 II (廣瀬 良弘) .....                  | 5 | 商 業 史 (山田 勝) .....            | 11 |
| 日本史特講 VII (近代) (山口 一之) .....            | 5 | 国文講読 I (上代) (佐原 作美) .....     | 11 |
| 東洋史特講 X (近・現代) (渡辺 惇) .....             | 5 | 国文講読 II (中古) (鈴木 儀一) .....    | 12 |
| 西洋文化史 I (椋川 一朗) .....                   | 5 | 国文講読 III (中世) (岡崎 正) .....    | 12 |
| 考古学特講 III (飯島 武次) .....                 | 5 | 国文講読 IV (近世) (清田 啓子) .....    | 12 |
| 歴史哲学 (山下 太郎) .....                      | 5 | 国文講読 V (近・現代) (大室 英爾) .....   | 12 |
| 哲学史 (川戸 好武) .....                       | 5 | 国文講読 V (近・現代) (田澤 英藏) .....   | 12 |
| 日本民俗学 (渡邊 欣雄) .....                     | 6 | 国文特講 V (近・現代) (石割 透) .....    | 12 |
| マスコミュニケーション (川本 勝) .....                | 6 | 英文タイプライティング II (竹内 美恵子) ..... | 12 |
| 産業社会学 (安藤 喜久雄) .....                    | 6 | 時事英語 (岡本 誠) .....             | 12 |
| 都市社会学 (文屋 俊子) .....                     | 6 | 計算機言語概論 (杉田 徹) .....          | 12 |
| 社会福祉発達史 (林 千代) .....                    | 6 | 臨床放射線特論 I (本間 襄) .....        | 13 |
|   |   | 応用計測学 (小林 久夫) .....           | 13 |

# 他学部履修科目

## 禅学特講 I

原田 弘道

### 禅宗と公案

公案は禅宗における經典観と深いかわりをもつ。そこで公案の成立とその歴史的展開を通し、その意義と機能について考察する。

(1)公案の起源と歴史、看話禅の成立 (2)曹洞宗と公案 (3)公案の諸相、公案の意義と機能。以上の順序で講義を進める。

## 禅学特講 II

黒丸 寛之

道元禅師の名著『正法眼蔵』を『永平広録』その他の著述との関連によって講読する。この講座では、必修科目としての『正法眼蔵』の講義内容とは異なり、出来るだけ多くの諸巻について、それぞれの撰述意義を学ぶことを目的とするので、1年間に20巻前後の解説を予定している。

## 禅学特講 III

石井 修道

洪州宗(馬祖禅)と荷沢宗の違いを学ぶために、『斐休拾遺問』(『禅学研究』60号所収)を読む。圭峰宗密の禅の分類がもつ意味とその限界について考え、洪州宗の実態を探り、その後五家の最初に成立した沩仰宗について『祖堂集』を中心に学びたい。

〔教科書〕 プリントを使用する。

〔参考書〕 鎌田茂雄著『禅源諸詮集都序』(筑摩書房) ¥3,800

## 禅学特講 IV

鈴木 格禅

### 『見聞宝永記』講読

本書は通常『損翁老人見聞宝永記』と呼ばれる。損翁老人とは、仙台の泰心院に往した損翁宗益(1649~1708)のことである。損翁は面山瑞方(1683~1769)の師であ

り、面山の宗教的人格形成に頗る影響を与えた古聖である。面山が損翁に随侍したのは約二年間程にすぎないが、その間における損翁の法益を集録したのが本書である。従って本書は、損翁における面山の「随聞記」といってよく、内容は多岐にわたるが、その根底には、現代にもなお光輝を放つ洞門の宗教的志操が一貫して流れている。

本学年度は、前年度にひきつづき本書を講読し、学道の資助としたい。

〔教科書〕 『続曹洞全書(法語・歌頌)』p. 411~p. 445までをコピーすること。

## 禅学思想史

峰岸 孝哉

禅学思想史の範囲はもとより広く考えられるが、本年は日本禅、とりわけ永平道元(1200~53)の流れを汲む曹洞教団の展開に注目し、そこにみられる教学・思想の歴史的性格を跡付けてみたい。

〔教科書〕 『道元禅の歴史』〔講座道元II〕(春秋社)

〔参考書〕 鈴木泰山『禅宗の地方発展』(吉川弘文館)

## 哲学史

中村 友太郎

西洋の思想と文化は、ヘレニズムとヘブライズム、ギリシア哲学と聖書の信仰の結合の上に形成されてきた。ここではとくにキリスト教的な中世哲学の形成とその展開をあとづけることを主眼としたい。それは、神・自然・人間をめぐる理性の立場と信仰の立場との対決・調和・抗争の思想史という様相を呈するであろう。なお前期には、その背景となるギリシア哲学史を簡単に展望することから始めたい。

〔教科書〕 教場で指示する。

〔参考書〕 その都度指示する。

## 印度仏教史

松本 史朗

インド仏教史を教団史・思想史の観点から概説しさらに個々の思想的問題について考察する。

- 〔教科書〕 『仏教史概説』（平楽寺書店）  
 〔参考書〕 平田 彰『インド仏教史』（上・下）  
 （春秋社）  
 奈良康明『仏教史Ⅰ』（山川出版社）

## 中国仏教史

佐藤 達 玄

中國民衆の仏教受容と、固有思想との関係を概観した上で、隋代より唐宋代に至る間の儒仏道三教の交渉史を中心に考察したい。

- 〔教科書〕 『仏教史概説——中国篇』（平楽寺書店）

## 日本仏教史

山内 舜 雄

下記の教科書に依り、上古より中世を経て、鎌倉仏教までを概説する。特に鎌倉新宗の発生母胎になった、中世は中古天台本覚法門を詳説する。

- 〔教科書〕 宇井伯寿著『日本仏教概史』（岩波書店）は絶版となっているが、古本もあり、必要箇所のみをコピーしてもよい。

## 日用経典

櫻井 秀 雄

曹洞宗常用経典・祖典の解題、および回向文と各種論などに表われる文意の解明を通して、実践宗学の実際を究明する。

- 〔教科書〕 櫻井秀雄『曹洞宗回向文講義』¥700  
 『続曹洞宗回向文講義』¥700

## 仏教美術

林 良 一

インドにおける古代初期よりガンダーラ期の仏像成立にいたるまでの展開および仏教美術の図像学について講述する。寺院の遺跡や仏菩薩等の尊像を、現地撮影のカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

- 〔教科書〕 林 良一著『ガンダーラ美術紀行』（時事通信社）¥2,200  
 〔参考書〕 林 良一『シルクロード』（時事通信社）

## 現代哲学概説

山下 太 郎

西洋現代哲学の代表の一つは実存哲学である。その流れを解説し、とくにキルケゴール、ニーチェ、ハイデガー、ヤスパースの思想を中心として講義し、実存哲学における新しい人生観および世界観、社会観を明らかにし、かねて宗教とのかかわりをも問題にしたい。実存哲学の背景としての近代思想の流れをも辿る意味で、テキストは山下著『実存哲学への道』を使用し、それに沿って説明する。

- 〔教科書〕 山下太郎著『実存哲学への道』（公論社）¥2,500

## 上代文学

小野 寛

『万葉集』をよむ。これは古代の日本人の心をよむことであり、古代の歴史をよむことである。『万葉集』をよむに当って、一首一首、諸本の本文の異同をたずね、その訓みを明らかにし、上代語およびその独自の語法をしらべ、作者の心をさぐり、その作品の背景となる歴史・風土・民俗などについても詳細にしらべながらよんでゆく。

- 〔教科書〕 小野 寛校注『万葉集抄』（笠間書院）  
 〔参考書〕 金井清一・小野 寛編『年表資料 上代文学史』（笠間書院）

## 中世文学

水原 一

中世を代表する軍記物語の巨編『太平記』を近世流布の版本の形（影印本）で読み、解釈・考証を通して、題材となった歴史事件や時代思潮・人物造型など種々の問題を考察する。

- 〔教科書〕 水原・長谷川編『版本太平記抄』（桜楓社）¥1,900

## 近世文学

渡辺 守 邦

近世の小説を、『伊曾保物語』から始めて『梅暦』まで読む。数多くの作品に触れてみることにともに、近世小説史の流れをも追ってみたい。

## 近代文学

片岡 懋

近代文学作品に現われた家の問題について、いろいろな作家の作品を通して考えてゆく。

## 中国文学

中村 璋八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集大成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕 『五行大義校註』(汲古書院) ¥3,000

## 英文学特講 I (英文学16・17c.)

石原 孝哉

ルネッサンス期の英文学について講じる。中世のたがれから近世の夜明けへの過渡期の文学を、過去と未来の両方に開かれたものとしてとらえ、文化のさまざまな方面から論じる。意欲的な学生の受講を望む。

〔教科書〕 『シェクスピア喜劇とロマンスの発展』(三修社)

## 英文学特講 II (英文学18c.)

小林 亨

18世紀の主要な散文作家5、6名を取り上げ、絢爛と花開いたイギリス近代小説の特質を考察する。講義だけでなく出来る限り作品に接することをこの講座の特徴としたい。

〔教科書〕 教室にて指示する。

## 英文学特講 III (詩19・20c.)

河崎 征俊

19世紀のロマン派詩人について講義します。作品については、時々コピーを渡します。

〔教科書〕 高野正夫著『感性の宴』(篠崎書林) ¥2,800

〔参考書〕 未定。

## 英文学特講IV (小説I 19c.)

中岡 洋

イギリス小説の代表的傑作*Jane Eyre*や*Wuthering Heights*を残したBrontë sistersについて、彼女たちの文学史的位相を見定め、彼女たちの生涯と芸術について詳述する。

〔教科書〕 中岡 洋著『エミリー・ブロンテ論』(国文社)

## 英文学特講 V (小説II 20c.)

飯島 淳秀

小説の問題を中心に現代英吉利文学の20世紀的諸相について講義をする予定。特定のテキストは用いない。参考文献はそのつど伝える。前期及び後期にそれぞれ課題レポート(即ち単位レポート)の提出が求められる。他に教場テストが行われるばあいもある。出席は重視される。

## 英文学特講VI (批評19・20c.)

丸小 哲雄

なぜある文学テキストにこだわり、なぜそれが面白いのかという主観的現実から出発して、批評文学は「文学とは何か」、「批評とは何か」、「人間とは何か」と問い続けつつ、その現実生きるために書かれる。しかるに、文学の現実的な諸問題に対応するためのさまざまな文学理論と方法を総動員して、批評文学の「楽市楽座」をひらきます。批評史にみられる批評的原理(現象学、解釈学、ロシア・フォルマリスト、新批評、原型批評、受容理論、構造主義批評、ポスト構造主義批評、フェミニズム批評など)のそれぞれの視角と死角を検討して、文学テキストに肉迫したい。

〔教科書〕 “A Reader's Guide to Contemporary Literary Theory” by Raman Selden (The Harvester press, 1985)

〔参考書〕 適宜に指示します。

## 英米演劇特講

落合和昭

過去2年間にわたって、ギリシャ悲劇の時代から現代にいたるまでの劇場史を考察してきたが、今年度は、ギリシャ悲劇の時代から現代にいたるまでの思潮に重点をおいて講義を進める予定である。

また、講義用のテキストとしては図や写真が数多く入っているアメリカの大学生用のテキストを用いる。課題としては、英文のテキストを読んでもらい、レポートは一回に原稿用紙二枚程度のものを年間十回ほど提出してもらおう。

## 米文学特講 I (詩)

東 雄一郎

主として20世紀、現代のアメリカ詩を扱う。勿論、アメリカ詩の流れを考察する場合に不可欠な存在である詩人達、Edgar Allan Poe, Walt Whitman, Emily Dickinson 等も扱うことは言うまでもない。実際、個々の詩人の代表作品を味読、鑑賞しながら講義をすすめていく。また、Edward Taylor にみられる Metaphysical Poetry の特質に関しては、イギリスの John Donne の作品に触れることにもなる。清教徒主義の内向性と開拓者精神の外向性を常に遍在させ、American Renaissance, Realism, Chicago Renaissance, Harlem Renaissance を展開させて行くアメリカの精神風土との関連の上から、Modernism と Post-Modernism を代表する詩人の個々の作品にあたるつもりである。

〔教科書〕 新倉俊一著『英詩の構造』(駿河台出版社)

〔参考書〕 開講時に指示します。

## 米文学特講 III (小説II)

山 縣 敏 夫

アメリカにおける黒人文化の歴史的発展を考察し、現代黒人文学にいたるまでの社会的変遷と文学とのかゝわりあいについて研究する。

〔教科書〕 開講後指示する。

## 時事英語

大 沢 一 雄

時事英語の研究をおこなう。時事英語とは大まかにいうと、新聞、テレビ、ラジオ等の mass media すなわちマスコミで用いられる英語である。

## 地 質 学

小 池 一 之

地質学の基礎を中心に講義を進め、後半は、地球科学全般にわたるトピックスを講義したい。内容は、(1)地球史、(2)岩石と地層、(3)海洋底、(4)古地磁気と大陸移動、(5)プレート・テクトニクスなどである。講義にはスライド・ビデオをまじえる予定である。

〔教科書〕 ホームズ著、上田ほか訳『一般地質学Ⅲ』(東大出版会) ¥3,400

〔参考書〕 ホームズ著、上田ほか訳『一般地質学Ⅰ・Ⅱ』(東大出版会) 各 ¥3,400  
貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』(東大出版会) ¥4,200

## 気 候 学

(前期) 中 村 和 郎  
(後期) 小 川 肇

世界と日本各地の気候現象を通して、気候学の基礎的諸概念を学ぶ。

夏休みの前にも試験を実施するので注意すること。

〔参考書〕 中村和郎・内嶋喜兵衛・木村竜治『日本の気候』(岩波書店) ¥3,400  
松井 健・小川 肇『日本の気候』(平凡社) ¥3,000

## 人口地理学

土 谷 敏 治

前半は、人口分布の研究に重点を置き、人口分布の特徴と統計的記述、都市内部の人口分布と人口移動、因子生態研究などについて講義を行なう。後半は、地域間人口移動の特色、人口移動とアクセシビリティ、人口移動モデルなどを中心に、都市シセテム研究の観点から講義を進める。

## 応用地理学 I

高 木 正 博

自然環境の変貌について、災害や各種の人為的な改変との関係からとらえる。また、河川の治水・利水に関する問題を、地理学と他の研究分野を関連させてのべる。

〔参考書〕 西村嘉助編『応用地形学』(大明堂)  
大矢雅彦著『河川の開発と平野』(大明堂)



## 都市地理学

今朝洞 重 美

都市の地理学的研究とは具体的にはどのようなものか、日本、外国にテーマをとり学習する。

〔参考書〕 山鹿誠次『都市地理学』（大明堂）

## 西洋文化史 I

椽 川 一 朗

西洋都市の歴史。とくにドイツ中世都市の歴史を、社会構造の面から考え、現代の都市問題の参考になるよう、講述する。

## 文化地理学

茭 口 善 美

本講義では、まず文化地理学の中心的課題、すなわち(1)文化、(2)文化領域、(3)文化景観、(4)文化史(誌)、(5)文化生態について概観する。さらに内・外の研究事例を紹介しながら、文化地理学的手法による地域分析について議論する。

## 考古学特講 III

飯 島 武 次

周文化の考古学的研究について。

## 日本仏教史 II

廣 瀬 良 弘

日本仏教史の流れを概観し、のちに中・近世にかけての仏教と当該期の社会・文化とのかかわりについて講述する。

〔参考書〕 参考史料は随時コピーして配布。

## 歴史哲学

山 下 太 郎

歴史哲学は、歴史研究における意義、方法、目的、原理等を探究するものであり、実証的な歴史学の基礎をさぐる学問である。本講義はおおむね次のテーマに従って行ない、歴史の認識および存在についての基本的理解をえさせることを意図する。

### 第1章 歴史認識の問題

(1)批判主義(カント) (2)新カント派(ヴィンデルバント) (3)生の哲学(デイルタイ) (4)実存哲学

### 第2章 歴史法則の問題

(1)終末論的史観(キリスト教) (2)進化論的史観(スペンサー) (3)弁証法的史観(ヘーゲル、マルクス) (4)実存主義史観(ヤスパース)

## 日本史特講 VII (近代)

山 口 一 之

近代日本の対外問題をとりあげて講義するつもりである。

## 哲学史

川 戸 好 武

はじめに、古代ギリシャおよび中世の哲学の要点を簡単に述べた後で、ルネッサンス以後の近世哲学史を概説する。

〔教科書・参考書〕 授業の際に指示する。

## 東洋史特講 X (近・現代)

渡 辺 惇

近代中国民衆結社史：近代中国における民衆の動きを理解する一環として、秘密結社(会党、帮会)をとりあげ、その発生、発展、組織の特色、時代背景等について講義する。

〔教科書〕 特に定めない。

〔参考書〕 講義の中で紹介、指示する。

## 日本民俗学

渡邊 欣雄

私の民俗学という視野から、民俗学を論じ民俗学の扱う題材について紹介する。本講義は決して日本民俗学の概論講義ではないから、注意を要する。対象とする文化は主として日本本土ではなく、沖縄・台湾・香港・マレーシア等の南方であり、題材は宴・風水・鬼魂観・社会関係に及ぶ。

〔教科書〕 とくに用いず。

〔参考書〕 渡邊欣雄著『沖縄の社会組織と世界観』（新泉社）¥8,000  
渡邊欣雄著『沖縄の祭礼』（第一書房）¥3,800

## マスコミュニケーション

川本 勝

マス・コミュニケーションの生産過程から受容過程にいたるまでの主要なメカニズムを、これまでのマスコミ研究の成果、理論を紹介しながら考察し、マス・コミュニケーションの特質、社会的機能、効果や影響などを検討する。

高度情報化社会といわれる現代、ニューメディアを含めて、マス・メディアが社会や人びとの社会生活とどのようなかかわりをもっているか、社会学的に分析する。

〔参考書〕 竹内・児島編『現代マス・コミュニケーション論』（有斐閣）  
川本 勝著『流行の社会心理』（勁草書房）¥2,300

## 産業社会学

安藤 喜久雄

産業社会学の生成、発展について概観するとともに、以下のような主要な領域について解説し、そこでの諸問題が人間にとってどのような意味をもっているか考えてみたい。

序. 産業社会学の生成、発展

1. 企業と経営組織
2. 職場の人間関係
3. 労働者の生活と意識
4. 労働組合
5. 労使関係
6. 産業と社会

〔教科書〕 本間康平 他著『産業社会学入門』（有斐閣新書）¥700

## 都市社会学

文屋 俊子

都市社会学の形成と展開、都市化、都市的生活様式、都市の社会構造についてとりあげる。とくに現代日本の大都市におけるひとつひとつの生活様式について、最近の研究をとりあげ、議論したい。

参考文献等は、授業の際に適宜紹介する。

## 社会福祉発達史

林 千代

いつの時代にも、人々の生活の不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕 今岡 他編『社会福祉事業発達史』（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕 随時紹介。

## ソビエト経済論

山縣 弘志

ソ連邦は第12次五カ年計画期に入っているが、社会主義経済の前途は平坦ではない。80年代の情勢とソ連経済70年の歴史は、我々に常に社会主義の原点に立ち帰り、科学的なアプローチを心懸けることを要求している。

〔教科書〕 講義の中で指示する。

## 社会政策

光岡 博美

社会政策とは資本主義社会で発生する労働問題を体制の枠内で解決しようとする諸施策やイデオロギーの総体を表わす言葉として使用されている。本年度の講義では、社会政策の発祥の地であるドイツの社会政策思想、及び、それを受容した戦前日本の社会政策について説明する。また後期においては、賃金や労働条件が労使の自主的な団体交渉によって決定されるような労働問題処理の制度的枠組が成立した戦後の時代を対象とし、戦後日本における労使関係の史的展開についての講義を行うこととする。

〔参考書〕 教場で指示する。

## 国民所得論

吉野 紀

本講は現代マクロ経済理論の内容を経験的検証と具体的な政策への応用とに言及しつつ体系的に解説することを目的とする。主たる関心の対象は家計・企業等の集計部門であり、政府や海外部門を取り込んだ国民経済全体である。これら諸部門の経済活動水準がどのように決定され、また相互に影響し合うのかを解き明かすことによって、生きた経済現象を捉えて止まない姿としてとらえることができれば目的の過半は達成できたといえる。相互的関連の全体像を描くためにはIS-LM分析が教育的効果を依然持ち続けているので、早い時期にこれを扱い、徐々にこの枠を崩しながら現実の日本経済への応用力を高めてゆきたい。

## 中国経済論

小杉修二

現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気のみならずようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」等々話題にこと欠かない状況である。

本講義ではこのような目前の変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

〔教科書〕 開講時に指示する。

## アジア経済論

小林英夫

今年度は、戦後の日本とアジアの経済関係に焦点をあてその歴史的推移を論ずる。Ⅰ. 賠償過程、Ⅱ. 借款過程、Ⅲ. 直接企業進出の三つの時期に時期区分してその過程を追う。参考書は、追って指示する。

## 日本経済史

古庄 正

日本経済史の研究対象は広範であるが、本年度は産業革命期の諸問題を中心に講義してみたい。

講義要綱

- (1) 産業革命の本質と類型
- (2) 帝国主義世界体制の確立と経済政策
- (3) 産業革命の展開とその特質

- (4) 産業構造と外国貿易
- (5) 地主制の確立
- (6) 労働者階級の成立と初期労働運動
- (7) 植民地圏の確保と帝国主義への転化
- (8) 天皇制国家の確立
- (9) 独占段階への移行

〔参考書〕 石井寛治『日本経済史』（東大出版会）  
¥1,900

## 中小企業論

三井逸友

「中小企業」とは「マイナー」なものだという、日本の学生諸君に蔓延している『俗論』とは裏腹に、今や各国は挙げて国際的「中小企業フィーバー」の直中にある。その意味するところは何なのか、そして中小企業群の現実の存在とその状態はどのような理論的・現実的枠組から説明をされるべきなのか。ここでは、「分業関係の発展」と「競争と支配・管理」の展開を手掛かりとして、中小企業と大企業セクターとの経済的関係、中小企業群の集積と結合、「集中」と「過剰」のメカニズム、さらにこれらに対する「中小企業政策」の意味を解いていくことを講義のねらいとする。講義の中では、内外の豊富な話題・実態を盛り込んで説明していくつもりである。

〔教科書〕 巽・佐藤編『新・中小企業論を学ぶ』

（有斐閣）〔近刊〕

車戸 實編『中小企業論』（八千代出版）

¥3,200

〔参考書〕 中小企業庁編『中小企業白書』〔各年次〕

## 財務会計論

遠藤 孝

会計学は狭義には財務会計論を指す。いいかえれば財務会計論は狭義会計学であり、会計学原理であるわけである。

一般に財務会計とは、企業活動—企業情報を、株主、債権者、労働組合など企業をとりまく利害関係者に報告・伝達する役割をはたす会計といわれている。この情報伝達の手段となるものが貸借対照表、損益計算書などの財務諸表であり、したがって財務会計論は財務諸表論としての性格をもっている。

いうまでもなく企業は社会的に重要な役割をはたしており、利害関係者も増大してきて、社会性を高めている。したがってこれら企業の活動（情報）を伝達する財務会計についても、商法、税法、「企業会計原則」など種々の規制が加えられている。そしてこの社会的規制の内容によって財務会計の内容、性格は大きく変ることとなる。

この講義では、財務会計とは何か（その社会的意味・

役割)、これを規制する企業会計制度の構造、役割、各国会計制度との比較、会計計算の構造、貸借対照表、損益計算書、連結財務諸表などの財務諸表の性格、内容、またとくに商法改正動向などについて講義する。

参考書などは講義の最初の時間に発表する。

なお、本講義は他学部、他学科に公開しており、経済学部の他、とくに経営学部、法学部の商法専攻者の履修を期待している。

## 管理会計論

中原章吉

会計学とは何かという考察の上で管理会計が財務会計との関連のうえでどのように位置づけられるのか。そして、管理会計とはどのような基礎のうえに成立しているものなのかを検討することから始めて、管理会計の内容に入っていく。とくにこの講義では企業における財務諸表分析と付加価値会計を内容としてとりあげていく。OAやメカトロニクスそして産業用ロボットによって第2の産業革命がさげばれているわが国の企業経営の中で、会計は、そして付加価値会計はどのように対応していくのか。また、欧米など諸外国の企業経営の中での会計の現状や歴史と、わが国との関連も考慮に入れて講義を展開していきたい。

〔教科書〕 中原章吉著『企業付加価値会計論』〔改訂版〕(中央経済社) ¥3,000

〔参考書〕 学年始めに指示する。

## 会計監査論

飯岡透

財務諸表監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大及び企業活動の複雑化に伴い、近年その役割はますます重要になっている。

本講義では、わが国をはじめ、英・米・西独の監査制度、監査役と会計監査人、監査証拠、個別財務諸表・連結財務諸表・中間財務諸表の監査手続、監査報告書などについて教授する。

さらに、時間が許せば、営業報告書、後発事象、粉飾決算、簡易監査などにも言及したい。

〔教科書〕 飯岡透著『株式会社社会計監査論』(創成社) ¥2,900

〔参考書〕 飯岡透編『会計監査基本規則集』(創成社) ¥800

## 商業政策

岩下弘

流通産業に対する公共政策について講義する。

〔教科書〕 久保村隆祐・吉村寿編著『現代の流通政策』(千倉書房) ¥2,800

〔参考書〕 その都度指示する。

## 貿易論

古沢紘造

日本の穀物自給率は33%で先進工業国中最低ですが、日本の工業品の輸出攻勢に起因する対米貿易の不均衡を是正するという理由で農産物のさらなる輸入を要求されています。一方東南アジアなどの発展途上国からは、日本は一次産品を主に輸入するだけで工業品を買ってくれないという不満の声が高まっています。本講義ではこうした現代の日本の貿易問題、対外経済関係について取り上げ、日本と世界(欧米、第三世界)の経済的かわりを深く掘り下げて考えてみることにしたいと思います。

〔参考書〕 授業の進度に合わせて、そのつど紹介したいと思います。

## マーケティング

曾我信孝

現代社会の矛盾点をマーケティングの側面から分析する。その展開は、1つめに矛盾点を明確にするための分析をする。2つめにその矛盾点がマーケティングとどう関連しているかを検討する。3つめにマーケティング政策が社会的にどのような影響を及ぼしているか、批判的な側面から考察する。4つめに勤労的消費がどのように収奪されているかを明確にする。

「矛盾点」は一応分配の不均衡に置いている。したがって、独占産業資本のみならず、独占商業資本の消費者支配のメカニズムも分析対象にする。

〔参考書〕 講義中に適宜紹介する。

## 原価計算論

加藤利安

原価計算は企業会計の一領域を形成している。昨年度に続き本年度も、我が国の『原価計算基準』(原価計算制度)の内容を中心にして、原価計算の目的、役割、機能について講義するつもりである。またその際に、原価計算の発達や展開についてもできるだけふれることとす

る。試験は、中間と期末の2回行う予定である。講義はノートと以下の教科書、参考書を使用して行う。

〔教科書〕 津曲直躬著『原価計算論講義』（中央経済社）

〔参考書〕 諸井勝之助著『原価計算論講義』（東大出版会）

## 労務管理論

石井 脩 二

周知のように近年の日本企業をとりまく経営環境は、つとにその複雑さをまし、とりわけ国際化や情報化・ソフト化と称される経済基調や体質の転換のなかでその生き残り戦略が真剣に模索されている。この講義では、重大な経営環境の変化のなかで生き残り戦略の要となる「人事・労務管理」の新たな展開方向を検討するつもりである。特に、日本企業の海外進出が活発化するなかで従来日本企業の競争力の源泉をなしているといわれてきたいわゆる「日本的経営」がどの程度の通用性をもちうるのか、また国内ではサービス経済化の波のなかでいかなる人事・労務管理が必要とされているのか、といった現在の諸問題を検討する。

〔教科書〕 未定。

〔参考書〕 島袋編著『労務管理』（中央経済社）  
¥2,300

## 行政法Ⅱ

齊藤 寿

行政法の各論として、各種の行政法領域ごとに、関係法令を類型化し、解釈学的にとらえるとともに、判例や事例研究を通して、行政法令の現実的機能にふれつつ、興味深い講義を続け、楽しく研究します。

主な内容としては、(1)行政組織法、(2)公務員法、(3)公物法・営造物法、(4)警察法、(5)統制法、(6)公企業法、(7)公用負担法、(8)財政法、などについて、学んでいきます。

そして、時間的に可能であれば、生活空間（環境）形成行政法などにも、およぶ予定です。これらの講義は、一年間・全体を通じて、極めて楽しい雰囲気の中でなされます。

〔教科書〕 『現代行政法論』（勁草書房）、『行政法Ⅰ・Ⅱ』（評論社）など、拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

## 民法Ⅳ(1)

青山 尚 史

生活の基礎であり根源をなす家族生活を規律した親族法は、最も身近な法律である。講義では、夫婦・親子・親族を中心としつつ、民法全般の基礎知識をも加えるつもりである。すなわち、民法総則の簡単な説明、ついで物権と債権につき必要最少限度の説明、そして親族法に大部分の時間を充て、最後に時限の残余状況により相続法の概要を体系的に説明しようと考えている。

〔教科書〕 教場にて指示する。

## 民法Ⅳ(2)

青山 尚 史

民法Ⅳ-②は、相続法（民法典第5編82条～1044条）である。親族法が人間生活の基礎であり根源をなすところの種族保存の生活関係を直接規律する純粋身分法を中心とするのに対して、相続法は親族生活の裏づけをなす身分財産法が中心となる。民法第5編は、大別すると、相続法と遺言法そしてこの両者の調節機能を果たしている遺留分法とから成り立っている。

〔教科書〕 教場にて指示する。

## 比較憲法

竹花 光 範

本年度も、昨年度と同様、次の順序で講義を行う予定である。

1. 比較憲法学とは
2. 憲法概念と分類
3. 国体と元首（共和制と君主制、元首、国のシンボル等）
4. 統治の原理と構造（民主政治の基本原則、議院内閣制と大統領制、一院制と二院制、社会主義国における議会制度等）

〔教科書・参考書〕 講義の中で述べる。

## 地方自治法

梅木 崇

憲法および行政法との関連を重視しながら、地方自治法における主要な制度を解説する。また、地方自治の運営について、行政の実態と裁判所の判例をとりあげ、その理解を深める。本講の目的は、地方自治法そのものを理解させることよりも、地方自治行政という行政の具体化過程を通じて、わが国における行政権の行使に関する

基礎的なものの考えかたを学ぶとともに、統治の機構について、比較的詳細に考察する点にある。その際、諸種の公務員試験の問題についても説明するよう努める。

〔教科書・参考書〕 開講にあたって指示する。

## 経 済 法

江 上 勲

資本主義が高度化した段階の国民経済では、極度に多様化・分業化した機能を持つ経済主体間の調和は、古典的自由放任主義の経済政策によっては自動的に達成しがたくなる。経済法は、このような経済社会のなかで基本的に市場経済を維持しながら経済の流れに必要なに応じて国家が介入して全体の調和的発展をはかるための諸種の法から成る。本講座は、かかる経済法の中核をなす独占禁止法の意義を明らかにしたのち、その概要を説明する。講義に当っては基本的事項の理解に努める。

〔教科書〕 江上 勲『経済法・独占禁止法概論』

(税務経理協会) ¥3,000

## 国際関係論

首 藤 素 子

最初に、20世紀になってから欧米諸国で関心の高まってきた国際関係研究の主要な研究史を概説する。

以後第1に、1950年代以降現在までの国際関係における行動主体の多様化についてできる限り具体的に現状分析をする。第2に、戦後日本の対外関係について、日米経済摩擦、東南アジア諸国に対する援助の2点を中心に、これもできる限り新しい資料をふまえながら問題の所在を理解できるようにしたい。第3に、現代の国際関係における紛争の問題について、とくに南北問題及び第3世界諸国における紛争と軍事化の構造をとりあげ、暴力と平和の問題に対する関心を深めるようにしたい。

〔教科書〕 細谷千博・臼井久和編『国際政治の世界』〔増補改訂版〕(有信堂) ¥2,800

## 西洋政治史

浦 田 早 苗

「西欧の近代化はいかにしてなされたのか」という視点から18～20世紀初頭にかけてのイギリス、フランスを中心に考察する。イギリス議会政治の発展、変貌過程、フランス市民政治の成立、変遷過程は特に関心をもってながめていきたい。

〔教科書・参考書〕 開講後、追って指示する。

## 宣伝広告論

上 條 末 夫

政治宣伝と政治的コミュニケーションの問題を主として取り上げる。政治宣伝の理論、歴史、そして実際について、具体例によって説明する。現代は宣伝の時代ともいわれ、政治も宣伝やコミュニケーションがきわめて重要な役割をもっている。主権者としての国民は、これにどう対応していくべきか、あるいは社会人として、社会および個人の関係をどう調整していくべきか、という問題を解明していきたい。

〔参考書〕 その都度指示する。

## 比較社会構造論

江 上 勲

社会構造の概念は多様であるが、本講座は国民社会を構成する経済主体が機能的分業関係を持ちながらその間に発生する階級・階層関係のパターンであるとこれを理解し、第一部においては、資本主義機構のなかで新中間階級としてのホワイトカラーの発達が資本主義の安定化をもたらしていることを国際的・統計的に解明する。第二部においては、わが国の戦前の階級対立の発生原因と実情を回顧し、これと対比して戦後の民主化政策による階級対立の緩和と中間層意識の普及を実証的に明らかにする。

〔教科書〕 開講時に指示する。

## 経営学史

北 村 健 之 助

ドイツ経営経済学(前史、成立、1・2・3次方法論争、現代の経営経済学)およびアメリカ経営学(成行管理、科学的管理法、管理過程論、行動科学的展開)等々の発展過程を現代経営学を軸に探り、経営学の基本問題に迫ることができればと思います。テキスト、参考書は一応下記に示しましたが、必要があればその都度他の参考書をお勧めする積りです。

〔教科書〕 藤芳誠一『図説 経営学』(学文社)

## 国際経営論

武 田 康

国内経営と国際経営の相違に焦点をおき、直接投資に関する諸問題の理論的側面を探究するとともに、日米両国の多国籍化の類型を歴史的視点から比較し、総合商社をはじめ、日本型国際経営の特質の解明を内容とする講

義とする。

〔教科書〕 武田 康『国際経営の基礎的諸問題』  
(白桃書房) ¥2,900

## 経営統計

後藤 儀一郎

統計学、特に推測統計学の知識は経営学あるいは経済学の分野においても広く用いられている。統計学はもはや資料の収集とそれを表や図で表すだけのものではない。不確実性と危険を含むあらゆる状況を理論的かつ組織的な方法で考察する。推測統計学の理論を学びながらそれらが実際においてどのように応用(例えば統計的品質管理、実験計画、線形計画等)されるかを、学習する。

〔参考書〕 吉野・後藤『現代統計解析』(芦書房)  
¥2,700

## 保険経営論

石名坂 邦昭

今日、日本経済は世界的な景気の停滞と貿易摩擦の激化から輸出の減少傾向となり、一方国内の個人消費、住宅投資、設備投資が伸び悩むなど景気回復に暗い材料が多い。こうした中であって高齢化問題など企業が克服しなければならないリスクが山積されている。そこで本講義においてははいかに各企業が企業危険に対処したらよいかといった観点から、リスク・マネジメントおよび保険を科学的にかつ実際の問題を取りあげながら行う。

〔教科書〕 石名坂邦昭『リスク・マネジメントの基礎』(白桃書房) ¥2,500

## 財務会計論

久松 治夫

わが国の財務会計を規制する三つの基本規定—「企業会計原則」「財務諸表規則」「商法計算書類規則」を相互に関連づけて、その基本原理と構造について講義を進める予定である。

〔教科書〕 山形休司著『財務会計総論』(中央経済社) ¥2,200

〔参考書〕 開講時に指示する。

## 経営分析論

片桐 伸夫

経営分析の方法を大略、以下の要領で講義する予定ですが、特に伝統的、基本的方法である収益性、流動性の

分析にポイントを置きます。

1. 収益性分析
2. 流動性分析
3. 生産性分析
4. 成長性分析

〔教科書〕 開講の時指示します。

## 税務会計論

高木 克己

我々が社会生活を送って行く上で、一生逃れることが出来ないものに税の問題がある。その中で特に重要な位置を占めている法人税法を中心に講義を行う。法人税法の中心課題である課税所得計算の構造を明らかにし、企業会計と税務会計の考え方や処理の違いを、広範な事例を解説しながら講義を進めて行くが、随時、我々個人の日常的な問題である所得税法についてもふれていくことにする。なお、テキスト、参考書は開講時に指示する。

## 国際経済論

永田 智則

個々の経済主体が国境を越えておこなう経済活動は、国際経済における固有の相互依存と相互対立を生みだし、さまざまな国際経済現象をひきおこす。本講義ではこれら国際経済現象の解明の手がかりの修得を目的として、国際経済の基礎理論を簡潔かつ平明に提示する。

〔参考書〕 開講時に指示する。

## 商業史

山田 勝

現代商業の生成過程を、貿易を中心に講義する。特に商人(社)を中心にすえ、現代商業との関連に留意しつつ行う。対象とする時代は欧米については16世紀以降、日本については19世紀中葉以降とする予定である。

〔教科書〕 開講時に指示する。

## 国文講読 I (上代)

佐原 作美

『万葉集』を対象として講読を行なう。

〔教科書〕 土橋 寛編『作者別 万葉集』(桜楓社)  
¥1,600

## 国文講読Ⅱ(中古)

鈴木 儀一

『清少納言枕草子』を読む。平面的解釈にとどまらずに、時代・社会の背景をも講述し、生き生きとした人間像をさがし求めて見たい。

〔教科書〕 田中重太郎『校注・枕草子』(笠間書院)

¥1,300

〔参考書〕 適宜指示する。

## 国文特講Ⅴ(近・現代)

石割 透

互いに深い関わりがあった谷崎潤一郎と芥川龍之介の小説の世界を検討していきたい。特にこの時間では、2人の初期・中期あたりまでの作品を扱おうことになる。

〔教科書〕 『刺青・少年』(新潮文庫)

『芥川龍之介全集1・2』(ちくま文庫)

## 国文講読Ⅲ(中世)

岡崎 正

世阿弥は能の大成者としてだけでなく、すぐれた演劇論芸術論の確立に貢献した人として最近高い評価を得ている。『風姿花伝』を通して、その芸術論に接してみたい。

〔教科書〕 『風姿花伝』(岩波文庫)

## 英文タイプライティングⅡ

竹内 美恵子

一年次に習得した基礎の上に、レター・各文書を中心に実務的な内容を学んでいきます。プリントしたものを課題とし、一定の時間内に文書等の処理ができるように授業を進めていきます。なお、テキストは一年次に使用したものを用意して下さい。

## 国文講読Ⅳ(近世)

清田 啓子

江戸が上方の影響から脱して独自の文芸をもち始めてからの作品で、最も江戸的(都会的)と目される黄表紙を読んでみようと思う。山東京伝を中心に、恋川春町・朋誠堂喜三二などもとりあげる予定。

〔教科書〕 延広・山本『山東京伝』(桜楓社)

¥2,000

## 時事英語

岡本 誠

その日の朝の英語ニュースを聞く。受講者はこれを機会に世の中の政治経済の動きにも関心をもつことが肝要。また当日は耳をよく掃除していただくこと。

〔教科書〕 テープ使用。

## 国文講読Ⅴ(近・現代)

大室 英爾

近代詩のなかから主に透谷、藤村、独歩、晚翠、泣菫、有明らの作品を取りあげる。作品を丹念に読み、詩史上の流れや傾向を検討しつつ鑑賞を深めたい。

〔教科書〕 各種文庫及びプリントを使用。授業開始時に指示。

## 計算機言語概論

杉田 徹

高度情報化社会と呼ばれる二十一世紀の基盤技術のひとつにコンピュータが上げられる。その利用はあらゆる分野で急速に進められている。特に通信分野、医療関係の検査診断機器には、顕著なものがある。将来、診療放射線技師を目指す諸君にとって、コンピュータの基本知識は必要不可欠なものである。この講義ではパーソナルコンピュータの高級言語であるBASICを中心に、アルゴリズム的発想の習得とその活用を目標に授業を進める。講義は次のテーマで行なう。

1. コンピュータ言語の基本理論

2. BASIC言語

3. パーソナルコンピュータ(PC-9801)による実習

〔教科書〕 戸川隼人著『PC-9801 BASIC』

(サイエンス社) ¥2,200

## 国文講読Ⅴ(近・現代)

田澤 英藏

近代詩の代表的作品を読む。近代詩の種々相に触れ、その流れを捉えることを意図する。

〔教科書〕 授業開始の時に指示する。



## 臨床放射線特論 I

本 間 襄

診療放射線技師として、わきまえてほしい外来医学用語、技術用語について講義する。

〔教科書〕 特に定めず。

## 応用計測学

小 林 久 夫

RIイメージング機器（シンチスキャナ、ガンマカメラ、ポジトロンカメラ）、X線CT装置、MRI装置、超音波診断装置等核医学を中心とした医療機器のハードウェアについて概説する。

〔参考書〕 岩井喜典編『CTスキャナ』（コロナ社）  
竹中・長谷川『医用電子診断の基礎』（オーム社）  
小林利次『超音波診断の原理と演習』（金芳堂）



# 教職および資格講座

教 職 課 程

学校図書館司書教諭講座

博物館学講座

社会福祉主事講座  
社会福祉士基礎

社会教育主事講座

※ 上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりである。(履修についての詳細は、「教職課程・資格講座の履修要項」を参照すること。)

| 課 程 ・ 講 座 名         | 資 格 取 得 学 部           |
|---------------------|-----------------------|
| 教 職 課 程             | 全 学 部                 |
| 学校図書館司書教諭講座         | 全 学 部                 |
| 博物館学講座              | 仏教学部・文学部              |
| 社会福祉主事講座<br>社会福祉士基礎 | 全 学 部                 |
| 社会教育主事講座            | 全 学 部 (62年度より仏教学部も適用) |



# 目 次

|                        |   |   |    |
|------------------------|---|---|----|
| 教育原理(磯野 昌藏)……………       | 1 | 經濟原論(小野 俊夫)……………                                | 7  |
| 教育原理(上岡 安彦)……………       | 1 | 政治学原論(福岡 政行)……………                               | 7  |
| 教育原理(北村 三子)……………       | 1 | 民法 I(山本 豊)……………                                 | 7  |
| 教育原理(坂本 信昭)……………       | 1 | 哲学特講 I(東洋)(篠原 壽雄)……………                          | 7  |
| 教育原理(村山 輝吉)……………       | 1 | 哲学特講 II(西洋)(國嶋 一則)……………                         | 8  |
| 青年心理学(大浜 幾久子)……………     | 1 | 宗教学特講 I(松田 文雄)……………                             | 8  |
| 青年心理学(岸本 弘)……………       | 1 | 宗教学特講 II(脇本 平也)……………                            | 8  |
| 青年心理学(牟田 悦子)……………      | 1 | 宗教学特講 III(洗 建)……………                             | 8  |
| 青年心理学(渡辺 三和子)……………     | 2 | 教育史(磯野 昌藏)……………                                 | 8  |
| 教育心理学(大浜 幾久子)……………     | 2 | 宗教教育(櫻井 秀雄)……………                                | 8  |
| 教育心理学(改田 明子)……………      | 2 | 教育関係法規(荒牧 重人)……………                              | 8  |
| 教育心理学(国眼 眞理子)……………     | 2 | 教育法規研究(浪本 勝年)……………                              | 8  |
| 教育心理学(中村 均)……………       | 2 | 教育評価(大浜 幾久子)……………                               | 9  |
| 教育心理学(渡辺 三和子)……………     | 2 | 生活指導(秋山 達子)……………                                | 9  |
| 道德教育の研究(上岡 安彦)……………    | 2 | 教育哲学(汐見 稔幸)……………                                | 9  |
| 教育実習(上岡 安彦)……………       | 2 | 教育調査(鈴木 規夫)……………                                | 9  |
| 教育実習(北村 三子)……………       | 3 | 現代社会の諸問題と教育(熊谷 一乗)……………                         | 9  |
| 教育実習(坂本 信昭)……………       | 3 | 教育情報学(難波 和明)……………                               | 9  |
| 教育実習(村山 輝吉)……………       | 3 | 図書館学 I(山崎 慶子)……………                              | 9  |
| 国語科教育法(神谷 道倫)……………     | 3 | 図書館学 II(源 昌久)……………                              | 10 |
| 書道科教育法(谷村 義雄)……………     | 3 | 博物館学 I(倉田 芳郎)……………                              | 10 |
| 宗教科教育法(松本 皓一)……………     | 3 | 博物館学 II(堀越 正行)……………                             | 10 |
| 英語科教育法(大沢 一雄)……………     | 3 | 博物館実習 I(館務)(倉田 芳郎・<br>太田 喜美子)……………              | 10 |
| 社会科教育法(地理)(川合 元彦)…………… | 4 | 博物館実習 II(収集)(倉田 芳郎・所 理喜夫・<br>葉貫 磨哉・太田 喜美子)…………… | 10 |
| 社会科教育法(地理)(中島 義一)…………… | 4 | 博物館実習 III(見学)(倉田 芳郎・<br>太田 喜美子)……………            | 10 |
| 社会科教育法(歴史)(野呂 肖生)…………… | 4 | 視聴覚教育(赤堀 正宜)……………                               | 10 |
| 社会科教育法(長谷部 八朗)……………    | 4 | 日本文化史 II(有元 修一)……………                            | 11 |
| 社会科教育法(谷敷 正光)……………     | 4 | 西洋文化史 I(椽川 一朗)……………                             | 11 |
| 社会科教育法(大久保 治男)……………    | 4 | 西洋文化史 II(三小田 敏雄)……………                           | 11 |
| 社会科教育法(橋爪 敏)……………      | 5 | 仏教美術(林 良一)……………                                 | 11 |
| 職業科教育法(谷敷 正光)……………     | 5 | 現代美術(宮崎 克己)……………                                | 11 |
| 商業科教育法(谷敷 正光)……………     | 5 | 禅美術(海老根 聰郎)……………                                | 11 |
| 商業実習(前田 幸一)……………       | 6 | 美術史概説(林 良一)……………                                | 11 |
| 職業指導(山田 勇治)……………       | 6 | 西域美術史(林 良一)……………                                | 11 |
| 産業概説(前田 幸一)……………       | 6 | 考古学概説 I(日本)(倉田 芳郎)……………                         | 11 |
| 世界史概説(中村 道雄)……………      | 6 | 考古学概説 II(外国)(飯島 武次)……………                        | 12 |
| 世界史概説(渡辺 惇)……………       | 6 | 考古学特講 I(高浜 秀)……………                              | 12 |
| 日本史概説(芥川 龍男)……………      | 6 | 考古学特講 III(飯島 武次)……………                           | 12 |
| 日本史概説(波田野 富信)……………     | 6 | 日本民俗学(渡邊 欣雄)……………                               | 12 |
| 地誌学概説(今朝洞 重美)……………     | 6 | 仏教民俗学(和田 謙寿)……………                               | 12 |
| 地誌学概説(長野 寛)……………       | 6 | 宗教人類学(佐々木 宏幹)……………                              | 12 |
| 地誌学概説(諏訪 哲郎)……………      | 7 | 考古発掘実習(寺社下 博)……………                              | 12 |
| 自然地理学概説(早船 元峰)……………    | 7 |   |    |
| 人文地理学概説(小林 高寿)……………    | 7 |   |    |
| 社会学原論(渡辺 源樹)……………      | 7 |   |    |

|                                       |    |
|---------------------------------------|----|
| 社会福祉原論（伊藤 秀一）                         | 12 |
| 障害者福祉論（原田 信一）                         | 13 |
| 社会福祉援助技術現場実習<br>（児童福祉施設・機関等）（高橋 重宏）   | 13 |
| 社会福祉援助技術現場実習<br>（老人福祉施設・機関等）（東條 光雅）   | 13 |
| 社会福祉援助技術現場実習<br>（障害児（者）施設・機関等）（伊藤 秀一） | 13 |
| 法 学（福祉）（小林 弘人）                        | 13 |
| 公的扶助論（伊藤 秀一）                          | 13 |
| 児童福祉論（高橋 重宏）                          | 13 |
| 老人福祉論（東條 光雅）                          | 14 |
| 社会保障論（近藤 功）                           | 14 |
| 地域福祉論（永田 幹夫）                          | 14 |
| 社会学（福祉）（星野 貞一郎）                       | 14 |
| 心理学（福祉）（井上 孝代）                        | 14 |
| 社会教育の基礎（社会教育概論）<br>（磯野 昌蔵）            | 14 |
| 社会教育計画（村山 輝吉）                         | 14 |
| 社会教育行政（長澤 成次）                         | 15 |
| 教育社会学（熊谷 一乗）                          | 15 |
| 社会心理学（坪井 健）                           | 15 |
| 社会教育施設（村山 輝吉）                         | 15 |
| 児童文化（富田 博之）                           | 15 |
| 青少年問題研究（和田 謙寿）                        | 15 |
| 青少年指導演習（和田 謙寿）                        | 16 |
| 社会教育実習（上岡 安彦）                         | 16 |
| 成人学習論（長澤 成次）                          | 16 |
| 婦人問題と社会教育（西村 由美子）                     | 16 |
| 企業内教育・職業訓練（塩川 正人）                     | 16 |
| 社会体育Ⅰ（古田 潤子）                          | 16 |
| 社会体育Ⅱ（古田 潤子）                          | 17 |

## 教育原理

磯野昌蔵

教育とは何か  
中等教育の歴史と問題  
学校教育の役割

## 12. 学びへの出発

- 〔教科書〕 田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート (エイデル研究所) ¥1,800  
〔参考書〕 教師養成研究会『教育原理』(学芸図書) ¥950  
デューイ著, 宮原誠一訳『学校と社会』(岩波文庫) ¥200

## 教育原理

上岡安彦

『エミール』(上・中・下)を年間を通して読みます。次にそこで、でてくる問題について日本の現象を例として教育学的に考察します。

そして最後に原典に直接触れ、ルソーの音楽の音色を身体で感じることにします。

- 〔教科書〕 『エミール』(上・中・下) (岩波文庫)  
上 ¥550, 中 ¥500, 下 ¥500  
〔参考書〕 周郷 博『教育学講義』(柏樹社)  
¥1,800

## 教育原理

村山輝吉

主に下村湖人の著作などを手がかりとして、人間の発達と教育、文化、社会の関わりについて原理的考察をおこない、あわせて教育の制度、形態、内容、方法のもつ意味と問題を社会的歴史的な視座からアプローチしたい。

- 〔参考書〕 『下村湖人全集』(全10巻) (国土社)  
『教育の原理Ⅰ・Ⅱ』(東大出版会)

## 教育原理

北村三子

前半は、自分達が経験してきた学校教育の性格をより広い視野から捉え直すことをめざす。後半は、『エミール』を手掛りに、近代人の自己疎外の深さに思いを至し、ルソーとともにありうべき教育像を模索する。

- 〔教科書〕 ルソー『エミール』(岩波文庫)  
上 ¥550, 中・下 ¥500

## 青年心理学

大浜幾久子

まず青年期に限らず一般に、人間の発達とは何か、について考察する。その上で青年期の様々な問題を取りあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を紹介し、解説していく。また性格テストなどの実習も行う。

## 青年心理学

岸本 弘

内外の青年心理学の研究業績を提示し、わが国の青少年をめぐる発達環境のゆがみについて考察したい。

- 〔教科書〕 『青年心理学』(くろしお出版)  
¥2,300  
〔参考書〕 『青少年期の特質と教育』(明治図書)  
¥3,200

## 教育原理

坂本信昭

下記のテーマを「問題」としてとりあげ、ともに考えていきます。

1. いま教育のめざすもの
2. ひとの適応・成長・発達
3. 家庭の役割・地域の働き
4. 人格をはぐくむ
5. 学校への期待
6. よりよい授業に向けて
7. 学習をふかめる
8. 教師を育てる
9. 教育制度をみなおす
10. 障害児とともに
11. 内なる差別を考える

## 青年心理学

牟田悦子

人間の発達の中で青年期がどのような意味をもつかを考えながら、青年期の様々な特徴を見ていく。また、現在の学校教育の中で問題になっている様々な事象に対して、各自が考え、自分なりの判断力をもつこともこの授業のねらいとしたい。

- 〔教科書〕 岸本 弘編著『青年心理学』(学文社)  
¥1,000

## 青年心理学

渡辺 三和子

大人でも子どもでもない中間的な存在の青年期は、人間の成長のなかで最も激動する時であり、それだけに中高校生を理解するのは難しくまたおもしろい。前期はこの時期の特徴を概観する。後期はおもにこの時期の精神的な病理現象をとりあげ、そこから現代の中学校・高校教育のおかれている状況と問題点について考えていきたい。

〔参考書〕 笠原 嘉『青年期』（中公新書）

## 教育心理学

大浜 幾久子

前半では、発達心理学・学習心理学・人格心理学など現代心理学の諸分野の基礎理論のうち、教育にかかわるものを解説する。後半では、学校教育を中心に、教育の現場の様々な問題をとりあげ、教育心理学的な考え方と、それに関連した最近の心理学研究を紹介、解説していく。また知能テストなどの実習も行う。

## 教育心理学

改田 明子

教育心理学の基本的な問題について、理解し、学習する。また、必要に応じて、心理検査などを実際に行ない、学習の一助とする。

〔参考書〕 講義中に、そのつど紹介する。

## 教育心理学

国眼 真理子

教育を学校教育に限定せずに、家庭、地域をも含めて心理学的にどのようなことを考慮する必要があるのかを考える。又、実際の教育現場で遭遇する青年期特有の病理現象や対人関係のあり方に関する理解を深める。

〔教科書〕 『教育心理学の世界』（福村出版）

¥1,800

## 教育心理学

中村 均

### 1. 発達

子どもはどのように大人になるか。子どもは大人とどう違うか。

### 2. 学習

どのような仕組みで学習は起こるのか。学習を促進させるにはどうしたらよいか。

### 3. 知能・学力・創造性

### 4. 人格

一人一人の違いはどうとらえればよいか。

### 5. 適応

### 6. 学級集団

学級集団はどのような役割を果たすのか。

### 7. 教育評価

## 教育心理学

渡辺 三和子

学ぶことと成長すること、学習活動とは何か、生徒を理解する方法、さまざまな授業の型、集団としての学級、学習の評価等基本的な教育心理学の考え方を学ぶ。また教育の荒廃が語られる昨今、今日の学校教育の問題点を探り、教師としてめざすべき方向について考える。

〔参考書〕 北尾倫彦・速水敏彦『わかる授業の心理学』（有斐閣選書）

## 道徳教育の研究

上岡 安彦

道徳教育の基礎理解と課題研究を行う。

〔教科書〕 『道徳教育の研究』（改訂版）（学芸図書） ¥750

## 教育実習

上岡 安彦

### 事前指導

学校の教師としての仕事について講義

学習指導案作成実習

### 訪問指導

実習期間の研究授業参加

### 事後指導

デューイの『学校と社会』によって自分の教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕 『中学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局） ¥250

『高等学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局） ¥300

デューイ『学校と社会』（岩波文庫）

¥300



## 教育実習

北村三子

教育実習前は、実習に際しての注意や心構えなどを中心とする事前指導を行ない、実習後は、現場での体験を相互に交換し、深め合いつつ、学校教育の諸問題や教師の課題などについて考え合う。

## 教育実習

坂本信昭

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容（領域）に関する講義とビデオ教材「教育実習の日々」等を視聴し、教育実習の心得などについての事前準備指導を行う。

教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。

教育実習後は、口頭報告、レポート作成一提出、グループ編成による授業（ディスカッション）を行い、教育への理解を深め、望ましい教師像について一緒に考えたいと思う。参考書は、下記以外にも授業で適宜紹介する。

- 〔参考書〕 大村はま『教えるということ』（共文社）  
¥ 480  
『中学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥ 250  
『高等学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥ 300  
田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート（エイデル研究所）¥ 1,800

## 教育実習

村山輝吉

学生が教育実習に主体的にとりくみ、教育実践について理解を深めるよう、年間を通じて次の事項を取りあげる。

1. 教育実習の意義と心がまえ
2. 学習指導について
3. 生活指導について
4. 学校と教師に関する諸問題

実習校における実習体験をはさんで、講義、討議、レポート作成、面接指導等、適宜の方法と形態で進めていく。

## 国語科教育法

神谷道倫

前期は中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、あるいは教材に即したそれぞれの指導方法等について講義、後期は実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究のあり方・指導事項・方法等主に模擬授業の形態で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

〔教科書〕 『中学校・高等学校 国語科教育法（新編）』（桜楓社）¥ 1,200

## 書道科教育法

谷村義雄

文字を書くことは誰でもできることで決してむずかしいことではない。しかし、書は中国においては四千年の歴史があり、日本においても千数百年の歴史がある。この間にいろいろな書体が出来、そしていろいろな書法が生れた。書の芸術は悠遠の歴史の中で開花したもので、現在もまた現在の書が生れつつある。書を単なる文字記号と考える浅薄な思考に対して、書のもつ思想性、民族性を十分に理解して、書とは何かを改めて問いただす授業にしたいと思う。教育法はどう教えるかではなく、なにを教えるべきかを探求する内容にしたい。

〔参考書〕 学習指導要領解説『芸術科』

## 宗教科教育法

松本皓一

宗教科教授法としての理論と実践上留意すべき諸問題を述べる。

〔教科書〕 特に指定せず。但し、講義中に教材として指定することがある。

## 英語科教育法

大沢一雄

多くの学者によって唱えられてきたいろいろな外国語教育法を検討し、わが国の英語教育において、どのような教授法を用いたらよいか、発音、語彙（い）、文法等の指導はどのようにしたらよいか、などを考える。講義は、ノートとプリントによっておこなう。

## 社会科教育法（地理）

川合元彦

社会科教育発足の背景を明らかにし、学習指導要領（社会）の変遷、社会科教育についての論争、学習指導上の諸課題などを考察し、現在進められている学習指導要領（社会）の改訂についてもとりあげる。

また、指導案の具体的な作成も行なう。

〔参考書〕 川合元彦著『生活の場の見方・考え方—地理教育演習—』（古今書院）

## 社会科教育法（地理）

中島義一

社会科（地理）教育の諸問題を講義し、後半は学生諸君に交代で壇上に立ってもらって授業演習を行う。下記教科書のほか、地図帳（高校用、中学用どちらでもよい）を忘れずに持ってくる。出席を重視する。遅刻や欠席の多い人は教師として不適格である。

〔教科書〕 山崎謹哉『新訂 地理教育の本質と実践』（古今書院）¥2,200

## 社会科教育法（歴史）

野呂肖生

「中・高等学校の現場で社会科の授業をするさいに役立つように」を目標とし、社会科教育（とくに歴史）の理論と実践を学ぶ。とくに個性を重視したい。

## 社会科教育法

長谷部八朗

教育をめぐるさまざまな今日的課題にもふれながら、社会科教育のあり方をともに考えてみたい。

前期は、社会科の性格、目標、歴史などを検討し、後期では、指導計画、指導案、教材研究、教育評価といった具体的なテーマをとりあげる予定である。

より詳しい進め方については、最初の授業で述べる。

〔教科書・参考書〕 適宜指示する。

## 社会科教育法

谷敷正光

社会科は、民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者の育成をめざす上で、重要な使命を負って誕生した

教科であり、日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし、この社会科教育も、戦後日本資本主義発展とともに大きく変遷し、動揺を続けてきた。

したがって、しっかりと社会科教育を樹立するため、単なる教授方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼって充分検討してみたい。その上で、社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。年間の授業計画は次の通りである。

①戦後日本資本主義の発展と教育、②教育の基本概念、③日本資本主義の発展と社会科教育、④社会科教育の基本概念、⑤中学校・高等学校の教育課程と社会科、⑥社会科の学習指導、⑦学習指導案の作成、⑧中学校社会科の目標・内容・取り扱い、⑨高等学校社会科の目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての社会科授業実践の研究、⑬社会科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。）

〔教科書〕 梶哲夫『中等 社会科教育研究(1)』（高陵社）

遠山啓『競争原理を超えて』（太郎次郎社）

〔参考書〕 矢川徳光『教育とは何か』（新日本出版新書）

無着成恭『山びこ学校』（角川文庫）

その他、若干のルポ、小説、社会科の教科書、中学校・高等学校学習指導要領も使用する。

〔注意〕 年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修（授業参観）などを行う予定である。視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

## 社会科教育法

大久保治男

現下山積する教育上の諸問題を意識しつつ、社会科の教科教育法のより効果的実践方法を探究する。学校教育における高校の「政治・経済」「現代社会」中学の「公民」など社会科系列の検定教科書や学習指導要領を分析しつつ社会科教育法の目標、構成、内容等について考究する。さらに具体的に指導計画、指導案、指導方法、教材研究、教育評価については、受講生をグループ別にし模擬教育実習を通じて実践させることで合目的教育方法を発見させるよう努める。OHP、スライド、8ミリ、ビデオ等視聴覚教育器械も使用しつつ一方的講義でなく受講生にも積極的に学習参加させ、将来の教師としての自覚や意欲を持たせ楽しい講義となるよう配慮する。

〔教科書〕 その都度指示する。  
〔参考書〕 『学習指導要領』（中学・高校の社会）  
各自が使用した社会関係の教科書。

## 社会科教育法

橋 爪 敏

社会科は、戦後の民主的諸改革の一環として、民主的な国民の形成を目的として設定された。したがって、単に知識の習得のみを目的とした教科ではなく、戦後教育の中心を成すものと位置付けられてきた。しかし、それも、現実の政治的状况のなかで紆余曲折し、また現在、再編が企図されつつある。そこで、社会科教師に求められる「資質」は他の教科のそれにも増して、厳しいものがあると言ってよかろう。

この授業では、こうした点を踏まえた上で、社会科教師に必要な基礎的認識や知識を習得する事を目的とする。また、模擬授業等の機会を設けて“教えること”を、実際の体験を通して学習することとしたい。

〔教科書〕 開講時に指示する。

## 職業科教育法

谷 敷 正 光

この免許の「職業科」（職業・家庭科）は、1958年に学習指導要領の改訂によって、「技術科」（技術・家庭科）が新設され、「技術科」が必修となり、これまで必修であった「職業科」は選択科目となり、現在に至っている。職業科目のことを先の中学校学習指導要領では、「農業、工業、商業、水産」と明記されていたが、今回の改訂により、「第2章第10節に示すその他特に必要な教科」となっている。

ところで、必修を従来の「職業科」から「技術科」へ変えた際、職業科担当教員にそのまま技術科を担当させ、「職業」の免許を「技術」の免許に切りかえることを文部省はしなかったため、「技術科」の多くの教員は、「職業」の免許で担当している。中学校社会科の教員採用が厳しくなっており、「職業」の免許も生きる可能性があるので、教員志望者は、「社会」と併わせて履修することが望しい。

本講は、民主的で文化的な平和国家建設のための基礎的職業教育、人格の尊厳と人間の全能力の発達を中心とした人間形成のための職業教育を中心に授業を展開する。

〔教科書〕 授業で、必要な「資料」を配布する。

〔参考書〕 『講座現代技術と教育8 技術教育の歴史と展望』（帝国地方行政学会）  
近藤大生『職業と教育』（福村出版）

## 商業科教育法

谷 敷 正 光

「産業教育」（職業教育）の一つである商業教育は、日本の資本主義をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にもなつてめまぐるしく変遷してきた。そして、高度成長期の高校教育の「多様化」政策の破綻にもなつて、商業教育は大きく軌道修正されさらに、先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、再び修正されようとしている。従って、本講は「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりとした商業教育を樹立するため、この「教科法」を商業教育の単なる技術論に終らせることなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来的な意味での商業教育論、職業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。産業教育振興中央会や全国産業教育振興会連絡協議会などから「近年、産業高等学校の専門教科の教員の確保が困難を極めており」「教員養成に一層のお力添えをお願いいたします」との要請が私学協会に行われている（67年11月）ので、しっかり勉強して欲しい。年間の授業計画は次の通りである。

①日本資本主義発展と教育・職業教育、②教育の基本概念、③職業教育、商業教育の概念、④高等学校における商業教育の現状と課題、⑤高等学校の教育課程、⑥商業科の教育課程、⑦商業科の学習指導、⑧学習指導案の作成、⑨商業教科・科目の個別目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての商業科授業実践の研究、⑬商業科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用試験について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。）

〔教科書〕 田中義雄『商業科教育論』（多賀出版）  
矢川徳光『教育とは何か』（新日本新書）

〔参考書〕 竹内 宏『日本の学歴社会は変わる』（有斐閣）

田代三良『高校生』（岩波新書）

神田 修『学校からみた教育政策』（有斐閣）

その他、商業の教科書、高等学校学習指導要領、新聞の切り抜き、雑誌、ルポ、小説なども使用する。

〔注 意〕 年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修（授業参観）などを行う予定である。視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

## 商業実習

前田 幸一

商品取引における事務手続きについて勉強をしていく。  
〔教科書・参考書〕 講義の際指示する。

## 職業指導

山田 勇治

学校における進路指導とは、中学・高校の卒業時における就職や進学の一環たる斡旋指導ではなくて、個々の生徒の発達段階に応じて、その能力・適性等を伸長し、生徒自ら望ましい進路を選択・決定させ、その後の職業生活において自己実現できるように指導し、援助する活動をいう。ところが現状では、学力などによる振り分けが横行し、本来あるべき進路指導には程遠い。

そこで、こういった学校進路指導の現状を文部省の実施した実態調査などによって明らかにしてみたい。

また、将来職業につくための準備教育、つまり職業教育についても講述する予定である。

〔教科書〕 山田勇治著『会計教育論』（創成社）  
¥1,300

〔参考書〕 近藤大生・有本 章編著『職業と教育—職業指導論—』（福村出版）¥1,500

## 産業概説

前田 幸一

日本の主要な諸産業を順次とりあげ、各産業についてその特性と歴史、現状と問題点を勉強していく。

〔参考書〕 宮沢健一・竹内 宏編『日本産業教室』（有斐閣）

日本興業銀行産業調査部編『日本産業読本』（東洋経済新報社）

## 世界史概説

中村 道雄

主にヨーロッパおよびアメリカ世界の歴史を概説する。参考書にはこの外高校時代の世界史教科書も利用される。

〔教科書〕 衣笠・田村・中村・廣實『概説西洋史』（東京創元社）

〔参考書〕 帝国書院編集部編『詳密世界史地図』（帝国書院）  
亀井・三上・林・堀末編『世界史年表』（吉川弘文館）

## 世界史概説

渡辺 惇

アジアの歴史を地域的に東アジア、東南アジア、南アジア（インド）、西アジア、内陸アジアに分け、それぞれの歴史的世界の風土、歴史展開の特色等について講義する。

〔教科書〕 特に定めず、プリント・資料を配布する。

## 日本史概説

芥川 龍男

中世に焦点をおいて講義する。講義の中で参考文献などを紹介するが、積極的に読破して欲しい。評価はレポートおよびテストなどを総合的に見て評価する。

教科書・参考書はとくに指定しない。開講時に詳細な注意事項を話します。

## 日本史概説

波田野 富信

時間数の関係から、日本史全般を各分野にわたって講ずることは不可能に近いから、日本の歴史の流れの中からそれぞれ重要事項をとりあげて理解してもらう。従って各々がそれぞれに前もって予習をしてきて欲しい。

〔参考書〕 『新稿 日本史概論』（吉川弘文館）  
¥1,500

## 地誌学概説

今朝洞 重美

地誌学の本質を説明しつつ、日本地誌と外国地誌を講義する。

## 地誌学概説

長野 覚

世界的視野において地理学の発達・概念を理解したのち、現代世界の地域特色を、自然環境やそれと関連性をもつ人文現象について考察する。

後期には幾つかの国を対象に、その国の地誌を学習する。受講にさいしては、できるだけ地図帳を併用してほしい。

〔教科書〕 藤岡謙二郎共著『世界地誌』〔改訂版〕  
(大明堂)

## 地誌学概説

諏訪哲郎

地誌および地誌学の概要を述べたあと、具体例として中国を取り上げ、地誌の役割りと地誌学的研究の有効性を理解してもらおうと考えている。

〔教科書〕 諏訪哲郎編『現代中国の構図』(古今書院)

## 自然地理学概説

早船元峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について講じ、人間と自然とのかかわりあいについて論じる。

さらに受講生に2.5万分の1、5万分の1の地形図を用意(10枚程度)させ、それらをもとに種々な作業(土地利用図・切峰面図・帯状平行投影地形断面図等を作成)をさせてより一層の理解を深めさせる。トレース紙・方眼紙・色鉛筆・黒インク等各人用意すること。

## 人文地理学概説

小林高寿

歴史学は時間の経過を追って、人間の作り出した社会構造と人間心理に迫ってゆくが、地理学は空間の中に人文現象と、人間の認識される範囲の自然現象を追求し、説明する。人文地理学は従って常に歴史現象と歴史学とに交錯しつつ、人文現象に対する学的究明を深め、拡大しつつ、空間のもつ意味を固定的にでなく、究明しようとする。それ故にそこで扱われる素材は多様となる。

かくの如くして、本講においては、人文地理学の多様性をしっかりと受けとめ、将来の教職の現場にあって、応用のきく学問を勉強させようとする。

環境としての自然の基礎的理解、歴史学と地理学の交錯分野にまで、講義の内容が及ぶのは必然である。

〔教科書〕 長谷川典夫『教養のための地理学トピックス』(大明堂) ¥2,800

〔参考書〕 高校用地図帳(アトラス)と、二宮書店地理統計。

## 社会学原論

渡辺源樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点をふまえ、つとめて人間の存在・行動の問題と関らしめながら、集

団論・組織論などを中心として基礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、現代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体的に講述する。

## 経済原論

小野俊夫

いわゆる近代経済学の立場から、近年の学問的成果をも考慮し、現代経済学の基本を解説し、複雑な現代経済を理解しうる力を養うことを目ざす。

〔教科書〕 開講の際に指示する。

## 政治学原論

福岡政行

本講座は政治学全体の理論的位置づけを行うもので、多角的に分析を行う。

行政国家=福祉国家=大衆社会という今日的状況の下で、議会デモクラシーをどのように理解するのが重要なポイントになる。システム分析・文化論的アプローチ・社会化理論などを中心に、前期は理論的分析を中心に行う。

後期は、政治学のかかえる今日的課題について、応用科学としての政治学原論と考え、講義を進めてゆく。

〔教科書〕 『現代政治分析理論』(早大出版)  
¥2,500 (その他追って指示。)

## 民法 I

山本豊

民法財産法の前半部分、すなわち民法総則と物権法についての概論的講義を行う。具体例や判例をできるだけ多く取り上げて説明するつもりであるが、受講に際しては、予めテキスト等で予習をしてくることを期待したい。参考書等は開講時に指示する。

〔教科書〕 好美清光・米倉明編『民法読本1』  
(有斐閣) ¥1,600

## 哲学特講 I (東洋)

篠原壽雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかを受容されたかなどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。ついで荘子を

学び、併せて中国禪思想を考究したい。  
〔教科書〕『莊子』〔内篇冊〕（中公文庫）

### 哲学特講Ⅱ（西洋）

國嶋一則

人間は、何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常、われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは、自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって、現代世界の有力な主義を明確にし、自己の持つべき主義を選択する手掛りとしてほしい。

〔参考書〕 その都度示す。

### 宗教学特講Ⅰ

松田文雄

——宗教思想および用語の概説——、特に教職単位であることを考慮し、宗教思想の潮流、および宗教思想史上の基本的用語を概説する。今年度は日本仏教を取り上げる。

〔参考書〕 随時指示する。

### 宗教学特講Ⅱ

脇本平也

——宗教学説史——経験科学としての宗教学の成立と展開を、問題中心に学説史的にあとづけてみる。

参考文献をその都度指示する。

### 宗教学特講Ⅲ

洗建

現代社会における宗教の問題、とりわけ政教関係の問題をとりあげる。国家と宗教の関係を規定する法制度とその価値規範、更に底流をなす宗教文化との関係について考察する。

〔参考書〕 適時指示する。

### 教育史

磯野昌蔵

わが国における青年期教育の発達を検討する。

### 宗教教育

櫻井秀雄

宗教教育の原理を究明し、できるだけ実証的な調査資料によって宗教意識をさぐり、これに対する具体的方法について考察し、家庭・学校・社会教育のそれぞれにおける宗教教育の意義と実際を研究する。

〔教科書〕 日本宗教学会「宗教と教育に関する委員会」編『宗教教育の理論と実際』（鈴木出版（株））1985.10 ¥5,800

### 教育関係法規

荒牧重人

現在さまざまな形態で生じている教育問題を視野に入れながら、憲法・教育基本法・学校教育法を中心に、教育関係法規を概説します。なお、年間プランは最初の講義のときに示す予定です。

〔参考書〕『解説 教育六法』（昭和64年版）（三省堂）

### 教育法規研究

浪本勝年

現代の学校教育は、公的な制度によって高度に組織化されている。したがって、学校をよりよく理解するためには、どうしても教育に関する法規についての学習が不可欠となる。特に今年度は、教育職員免許法・教育公務員特例法の「改正」も予想されており、教員養成問題は、新たな事態を迎えることとなる。

この時間は、これから教職をめざす学生諸君が、ぜひとも身につけておくべき教育法規の基礎知識の修得に力点を置いて研究を進める。その際、現実の教育政策の動向（臨時教育審議会・教育職員養成審議会・教育課程審議会の答申など）にも注目しつつ学習する。したがって、結果として教員採用試験（選考）にも役立であろう。

〔教科書〕 浪本勝年著『教育内容行政の限界』（北樹出版）¥1,800  
志村欣一ほか編『ハンディ教育六法』（泰流社）¥1,000

〔参考書〕 兼子 仁・神田 修編『教育法規事典』  
(北樹出版) ¥2,000

## 教育 評価

大 浜 幾久子

生徒の発達を正しく測定し、評価することは、本来、教師の教育実践の中で重要な仕事である。教師は、評価を通して、生徒のつまづきを発見し、自らの実践を反省する。また生徒も、評価を手がかりとして、以後の自分の学習の方向を考える。ところが、教育評価ということばかりから多くの人々がまず思い浮かべるのは、学力テスト・偏差値・通信簿・内申書等であり、これらは、大多数の父母・教師そして生徒にとって、今日の学校教育の矛盾の象徴として映っている。では、教育評価の本来の機能をとりもどすにはどうしたらよいのだろうか。教育評価の理論の歴史をたどり、また教育測定・評価の技法を実習を含めて学ぶことにより、この問題を考えていく。

〔参考書〕 ピアジェ、秋枝茂夫訳『教育の未来』  
(法政大学出版局) ¥1,300

## 生活 指導

秋 山 達 子

現代のおとなたちが、おとなの合理的な考えで、子どもたちへの対策を考えれば考えるほど、結果は逆になるような気がします。

想像力も育てずに自立させられてしまう子どもたちは、自分の不満や抑圧された本能的衝動の結果を、既成の学問の理論を借りて説明し、その解釈ですべてを割り切って、その中に逃げこみ、実際に自分の心に問い直すことにしていないのではないのでしょうか。

〔参考書〕 秋山さと子『ユング心理学』(講談社現代新書)

## 教育 哲学

汐 見 稔 幸

今年度も、講義参加者といっしょに何点か児童文学作品を読み合いたいと考えている。最近の子ども・青年の意識や要求の世界を深く知るためには、従来からの心理学だけでなく心の科学としての精神分析学や精神医学などからも学ばねばならないし、すぐれた文学、児童文学作品からも学ぶことが必要である。児童文学の批評はすでに多方面から行なわれているが、教育学の側からの批評は十分ではない。今年度の講義はその意味で児童文学作品の教育学的批評というテーマになろう。形式としてはゼミ形式を考えている。四年生が例年多いので、開き

方については参加者と相談して決めたい。  
テキストも一回目の授業で決める。

## 教育 調査

鈴 木 規 夫

教育調査あるいは社会調査における基本的なプロセスを概説すると共に調査に不可欠なデータの解析法について分かり易く解説する。特に、身近な教育データを利用し、そのデータの分析を通して科学的思考を養い、分析の結果について独断的な判断に陥らないよう、データに対する理解を深め、データに接する際の謙虚な姿勢を養う。なお、パソコンを使った実習も含めていく。

## 現代社会の諸問題と教育

熊 谷 一 乗

現代の社会は、技術の革新、高度化にともなって激しく変化し、益々複雑化し、しかも緊急に解決を要する難問を次ぎから次ぎに引き起こしている。こうした社会の動向と問題は、教育の在り方に強く影響し、教育に新たな対応を迫ってくる。講義では、次ぎのようなテーマを設定して現代社会を特徴づける諸問題と教育との関係を検討する。

(1)ハイテク化と教育 (2)情報化と教育 (3)国際化と教育 (4)高齢化と教育 (5)環境問題と教育 (6)人権問題と教育 (7)女性の職場進出と教育 (8)競争社会(自由化)と教育 (9)社会変動と教育改革

〔教科書〕 講義要旨および資料のコピー配布。

〔参考書〕 教室で指示。

## 教育 情報学

難 波 和 明

パソコンによる実習によってコンピュータはどのような道具かを紹介するとともに、CAI、CMI、コンピュータ・リテラシーなど、コンピュータと教育に関する話題を扱いながら、情報化時代の教育について考えていく。

## 図 書 館 学 I

山 崎 慶 子

児童・生徒の学習活動や教養・趣味を豊かにするには教科書の他に各種の資料を必要とする。最も有効適切な資料は何か、どうしたらそれらをすべての生徒に提供できるか。増大する一方の出版物や各種の情報が溢れる現

代社会において、それを選択し活用する力を高めるにはどうしたらよいか。また人間形成に役立つ読書のあり方などの追求を、教育の場の中心ともいうべき学校図書館活動として考察していきたい。さらに生涯教育の場である公立図書館の使命や役割への理解を深めようになりたい。

前期の講義内容は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」を、後期は「学校図書館の利用指導」と「読書指導」である。

〔教科書〕 図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』（学芸図書）

## 図書館学Ⅱ

源 昌久

この講義においては、司書教諭の資格を修得する上で必要な諸科目の内、主として資料組織法（分類法・目録法）について論じる。前期には分類法、後期には目録法を講じ、各々の概念的フレーム・ワーク、基本的規則およびコンピュータとの関連等について言及する。開講時に詳しいシラバスおよび目録法の教科書を示す。

〔教科書〕 日本図書館協会分類委員会改訂【編集】『日本十進分類法 新訂8版』（日本図書館協会）

## 博物館学Ⅰ

倉田 芳郎

学芸員課程の必修科目であり、社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ（見学）」ならびに「実習Ⅳ（特講）」と有機的に関連をもたせるので、同年度に併せて受講していただきたい。また、後期は午後いっぱい使って見学を行うことになるので、時間割を組むうえで、各自研究してもらいたい。なるべく2～3年生の時に受けておくことが望ましい。4年生で受けると、学芸員資格を卒業時に取得するのは難しいかもしれない。本講義は博物館の基本のみを講ずるので、2単位である。社教主事の資格を取得しようとする方は、「博物館学Ⅱ」（2単位）も履修することが必要である。受講方法について、誤りの無いようにしたいので、4月第1週の時間は必ず出席すること。

## 博物館学Ⅱ

堀 越 正 行

博物館とはどのようなところであるのかを、建物の維持・管理から多様な学芸員の仕事の内容や必要な能力まで、歴史系博物館の現場の体験を通した具体的な事例を

示しながら話をすすめ、博物館や学芸員のあるべき姿を考えていく。

## 博物館実習Ⅰ（館務）

倉田 芳郎・太田 喜美子

博物館で10日間以上、学芸員の指導により実習を行なう。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり、無条件に、誰でも履修できるわけではないので、年度第1週のこの科目の時間に必ず出席すること。欠席した場合は来年度履修することになる。

## 博物館実習Ⅱ（収集）

倉田 芳郎・所 理喜夫  
葉貫 磨哉・太田 喜美子

学芸員課程の必修科目である。詳しくは、年度第1週の講義時間に話すので、必ず出席すること。実習の種類・時期は下記の子定である。このうちの、1つを履修すればよい。

1. 考古学発掘調査 7月中旬から8月中旬
2. 民俗調査 8月下旬と2月中旬
3. 文書・石仏調査 9月下旬
4. 石仏調査 10月上旬
5. 遺跡分布調査 2月中下旬

## 博物館実習Ⅲ（見学）

倉田 芳郎・太田 喜美子

学芸員課程の必修科目である。都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足である。そのため、現場で学芸員の方のご講義を承り、博物館運営上の諸問題について考えたい。実習の組分けを決定する関係上、今年度履修しようとする学生は、必ず4月第1週に出席すること。

## 視聴覚教育

赤 堀 正 宜

学校教育や社会教育における視聴覚教材やコンピュータ通信等のニューメディアの利用について考える。

学校教育番組や社会教育番組の利用は、教育方法・内容の革新とつながり、教育工学の一部となっている。視聴覚教育の原理・具体的な利用方法、その教育的効果を明らかにしていく。

〔参考書〕 大内茂男・中野照海他編『視聴覚教育の理論と研究』（日本放送教育協会）



## 日本文化史Ⅱ

有元修一

日本文化の多様な流れを概観するとともにその特色をあきらかにする。本年は特に中世後半から近世を中心とする。

〔参考書〕 家永三郎著『日本文化史 第2版』  
(岩波新書)

## 西洋文化史Ⅰ

椽川一朗

西洋都市の歴史、とくにドイツ中世都市の歴史を、社会構造の面から考え、現代の都市問題の参考になるよう、講述する。

## 西洋文化史Ⅱ

三小田敏雄

今年度は中世ヨーロッパの文化を学んで行く。近年我国の歴史家にも中世ヨーロッパを専門とする人がふえ、中世を見直す機運が高まってきた。そして人々の生活や文化を通して中世を裏から解明する多くの好著が出版されている。しかし表の歴史、つまり政治・経済の歴史を抜きにしては裏の歴史も理解できない。教室ではその両面を関連させながら中世ヨーロッパを理解することを目的とする。

〔教科書〕 堀越孝一・三浦一郎『中世ヨーロッパ』  
〔教養文庫〕(社会思想社) ¥400  
木村尚三郎編『中世ヨーロッパ』  
(有斐閣新書) ¥800

## 仏教美術

林良一

インドにおける古代初期よりガンダーラ期の仏像成立にいたるまでの展開および仏教美術の図像学について講述する。寺院の遺跡や仏菩薩等の尊像を、現地撮影のカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

〔教科書〕 林良一著『ガンダーラ美術紀行』(時事通信社) ¥2,200  
〔参考書〕 林良一『シルクロード』(時事通信社)

## 現代美術

宮崎克己

19世紀、20世紀の西洋絵画について、様々な角度から考える。絵画の造形表現の問題(色彩、空間など)、表現内容の問題(象徴性、思想など)、社会的問題(展覧会の形式、ジャーナリズムとの関係など)等を、代表的作品を選んで具体的に論ずる。

受講者には適宜、美術館、展覧会の見学、およびレポートの提出を要求する。

## 禅美術

海老根聰郎

日本の中世時代(鎌倉、南北朝、室町時代)の絵画の流れを述べる。(スライド使用)

## 美術史概説

林良一

中国の南北朝より朝鮮の三国時代を経て、わが国の飛鳥期の仏教彫刻にいたる様式的展開について講述する。各地の寺院遺跡や遺品などのカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

## 西域美術史

林良一

アフガニスタンより東西のトルキスタンにいたる西域美術を、仏教美術の東伝を中心に、各地の遺跡および遺品について講述する。現地の遺構や遺品のカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

〔教科書〕 林良一著『ガンダーラ美術紀行』(時事通信社) ¥2,200  
〔参考書〕 林良一『シルクロード』(時事通信社)

## 考古学概説Ⅰ(日本)

倉田芳郎

日本考古学研究のための基礎知識について講義する。年度第1週目の授業には、必ず出席してほしい。

## 考古学概説Ⅱ(外国)

飯島 武次

東洋考古学の概説を講義する。

〔参考書〕 江上波夫監修『考古学セミナー』  
(山川出版社) 1976年 ¥2,800

## 考古学特講Ⅰ

高 浜 秀

ハンガリーから中国の北方オルドス地方に至るユーラシア北方草原地帯では、紀元前1000年紀に青銅器時代から初期鉄器時代へ移行すると共に、紀元前8～7世紀頃、スキタイ系騎馬遊牧民文化、あるいは初期遊牧民文化と総称される一連の文化が興った。講義では、これらの文化を概観する。

## 考古学特講Ⅲ

飯島 武次

周文化の考古学的研究について。

## 日本民俗学

渡 邊 欣 雄

私の民俗学という視野から、民俗学を論じ民俗学の扱う題材について紹介する。本講義は決して日本民俗学の概論講義ではないから、注意を要する。対象とする文化は主として日本本土ではなく、沖縄・台湾・香港・マレーシア等の南方であり、題材は寮・風水・鬼魂観・社会関係に及ぶ。

〔教科書〕 とくに用いず。

〔参考書〕 渡邊欣雄著『沖縄の社会組織と世界観』  
(新泉社) ¥8,000  
渡邊欣雄著『沖縄の祭祀』(第一書房)  
¥3,800

## 仏教民俗学

和田 謙 寿

集會や通夜・法事などに臨んだ際、必ず仏事などに関する質問を受けることがある。葬送習俗や靈魂に関する事柄、法名のつけ方や焼香の仕方、墓の建て方や年忌供養のしきり、時には寺院の成立とその発展過程、野ぼとけの由来や伝説など、その質問の内容も色々である。

このような時、相手に納得のつくような説明が出来たらさぞかし喜んでもらえる事であろう。このような時の心構えとして是非とも仏教民俗学の知識を身につけて置くことにしよう。住職をはじめ、郷土史や文化財の研究に従事しようとする者にとっては必須の学問であると言える。

〔教科書〕 和田謙寿著『仏教葬送習俗の研究』(仏教民俗研究会発行) ¥2,300

〔参考書〕 和田謙寿著『仏教の地域発展』(仏教民俗研究会発行) ¥2,900

## 宗教人類学

佐々木 宏 幹

アニミズム、アニマティズム、シャーマニズム、妖術、邪術、死霊・祖霊崇拜など宗教的諸形態をめぐる理論や学説を紹介するとともに、これら諸形態が、日本を含むアジア各地の現代の文化・社会のなかでどのような位置と役割をもっているかについて考察する。スライドを用い具体的に進める。

〔参考書〕 佐々木宏幹『シャーマニズム』(中央公論社) ¥520

## 考古発掘実習

寺社下 博

野外における考古発掘実習を行なう。20日間以上参加することが必要である。年度始めの講義時間に必ず出席のこと。

〔教科書〕 文化庁文化財保護部『埋蔵文化財発掘調査の手びき』(財団法人地理協会)

## 社会福祉原論

伊 藤 秀 一

本講では、受講生がこれから社会福祉を学ぶ者であることに留意しつつ、まず、社会福祉の概念を整理することから始めたい。

次いで、社会福祉の生成過程、制度的なしくみ、各分野の現状に論及する。

さらに、社会福祉の今日的課題を講述し、一応の体系的な把握に努めたい。

〔教科書〕 仲村優一著『社会福祉概論』(誠信書房) ¥1,500

## 障害者福祉論

原田 信 一

わが国の障害者福祉の発展過程をその淵源に溯りつつ体系的に講ずる。内容面では、人権の認識を基盤においた正当性のある障害者観、そして今後、激動化によって惹起が予測される障害者問題発生メカニズムを究明すると同時に、また、その対応方法、さらに政策、処遇のあり方などに加え、欧米先進諸国における障害者福祉との対比から、わが国の障害者福祉に見直しを必要とする新たな課題構築点などに重点をおき講じたい。

〔教科書〕 星野・藤村・原田・井田編『障害福祉論入門』〔改訂版〕（有斐閣）

〔参考書〕 (1) 原田・春見・佐藤著『新しい社会福祉の理論』（高文堂）  
(2) 原田・吉田編『心身障害児（者）の心理・教育・福祉』（文化書房博文社）

## 社会福祉援助技術現場実習 （児童福祉施設・機関等）

高橋 重 宏

本実習は、「社会福祉士」国家試験受験資格の取得に必要な指定科目の一つである。

具体的には「社会福祉士養成のための社会福祉援助技術現場実習指導マニュアル」にもとづいて展開することになる。

なお、本科目は、前年度末に学科が実施する試験に合格し、担当教員が許可した、児童・家族福祉分野を専攻する学生20人が履修できる。

## 社会福祉援助技術現場実習 （老人福祉施設・機関等）

東 條 光 雅

本実習は、「社会福祉士」国家試験受験資格の取得に必要な指定科目の一つである。

具体的には、「社会福祉士養成のための社会福祉援助技術現場実習指導マニュアル」に基づいて展開することになる。

なお、本実習は、前年度末に学科が実施した試験に合格し、かつ、担当教員が許可した、老人福祉分野ならびに福祉事務所等での実習を希望する学生が履修できる。履修定員は20人である。

## 社会福祉援助技術現場実習 （障害児（者）施設・機関等）

伊 藤 秀 一

本実習は、「社会福祉士」国家試験受験資格の取得に必要な指定科目の一つである。実習の具体的展開内容は、「社会福祉士養成のための社会福祉援助技術現場実習指

導マニュアル」に基づいて行うことになる。

なお、本実習は、前年度末に学科が実施した選考試験に合格し、かつ、担当教員が許可した、障害児・者福祉分野での実習を希望する学生が履修できる。履修定員は20人である。

## 法 学（福祉）

小 林 弘 人

本講義は、教科書『社会福祉のための法入門』を使用して、憲法25条を具体化する社会福祉・社会保障に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。

その他、諸般のことがらについては、講義初日に説明する。

〔教科書〕 小林弘人編著『社会福祉のための法入門』（川島書店）¥2,000

〔参考書〕 小川政亮著『社会事業法制』（第2版）（ミネルヴァ書房）¥2,500

## 公 的 扶 助 論

伊 藤 秀 一

本講の中心的なテーマは、わが国の生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。

講義内容としては、上述した問題意識のもとに、以下の項目について講じていく予定である。

1. わが国の生活保護制度の動向
2. 海外の動向
3. 権利意識と福祉政策の推進
4. 貧困の測定

なお、テキスト等については開講時に指示する。

## 児 童 福 祉 論

高 橋 重 宏

現代社会における児童をめぐる社会的諸問題、児童福祉の概念、児童福祉の歩み、法律による児童福祉（児童福祉法等）、自発的な児童福祉活動、運動等について概説し、児童福祉サービスの現状と、現代的課題について、一応の体系的理解ができるようにつとめたい。

〔教科書〕 高橋重宏・江幡玲子編著『児童福祉を考える』（川島書店）¥1,700

山根常男監修、本村 汎・高橋重宏編『家族と福祉の未来』（全国社会福祉協議会）¥2,000

〔参考書〕 全国社会福祉協議会編『1986・87年度版児童福祉年報』（全国社会福祉協議会）¥2,300

## 老人福祉論

東條光雅

人口の急速な高齢化が進む中、家族形態・機能の核家族化と相まって、老後問題に対する社会的関心が非常に高まっている。老後問題は、今後一層の深刻化が予想されるが、これに対処すべき老人福祉施策はまだ不十分な状況である。わが国においては、約半世紀後に超高齢化社会の到来が予測されるわけであるが、現状改善という視点からだけでなく、長期的な展望と広い視座から老人福祉対策の在り方を考えてゆくことが必要である。

本講では、老人福祉対策の歴史の変遷はもとより、現状認識を深め、今後の老人福祉サービスを考える上で重要な老人を取り巻く社会的諸状況の変化や、関連する制度・政策についても理解が得られるよう講じてゆきたい。

〔参考書〕 冷水 豊・浅野 仁・宮崎昭夫編『老人福祉』（海声社）¥1,400

## 社会保障論

近藤 功

社会保障は、憲法第25条に規定する国民の生存権の保障のための重要な政策体系であり、国政において、優れて高い地位を与えられている。

この社会保障について、欧米諸国を含め、歴史的発展過程、体系、財政、国際比較等を検討し、その問題点を明らかにする。

特に、わが国の社会保障について、その主要な部門としての所得保障（年金保険、公的扶助、児童手当等）、医療保障（健康保険等）その他について、制度の現状及び課題を講じる。

〔教科書〕 小沼 正・地主重美・保坂哲哉編『社会保障概論』（川島書店）

〔参考書〕 開講時に指示する。

## 地域福祉論

永田幹夫

今日における急速な社会福祉改革の方向を示すものとして1970年代以降に登場したのが現代的意味での地域福祉論である。地域福祉の概念およびその支柱たる在宅福祉サービス提供システムの開発と地域組織化・福祉組織化等の方法論に関する基礎理論を實踐動向に即して論究し、地域福祉の全容把握をはかりたい。

〔教科書・参考書〕 追って指示する。

## 社会学（福祉）

星野貞一郎

社会福祉関係の専門職業を志す学生のための社会学講義を目ざしたい。そこで社会学の基礎的概念を応用してクライアント（個人）の理解からはじめて、社会福祉施設の一局面である小集団の吟味、家族の変容と扶養機能に焦点をあてながら、いま問われている家族福祉の視点を取り上げる。また社会福祉の組織とそこで働く人びとの問題を官僚制、専門職性にかかわらせて取り上げる。さらに地域社会の分析視角から地域福祉の枠組の整理ならびに保健と医療、解体地域の問題を取り上げ、そのうえ今日の課題となっている生活福祉環境等の問題に社会学的にアプローチする。

〔教科書〕 星野貞一郎・渡辺武男編『福祉社会学』（ミネルヴァ書房）¥2,400

## 心理学（福祉）

井上孝代

さまざまな心理的、社会的条件を有する個人と環境との相互作用に関する基礎的知識、および個人が社会環境との間により良い適応をもたらすに必要な具体的方法について講義する。

内容については、心理的、社会的問題の解決にあたって、地域社会の資源の活用などの環境的要因のみならず、クライアントのパーソナリティや動機、情緒的ニードといった人間行動の心理的要因や対人関係における技法……ケースワーク、グループワークなどの実際の技法を含むものである。

## 社会教育の基礎（社会教育概論）

磯野昌蔵

社会教育とは何かを次の諸点から検討する。

- 社会教育制度
- 学校教育と社会教育
- 社会教育関係団体

## 社会教育計画

村山輝吉

社会教育主事として社会教育計画を立てるに際して必要な事項について基礎的な理解を図る。社会教育の対象の理解と組織化、地域社会と社会教育、社会教育調査とデータの活用、社会教育事業計画、学習情報の提供と学

習相談、社会教育と広報・広聴、社会教育施設の経営、社会教育の評価等が主な内容となる。

〔教科書〕 碓井正久・倉内史郎編著『新社会教育』  
(学文社) ¥2,000

## 社会教育行政

長澤成次

戦後社会教育行政の基本を憲法・教育基本法そして社会教育法の構造的連関のもとで捉えと共に、国民の学習・文化・スポーツ権を生涯にわたって保障する社会教育行政の今日的課題を考察する。

〔教科書〕 その都度指示する。

〔参考書〕 社会教育推進全国協議会編『改訂 社会教育ハンドブック』(エイデル研究所) 1984年  
小川利夫編『社会教育の法と行政』〔講座現代社会教育IV〕(垂紀書房) 1987年

## 教育社会学

熊谷一乗

教育は、社会の状態とダイナミックに深く連動して行われる人間形成のいとなみであり、それ自体、一つの社会現象である。多くの難問をかかえ複雑な様相をみせる現代の教育を正しく理解するためには、教育と経済・政治・文化・地域・家族などの社会事象との関係、教育が行われる過程の社会的力学、教育それ自体の社会的性質を充分に知ることが必要となる。そのような観点から次ぎのような事項について講義する。(1)子どもの発達と社会 (2)集団の力学と教育 (3)教育と政治・経済・地域との関係 (4)学校と子どもの発達。

〔教科書〕 熊谷一乗『子どもの発達と社会-教育社会学の基礎』(東信堂) ¥2,700

## 社会心理学

坪井健

社会心理学は、元来、社会学と心理学の境界領域にある現象を研究対象としてきた。従って、社会学的アプローチと心理学的アプローチが並存しており、必ずしも統一されたものになっていない。

本講義は、個人の心理(行動)に影響を与える社会的諸条件に関心を持つ心理学的アプローチにも留意しつつ、現実の社会における人々の心理(行動)に関心を持ち、社会過程を重視する社会学的アプローチを基調にして、社会生活をしている人々の社会心理諸現象の分析的な解明を目的としたい。

〔教科書〕 穴田義孝編『こころ・行動そして社会』  
(人間の科学社)

## 社会教育施設

村山輝吉

1. 社会教育施設とは何か
2. 社会教育施設にかかわる人々
3. 公民館
4. 図書館
5. 博物館
6. 社会体育施設
7. その他の社会教育施設・関連施設
8. 社会教育施設をめぐる動向と課題

〔参考書〕 小林文人編『公民館・図書館・博物館』  
〔講座・現代社会教育 第6巻〕(垂紀書房)

## 児童文化

富田博之

児童青少年の人間形成における「児童文化」の意義と役割、および主としてわが国の児童文化の成立過程(歴史)と現状を探り、併せて児童文化や社会教育の現場で働く人たちのための基礎的実習を行なう。

児童文化の歴史では、児童青少年のためのコミュニケーション・メディアの発達史を扱い、その現状では、現代文化における児童文化の実態と、児童青少年の生活や形成に及ぼす影響について考える。

実習では、身体とことばによる表現とコミュニケーションの方法の基礎を学習する。

〔参考書〕 日本演劇教育連盟編『もっと朗読を——美しい日本語のために』(晩成書房) ¥880

## 青少年問題研究

和田謙寿

校内暴力や家庭内暴力・いじめ、薬物乱用など、年々青少年の不良化や犯罪が増加していることは誠になげかわしい次第である。国家や地方公共団体はこれに対応して万全の策をつくしているが、焼石に水の現状である。この種の問題は理論だけで済ませられるものではなく、実際のな面からの考察が必要である。今年には特に中学校および高等学校の教師をめざす者、ならびに青少年指導者を志す人々を対象として、その理論と現実との両者をつめて考察する事にする。更に生活指導教諭を希望する者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるもの

一方法として考えられるので、その旨を授業のはじめに申し込まれる事を希望する。

〔教科書〕 和田謙寿著『少年補導の研究』（全防連）  
¥1,200

## 青少年指導演習

和田 謙 寿

将来、青少年指導者を希望する者、つまり、社会教育主事や社会福祉主事、少年指導委員・補導教諭などの業務に従事しようとする人々には是非とも必要な講座である。本年は少年の非行問題を中心に授業を展開して行きたいと思う。特に教師になった場合は専攻をした学問は当然のこと、受持ち生徒の生活指導にも多大の比重で尽くさねばならぬので、非行対策の問題は重要な課題となる。

更に少年の問題に興味を持ち、研究しようと心掛ける者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一つの方法であろう。

## 社会教育実習

上 岡 安 彦

事前指導

社会教育分野の活動について講義

実習期間

社会教育施設訪問指導

事後指導

ジェルビ『生涯教育』によって自分の社会教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕 『社会教育行政必携』〔昭和64年度版〕  
（第一法規）予価 ¥3,500  
ジェルビ『生涯教育』（東京創元社）  
¥1,500

## 成人学習論

長 澤 成 次

今日、我が国における生涯学習論の一環としての成人学習論は、生涯にわたる自己教育への権利の観点から積極的に構想されなければならないと同時に、臨教審教育改革のもとでの「生涯学習」概念の矛盾的性格も明らかにするものでなくてはならない。

本稿は、「学習権なくしては、人間の発達はいりえない」とした第4回パリ国際成人教育会議の「学習権」宣言採択（1985年）の国際的動向もふまえて、成人学習論の今日的到達点と課題を明らかにする。なお、今、各地で実践されている自分史・生活史学習にも触れる。

〔参考書〕 小川利夫編『生涯学習と公民館』（重紀書房）1987年  
横山 宏編『成人の学習としての自分史』（国土社）1987年

## 婦人問題と社会教育

西 村 由 美 子

性差別の問題としての「婦人問題」に、社会教育とのかかわりに注目しながらアプローチする。この問題の解決に学習が重要であるとされるのは何故か。現代日本の学習者たちはどのような問題状況におかれているのか。社会教育での学習は問題を解決しうるのか等の諸点について、理論から実際の活動事例までを具体的に検討する。

〔参考書〕 随時指示する。

## 企業内教育・職業訓練

塩 川 正 人

「企業は人なり」と言われます。企業が今取り組んでいる最重要戦略のひとつが「企業人教育」です。その理由は、嵐の時代ともいえる現代を生き抜く道は、人づくりなしにありえないからです。

本講義は、各種の企業のさまざまな人の育て方を、実証的に学び、学生諸君に企業の生きた姿を紹介したい。

講師自身が経営教育コンサルタントとして、今実践している企業人教育の事例と理論を生かし、大学と企業の間には橋をかける講義を、討論や対話も入れて展開したい。

〔教科書〕 塩川正人著『MTS 総力経営』（日本能率協会）¥1,000

## 社会体育 I

古 田 潤 子

野口三千三氏の理論と方法論を基にして、私なりの考え方や方法を加味したものです。

“人間のからだはどうあるべきか” “いいからだとはどういうのか” “それにはどうしたらよいか”ということ動きを通じて考え、行動できるからだづくりを行います。

「社会体育 I・II」は必ず対で履修すること。

〔参考書〕 野口三千三『原初生命体としての人間』（三笠書房）¥980

## 社会体育Ⅱ

古田潤子

立つ・寝る・歩く等あらゆる姿勢に於て、地球の表面と接触しているからだの最下部に全体重を任せきることのできる能力と感覚を身につけます。

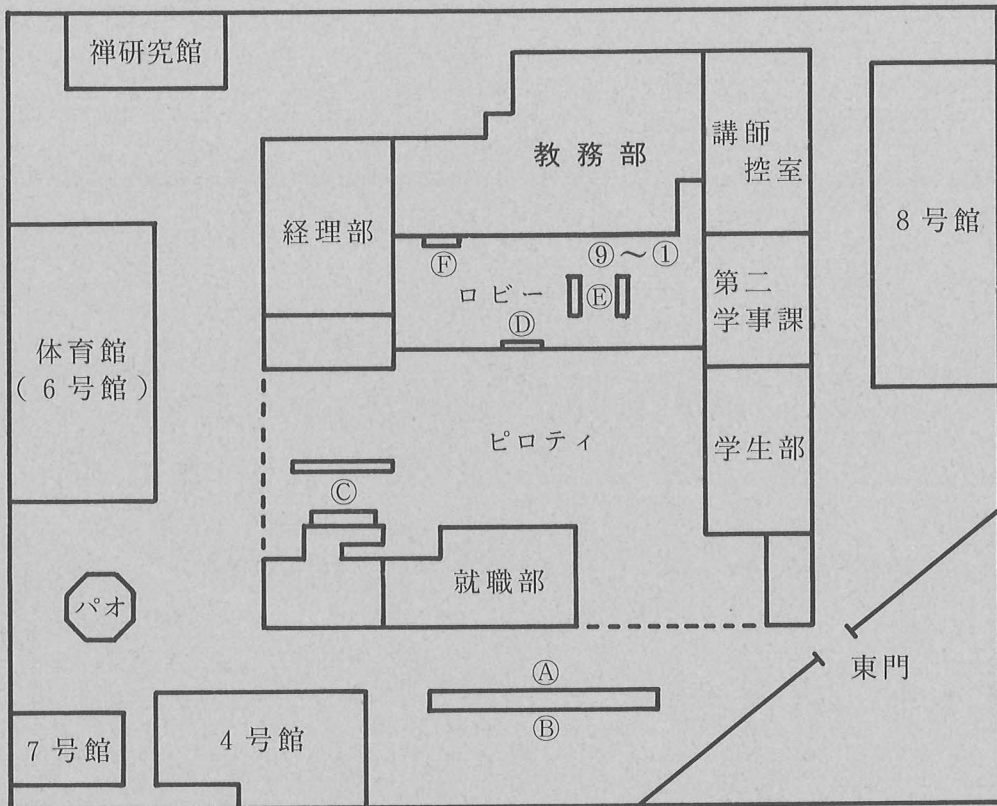
動きと呼吸との関係、人間の動きと道具との関係、効率のいい力の使い方……等について動きながらたしかめて自己発見していきます。

「社会体育Ⅰ・Ⅱ」は必ず対で履修すること。





## 教務部窓口（本部棟 1階）および掲示板案内



### ①教職課程

学校図書館司書教諭講座

### ②博物館学講座

社会福祉主事講座

社会教育主事講座

### ④証明書（教務関係）申込受付・発行

＜健康診断書および在学証明書は学生部＞

※ 諸証明書申込用紙は経理部前にあります。

### ⑤諸届願

（休学・復学・退学・死亡  
改氏名・本籍地変更・保証人変更  
保証人住所変更・聴講）

### ⑥大学院関係・留学生関係

学部演習（仏教学部・経済学部）  
法学部・経営学部）

卒業論文（仏教学部・文学部）

### ⑦時間割変更・休講・外国語指定届

卒業証書・転部転科

### ⑨履修・試験・成績・学業相談

### ①第1掲示板（表面）

公示・告示，学生部関係連絡事項，  
教務部関係（試験・教職・研究室等）連絡事項，  
その他

### ②第2掲示板（裏面）—臨時掲示板—

教務部関係連絡事項（12月～3月），  
就職部関係連絡事項（9月～11月）

### ③第3掲示板—臨時掲示板—

教務部関係連絡事項（12月～3月），  
就職部関係連絡事項（9月～11月）

### ④休講掲示板

### ⑤授業時間表カウンター

### ⑥大学院・留学生関係掲示板

